

I 普通作物

1. 水稻

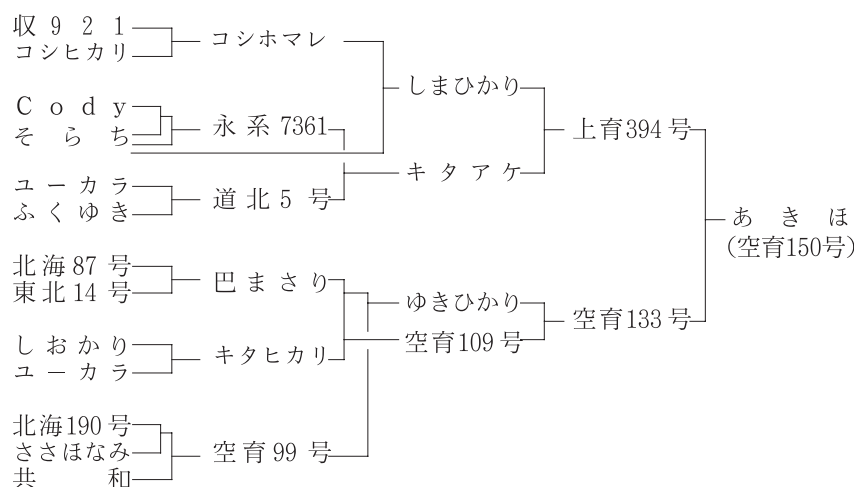
< 梗 種 >

(1) あきほ (系統名 空育150号) 1996年

登録番号：(北海道) 水稻北海道うるち第46号
(種苗法) 第7646号

セールスポイント

耐冷，良質，良食味で，割粃が少ない。



特性概要

1. 稈長はほぼ「ゆきひかり」および「きらら397」並で，穂長は「ゆきひかり」並ないしやや短い。穂数は「ゆきひかり」より多く，草型は穂数型である。ふ先に稀に短芒を有し，穎色及びふ先色は黄白で，粒着密度は両品種並の中である。割粃の発生は「ゆきひかり」並に少ない。
2. 出穂期は，ほぼ「ゆきひかり」並の中生の早である。成熟期は，「ゆきひかり」並の中生の早である。
3. 障害型耐冷性は「ゆきひかり」並の強である。いもち病真性抵抗性は $Pi-a, i$ と推定され，いもち病耐病性は葉いもち，穂いもちとも「きらら397」並のやや強である。耐倒伏性は「ゆきひかり」並の中である。収量は，「ゆきひかり」を若干上回り「きらら397」と同程度である。

来歴 本品種は，1988年に北海道立中央農業試験場において，良質，良食味，耐冷，耐病性品種の育成を目標として，「上育394号」を母，「空育133号」を父として人工交配を行い，その雑種後代から育成された。1991年に「空系91380」，1993年より「空育150号」の系統名で各種試験を行い，1996年に優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。

4. 玄米の粒形は「きらら397」並のやや長，粒大は中である。粒厚は「きらら397」より薄く，玄米品質は「きらら397」並の上下上である。白米のアミロース含有率，蛋白含有率は両品種並で，食味は総合的にみて「きらら397」並である。

栽培適地と奨励態度

上川（士別以南），留萌中南部，空知，石狩，後志，日高，胆振，渡島，檜山及びこれに準ずる地帯で「ゆきひかり」の大半及び「きらら397」の一部に置き換えて栽培する。

栽培上の注意事項は，耐倒伏性が「ゆきひかり」並で不十分なため「北海道施肥標準」を守る。また，「ゆきひかり」，「きらら397」に比べ，乾物重/草丈が小さくなる場合があるので，徒長苗にならないように，育苗基準を遵守し育苗管理に留意する。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
中 央 農 試	あ き ほ	8. 7	9.22	59	16.7	473	474	106	22.3	1下	1993~1995
	ゆきひかり	8. 5	9.22	55	16.8	441	448	100	21.1	2上	
	きらら397	8. 9	9.25	59	16.2	528	454	101	23.0	2中上	

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上 川 農 試	あ き ほ	7.31	9.18	66	16.7	685	521	103	20.6	1 下	1993~1995
	ゆきひかり	8. 4	9.22	69	17.4	619	508	100	19.6	1中下	
	きらら397	8. 1	9.20	62	15.8	684	517	102	21.6	1中下	
道 南 農 試	あ き ほ	7.31	9.14	69	17.1	587	464	92	21.3	1	1994~1995
	ゆきひかり	8. 2	9.20	73	17.2	529	507	100	20.5	1下	
	きらら397	7.31	9.17	68	16.2	615	502	99	22.1	1	
遺伝資源センター	あ き ほ	8. 4	9.20	59	16.9	576	392	103	21.9	3上	1993~1995
	ゆきひかり	8. 2	9.21	56	16.1	558	382	100	21.3	3中上	
	きらら397	8. 6	9.24	58	16.5	589	376	98	21.4	3中上	
北 海 道 農 試	あ き ほ	8. 8	9.25	71	17.5	547	553	106	21.9	2 上	1993~1995
	ゆきひかり	8. 9	9.26	73	18.1	532	521	100	20.8	2	
	きらら397	8. 8	9.26	67	16.4	605	473	87	22.2	1下	

注) 中苗標準施肥栽培の成績。ただし、北海道農試は成苗標準施肥栽培の成績。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-5 (1996).
2) 佐々木忠雄 等, 北海道立農試集報, 72, 69-83 (1997).

(2) ほしのゆめ (系統名 上育418号) 1996年

登録番号: (北海道) 水稲北海道うるち第47号
(農水省) 水稲農林340号
(種苗法) 第7645号

セールスポイント

食味が良く、障害型耐冷性が強い。

来歴 本品種は、1998年に北海道立上川農業試験場において、良食味・耐冷性品種の育成を目標に、「あきたこまち」と「道北48号」のF₁を母とし、「きらら397」を父として人工交配を行った雑種後代から育成されたもので、1991年より「上系 91340」、1993年より「上育 418号」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

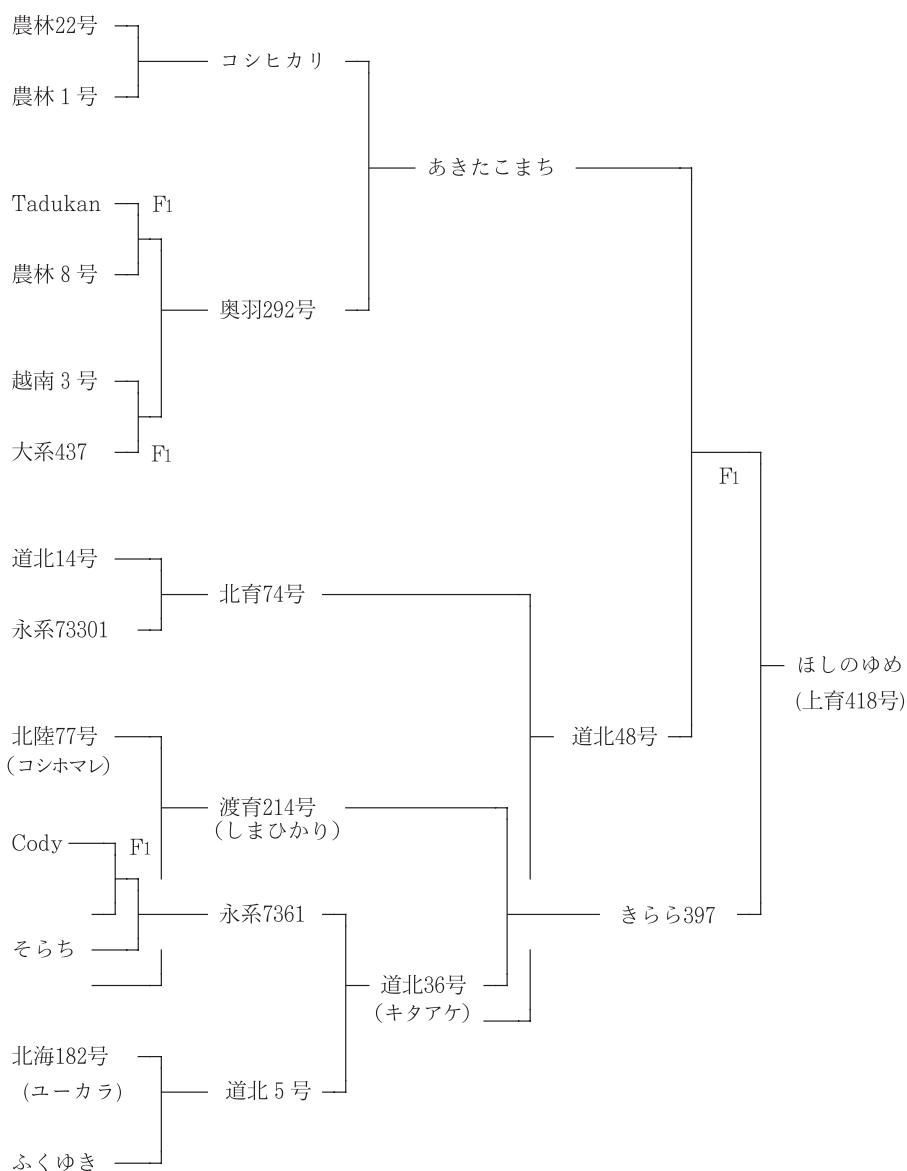
1. 稈長は「ゆきひかり」より短く、「きらら 397」より長い。穂長は「ゆきひかり」より短く、「きらら 397」よりやや短い。穂数は「ゆきひかり」、「きらら 397」より多く、草型は穂数型である。
2. ふ先に少短芒を生じ、穎色、ふ先色は黄白である。粒着密度は中、脱粒性は難で、割粃は「ゆきひかり」、「きらら 397」より多い。
3. 出穂期は「ゆきひかり」より早く、「きらら 397」

並の中生の早、成熟期は「ゆきひかり」、「きらら397」よりやや早い中生の早である。

4. 障害型耐冷性は「ゆきひかり」よりやや強い強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は*Pia, i, k*と推定され、葉、穂いもち圃場抵抗性ともに「きらら 397」、「ゆきひかり」に劣り、それぞれ弱、やや弱である。
5. 玄米収量は「きらら397」にやや劣る。
6. 梗種で、玄米の粒長はやや長、玄米千粒重は「ゆきひかり」より重く、「きらら 397」より軽い。玄米品質は上下で、食味は「ゆきひかり」、「きらら 397」より安定して良好である。

栽培適地と奨励態度

上川(土別以南)、留萌(中南部)、空知、石狩、後志、日高、胆振、渡島および檜山各支庁管内に「きらら397」の一部および「ゆきひかり」の一部に換えて栽培する。栽培上の注意は、耐倒伏性が不十分なので、「北海道施肥標準」を守り、多窒素栽培は厳に慎む。中生種としては、いもち病抵抗性が不十分なので、発生予察に留意し適正防除を徹底する。割粃の発生が多いので、斑点米や紅変米などの被害粒発生による品質低下を招かぬよう病害虫の適正な防除に努めるとともに、綿密な圃場管理や適期の刈取りを励行する。種子生産にあたっては、脱ぶ粒が発生しやすいので、種子の取扱い注意事項に十分留意する。



試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上 川 農 試	ほしのゆめ	8. 1	9.17	65	15.1	762	506	98	20.6	1下	1993~1995
	きらら397	8. 1	9.20	62	15.8	684	517	100	21.6	1中下	
	ゆきひかり	8. 4	9.22	69	17.4	619	508	98	19.6	1中下	
遺伝資源センター	ほしのゆめ	8. 6	9.20	61	16.1	618	392	104	21.5	3上	1993~1995
	きらら397	8. 6	9.24	58	16.5	589	376	100	22.2	3中上	
	ゆきひかり	8. 2	9.21	56	16.1	558	382	102	20.5	3中上	
中 央 農 試	ほしのゆめ	8. 8	9.23	59	15.8	504	464	102	22.5	1下	1993~1995
	きらら397	8. 9	9.25	59	16.2	528	454	100	23.0	2中上	
	ゆきひかり	8. 5	9.22	55	16.8	441	448	99	21.1	2上	
道 南 農 試	ほしのゆめ	8. 6	9.14	66	15.8	598	481	96	21.3	1	1993~1995
	きらら397	8. 6	9.17	63	15.8	610	502	100	22.1	1	
	ゆきひかり	8. 8	9.20	68	17.1	524	507	101	20.5	1下	

注1) 中苗標準施肥栽培の成績。

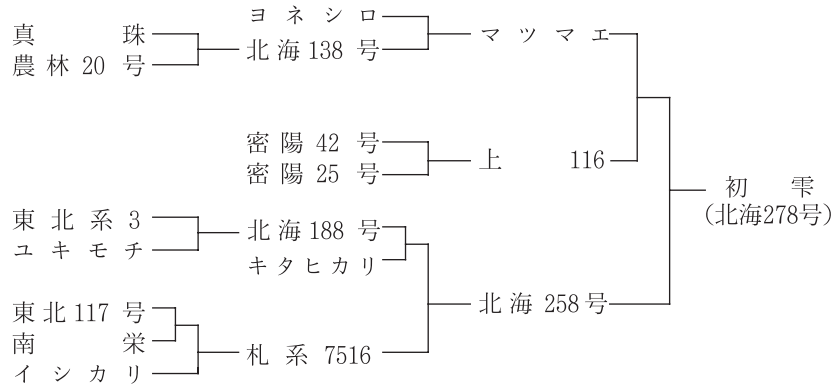
注2) 道南農試の成熟期, 玄米重, 左比, 千粒重, 等級は1994, 1995年の平均値。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 5-10 (1996).
 2) 新橋 登 等, 北海道立農試集報. 84, 1-12 (2003).

- (3) 初雫（系統名 北海278号）1998年
 登録番号：（北海道）水稲北海道うち第48号
 （農水省）水稲農林354号
 （種苗法）第7815号

セールスポイント

耐冷性が極強で、多収、大粒の酒造好適米である。



来歴 本品種は、1987年に農林水産省北海道農業試験場において、耐冷性・多収品種の育成を目標として、「マツマエ」と「上116」の雑種第1代を母、「北海258号」を父として、人工交配した雑種後代から育成された。1992年より「札幌系92104」、1994年より「北海278号」の系統名で各種試験を行い、1998年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. 稈長は「きらら397」より長く、穂数は「きらら397」より少なく、草型は中間型に属する。穂長は「きらら397」と同程度で、粒着密度はやや密である。籾は、稀に短芒を生じ、ふ先色、穎色とも黄白である。
2. 出穂期は「きらら397」と同程度、成熟期は3日程度早い、中生の早である。成熟期における止葉の葉身は立ち、草姿は良好である。
3. 障害型耐冷性は極強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は*Pi-k*と推定され、葉いもち圃場抵抗性はやや強、穂いもち圃場抵抗性は中である。耐倒伏性は中～やや強である。収量性は「きらら397」より高い。
4. 玄米の外観品質は、腹白、乳白および心白の発現は少、色沢はやや濃く中上程度である。玄米の粒厚は「きらら397」より厚く、千粒重は同品種より重く、やや大粒である。
5. カリ含有率は「きらら397」、「ゆきひかり」よりやや高く、鉄含有率は同程度である。精米時の碎米率は

「きらら397」と同程度である。白米の吸水速度はやや遅く、消化性はやや劣るが、フォルモール窒素は「きらら397」より低い。製麴性はさばけが良く、はぜ込みも良好であり、「きらら397」に優る。製成酒の酸度、アミノ酸度は低く、製成酒の官能評価は淡麗で辛口の傾向を示し良好である。

栽培適地と奨励態度

上川（土別以南）、留萌（中南部）、空知、石狩、後志、日高、胆振、渡島及び松山支庁管内の低蛋白米生産が可能な良地帯において、酒造原料米として「きらら397」の一部および「ゆきひかり」の一部に替えて栽培する。

栽培上の注意は、苗が徒長しやすいので育苗管理に留意し、酒造品質の低下を防ぐために多窒素栽培を避ける。割籾の発生が多いので、斑点米や紅変米などの被害粒発生による品質低下を招かないよう病害虫の適正な防除に努める。胴割米が発生しやすいので、適期の刈取りを励行するとともに収穫物の乾燥調整には十分留意する。

試験場名	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当たり		玄米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
北海道農試	初雫	8.5	9.23	73	17.0	451	586	108	24.1	2中上	1994~1997
	きらら397	8.6	9.26	69	16.2	540	545	100	22.6	1中下	
	ゆきひかり	8.5	9.22	73	17.8	482	564	103	21.2	1下	
中央農試	初雫	8.4	9.24	62	15.8	389	493	98	25.4	2中	1994~1997
	きらら397	8.7	9.26	62	16.4	497	501	100	23.6	1中下	
	ゆきひかり	8.3	9.22	57	16.8	415	471	94	21.7	1中下	
上川農試	初雫	7.30	9.17	71	16.4	570	604	109	23.0	2中上	1994~1997
	きらら397	7.29	9.20	64	16.3	700	553	100	21.6	1下	
	ゆきひかり	8.2	9.22	73	17.4	620	542	98	19.6	1下	

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
道 南 農 試	初 雫	8. 3	9.17	73	16.3	510	547	104	23.5	2中	1994～1997
	きらら397	8. 2	9.23	68	16.2	609	526	100	22.2	1中下	
	ゆきひかり	8. 4	9.26	61	17.2	554	539	102	20.7	2上	
遺伝資源センター	初 雫	7.31	9.17	64	16.1	499	507	95	23.8	2下	1994～1997
	きらら397	8. 1	9.20	63	16.7	633	533	100	21.8	2中上	
	ゆきひかり	8. 1	9.17	61	16.7	560	499	94	21.6	2上	

注) 中苗標準施肥栽培の成績。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-4 (1998).
2) 荒木 均 等, 北海道農研研報, 174,83-97(2002).

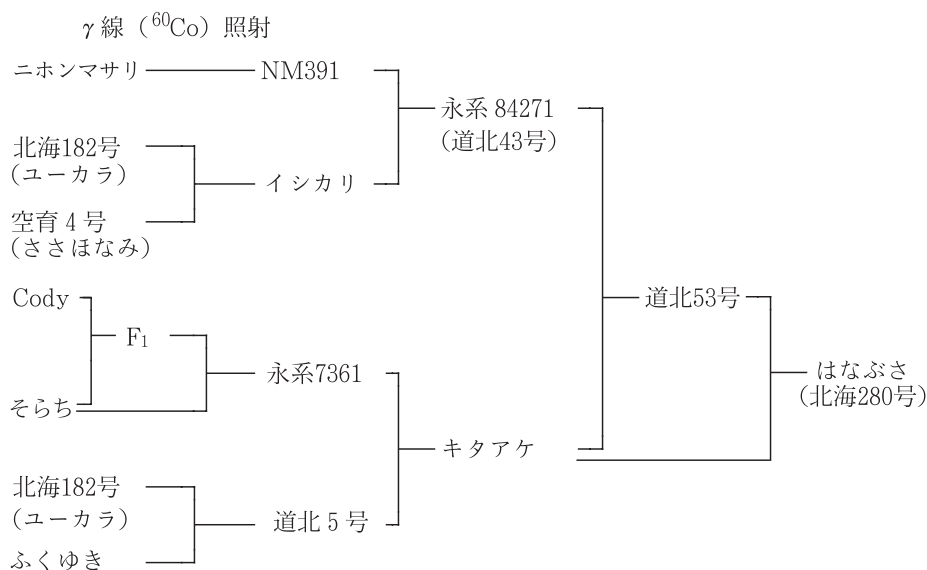
(4) はなぶさ (系統名 北海280号) 1998年

登録番号: (北海道) 水稻北海道うち第49号
(農水省) 水稻農林355号
(種苗法) 第9785号

来歴 本品種は, 1989年に農林水産省北海道農業試験場において, 「道北53号」を母, 「キタアケ」を父として人工交配を行い育成したもので, 1993年より「札系93148」, 1995年から「北海280号」の系統名で各種の試験を行い, 1998年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。

セールスポイント

低アミロース米で炊飯米の粘りが強く, 良食味である。
また, 米菓等での加工適性が優れる。



特性概要

1. 稈長, 穂長とも「彩」, 「きらら397」と同程度で, 穂数は両品種より少なく, 草型は偏穂数型である。
2. 粒着密度は中であり, 籾は稀に短芒を生じ, 穎色およびふ先色は黄白, 割籾の発生は「きらら397」と同程度か少なく, 「彩」よりやや多い。
3. 出穂期および成熟期はともに中生の早に属する。
4. 障害型耐冷性はやや強～強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は *Pia.k* と推定され, いもち病の圃場抵抗性は葉いもちはやや強, 穂いもちは中, 耐倒伏性は中～やや強である。

5. 玄米収量は「きらら397」よりやや劣るが, 「彩」に比べるとやや優る。
6. 粳種で粒形, 粒大, 粒重はともに中。腹白, 心白, 乳白等の発生は少ないが, 色沢が濃く, 光沢が中程度で, 玄米品質は中上。食味は「彩」に比べ白度, つやが劣るが, 総合評価は同程度である。

栽培適地と奨励態度

上川 (士別以南), 留萌 (中南部), 空知, 石狩, 後志, 日高, 胆振, 渡島, 檜山支庁管内およびこれに準ずる良地帯に適応する。これらの地帯の「彩」のすべて, 「き

らら397」の一部に替えて栽培する。栽培上の注意は、初期生育が劣るので、健苗育成、適正植え付け本数の確保などにより生育の促進を図る。適期移植により出穂を

早め、登熟温度を確保する。紅変米の発生がやや多いので適正防除に努めるとともに適期刈取りを励行する。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
北海道農試	はなぶさ	8. 9	9.28	70	16.7	465	535	110	22.4	2上	1995～1997
	彩	8.14	10. 7	69	16.5	469	488	100	23.1	2中	
	きらら397	8. 8	10. 1	69	16.3	488	524	107	22.7	1下	
上川農試	はなぶさ	7.30	9.20	69	16.2	695	543	116	20.1	2上	1995～1997
	彩	8. 5	9.27	71	15.7	643	469	100	21.1	2下	
	きらら397	7.30	9.24	67	16.7	714	593	126	21.4	2上	
中央農試	はなぶさ	8. 9	9.30	61	16.1	460	463	120	23.0	2中	1995～1997
	彩	8.14	10. 5	61	16.9	490	387	100	23.3	3中	
	きらら397	8.10	10. 2	63	16.5	516	499	129	23.6	1下	
遺伝資源センター	はなぶさ	8. 3	9.20	65	16.1	629	488	108	21.6	2下	1995～1997
	彩	8. 9	9.26	65	16.7	626	451	100	22.2	3中	
	きらら397	8. 4	9.23	64	16.7	639	511	113	22.2	2中	
道南農試	はなぶさ	8. 5	9.27	71	15.9	545	512	104	21.6	2上	1995～1997
	彩	8. 9	10. 3	70	16.5	553	494	100	22.9	2下	
	きらら397	8. 4	9.29	68	16.0	601	521	105	22.4	1下	

注) 中苗標準施肥栽培の成績。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 5-8 (1998).
2) 荒木 均 等, 北海道農業研究センター研究報告, 174, 69-81 (2002).

(5) 吟風 (系統名 空育158号) 2000年

登録番号: (北海道) 水稲北海道うるち第50号
(種苗法) 第9789号

セールスポイント

いもち病に強く、大粒で心白発現良好な酒造好適米である。

来歴 本品種は、1990年に北海道立中央農業試験場において、道内栽培向酒造好適品種の育成を目標に、「八反錦2号」と「上育404号」の雑種第1代を母、「きらら397」を父として、人工交配した雑種後代から育成された。1994年に「空系94362」、1996年より「空育158号」の系統名で各種試験を行い、2000年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. 稈長は「きらら397」、「初雫」並、穂長は「初雫」より長く「きらら397」並、穂数は「きらら397」より少なく「初雫」並で、草型は中間型である。ふ色およびふ先色は黄白で、稀に短芒を有する。割粃の発生は

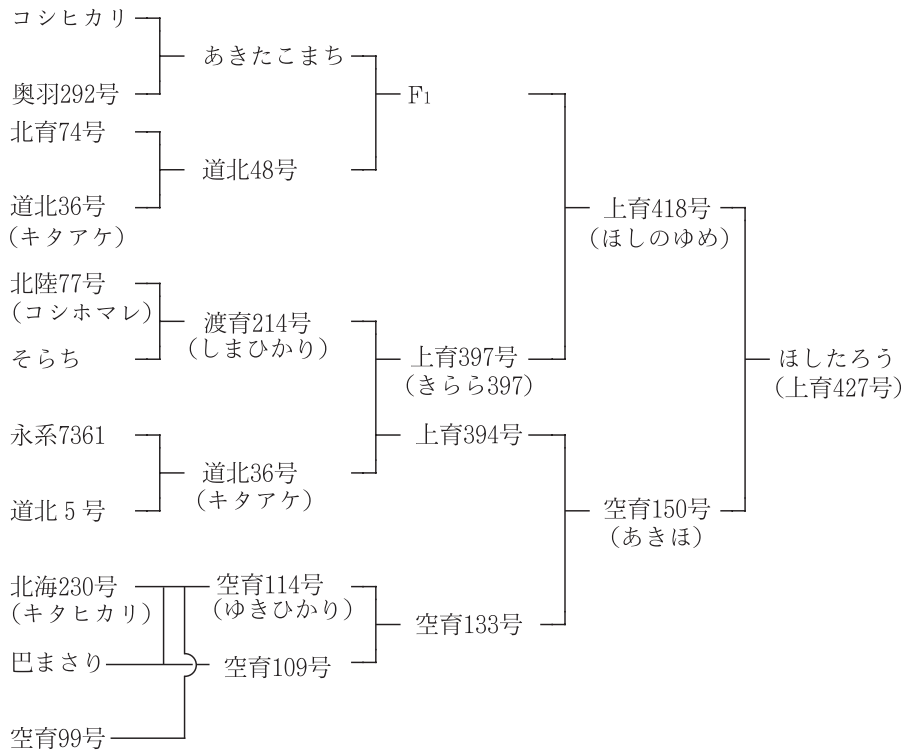
両品種より少ない。

- 出穂期は「きらら397」より早い中生の早、成熟期は「初雫」より遅い中生の早である。
- 障害型耐冷性は「初雫」に劣り、「きらら397」に比べやや劣るやや強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は*Pi-tk*と推定され、いもち病の圃場抵抗性は、両品種に優り、葉いもちが強で、穂いもちはやや強である。耐倒伏性は両品種に優るやや強～強である。収量は「初雫」「きらら397」並である。
- 玄米の粒形は中、大きさは「初雫」より大きいやや大である。千粒重は「きらら397」より重く、「初雫」並で、心白を多く発現し、腹白の発生がやや多く、玄米品質は「きらら397」に劣り「初雫」と同じ上下である。
- 白米の蛋白質含有率は「きらら397」「初雫」よりやや高い。カリ含有率は「初雫」より低く、「きらら397」並である。酒造適性は、高度精米時の碎米率がやや低く、白米の吸水速度が速く、消化性が良い。酒母やもろみにおける溶解性が良く、原料処理、蒸米および製麴作業性が良好である。

- (6) ほしたろう (系統名 上育427号) 2000年
 登録番号：(北海道) 水稲北海道うるち第51号
 (農水省) 水稲農林368号
 (種苗法) 第11231号

セールスポイント

早生，やや多収で，「ほしのゆめ」に近い良食味米である。



来歴 本品種は，1993年に北海道立上川農業試験場において，「上育418号」(ほしのゆめ)を母，「空育150号」(あきほ)を父として人工交配を行い育成したもので，1997年から「上育427号」の系統名で各種の試験を行い，2000年に優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. 稈長は「あきほ」，「きらら397」並で，「ほしのゆめ」よりやや短い。穂長は「あきほ」，「きらら397」よりやや短く，「ほしのゆめ」並である。穂数は「あきほ」，「きらら397」および「ほしのゆめ」より多く，草型は穂数型である。
2. ふ先に稀に短芒を生じ，穎色，ふ先色は黄白，粒着密度は中，割粃の発生は「きらら397」，「あきほ」より多いが，「ほしのゆめ」よりは少ない。
3. 出穂期は，ほぼ「あきほ」，「きらら397」，「ほしのゆめ」並の中生の早で，成熟期は「きらら397」よりも早く「あきほ」並の早生の晩である。
4. 障害型冷害に対する抵抗性はやや強～強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は*Pia,i,k*と推定され，いもち病圃場抵抗性は葉いもちはやや弱，穂いもちはやや弱～中，耐倒伏性はやや弱～中である。
5. 玄米収量は「あきほ」，「ほしのゆめ」に優り，「きらら397」にはやや劣る。

6. 食味は，「あきほ」に明らかに優り，「きらら397」に比べてもやや優り，ほぼ「ほしのゆめ」に近い良食味である。

栽培適地と奨励態度

上川 (風連以南)，留萌 (中南部)，空知，石狩，後志，日高，胆振，渡島および檜山各支庁管内の「きらら397」と「あきほ」の一部に置き換えて栽培する。栽培上の注意は，割粃の発生が多いので，斑点米や紅変米などの被害粒発生による品質低下を招かぬよう病害虫防除を適正に行うとともに，適期刈取りを励行する。種子生産に際しても，割粃が多い場合は脱ぶ粒が発生しやすいので，種子の取扱い注意事項に十分留意する。いもち病抵抗性が不十分なので，発生予察に留意し，適正防除を徹底する。耐倒伏性が不十分なので，「北海道施肥基準」を守り，多窒素栽培は厳に慎む。「あきほ」に比べて障害型耐冷性がやや劣るので，深水灌漑を励行する。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上 川 農 試	ほしたろう	7.28	9.13	65	16.2	801	59.0	103	21.9	2上	1997~1999
	あ き ほ	7.27	9.14	66	17.4	710	57.3	100	21.4	1中下	
	きらら397	7.28	9.18	64	16.5	742	61.4	107	22.1	2上	
	ほしのゆめ	7.28	9.15	66	16.1	778	57.9	101	21.5	2上	
中 央 農 試	ほしたろう	8. 3	9.22	63	16.1	622	50.8	102	23.3	1中下	1997~1999
	あ き ほ	8. 1	9.21	63	17.0	540	49.7	100	22.5	2上	
	きらら397	8. 3	9.27	62	16.9	565	52.4	105	23.4	1下	
	ほしのゆめ	8. 2	9.23	65	15.9	579	48.7	98	22.6	2上	
遺伝資源センター	ほしたろう	8. 2	9.18	64	15.7	738	50.2	98	23.0	1中下	1997~1998
	あ き ほ	8. 1	9.18	65	16.4	665	51.0	100	22.5	1下	
	きらら397	8. 2	9.21	63	16.5	707	56.3	110	22.8	1中下	
	ほしのゆめ	8. 1	9.18	66	15.9	686	49.4	97	22.1	1中下	
道 南 農 試	ほしたろう	7.31	9.19	67	16.3	555	52.0	107	22.2	1中下	1997~1999
	あ き ほ	7.30	9.18	68	17.0	539	48.6	100	21.8	1中下	
	きらら397	8. 1	9.22	65	16.2	596	52.5	108	22.4	1中下	
	ほしのゆめ	7.31	9.18	70	15.8	625	49.6	102	21.5	1下	
北 海 道 農 試	ほしたろう	8. 2	9.17	67	16.2	537	54.9	100	23.1	1中	1997~1999
	あ き ほ	8. 1	9.17	68	17.1	497	54.7	100	22.8	1中	
	きらら397	8. 2	9.20	65	16.4	503	53.0	97	23.4	1中下	
	ほしのゆめ	8. 2	9.20	69	15.7	502	53.6	98	22.9	1中下	

注) 中苗標準施肥栽培の成績。中央農試は1997、1998年が成苗ポット、1999年は紙筒中苗。

参照 1) 北海道農政部編，平成12年普及奨励ならびに指導参考事項，1-5 (2000)。

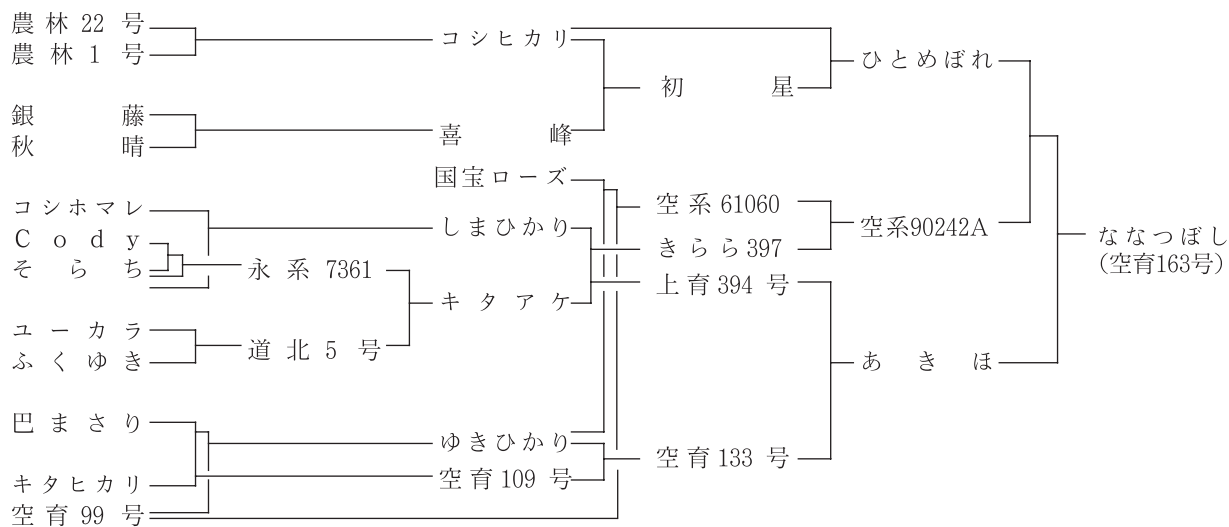
(7) ななつぼし (系統名 空育163号) 2001年

登録番号：(北海道) 水稲北海道うるち第52号
(種苗法) 第12272号

セールスポイント

良食味で，耐冷性が強く，収量性がやや高い。

来歴 本品種は，1993年に北海道立中央農業試験場において，良質良食味品種の育成を目標に，「ひとめぼれ」と「空系90242A」の雑種第1代を母，「空育150号」（あきほ）を父として行われた人工交配の組合せから，薬培養法により育成された。1995年に「空系95263」，1998年より「空育163号」の系統名で各種試験を行い，2001年に優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「きらら397」「ほしのゆめ」よりやや長く、穂長は「ほしのゆめ」より長く「きらら397」並、穂数は両品種より少なく、草型は偏穂数型で、穂揃いが両品種よりやや劣る。ふ色及びふ先色は黄白で、ふ先に短芒を少程度有する。割刈の発生は「きらら397」より多く「ほしのゆめ」より少ない。
2. 出穂期、成熟期は「ほしのゆめ」よりやや遅く「きらら397」並の中生の早である。
3. 障害型耐冷性は「きらら397」に優る強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は*Pi-a, i*と推定され、いもち病の圃場抵抗性は、葉いもちが「ほしのゆめ」に優り「きらら397」と同じやや弱で、穂いもちは「きらら397」より劣り「ほしのゆめ」と同じやや弱である。耐倒伏性は、両品種に劣るやや弱である。収量は「ほしのゆめ」に優り、「きらら397」並からやや優る。
4. 玄米の粒形は「きらら397」並のやや長、大きさは「きらら397」より小さく「ほしのゆめ」よりやや小さい中である。粒厚は「ほしのゆめ」より厚く、「きらら397」に近い。千粒重は「きらら397」より軽く、「ほしのゆめ」よりやや軽い。腹白、心白の発生は両

品種並である。玄米白度は両品種にやや劣るものの、白米白度は「きらら397」にやや優り「ほしのゆめ」にやや劣る。玄米品質は「きらら397」「ほしのゆめ」並の上下である。

5. 白米のアミロース含有率、蛋白含有率は両品種よりやや低い。食味は「きらら397」に優り、「ほしのゆめ」並からわずかに優る。

栽培適地と奨励態度

上川（中南部）、留萌（中南部）、空知、石狩、後志、胆振、日高、渡島及び檜山各支庁管内において、「きらら397」の一部に替えて栽培する。

栽培上の注意は、耐倒伏性が劣るので施肥標準を守る。いもち病抵抗性が不十分なので発生予察に十分注意し、適期防除に努める。割刈がやや多いので、斑点米などの被害粒による品質低下を生じさせないように、病害虫防除を適正に行うとともに、適期刈り取りを励行する。初期分けつが発生がやや劣るので、栽培基準の栽植密度を守り、成苗や側条施肥などの初期生育を促進する栽培法を心がける。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
中 央 農 試	ななつぼし	8. 2	9.18	68	16.4	563	540	102	22.4	2上	1998～2000
	きらら397	8. 3	9.20	62	16.6	586	529	100	23.5	1中上	
	ほしのゆめ	8. 2	9.16	66	15.5	628	509	96	22.5	1下	
上 川 農 試	ななつぼし	7.28	9.13	70	16.7	704	652	106	21.6	1中下	1998～2000
	きらら397	7.27	9.13	65	16.3	747	616	100	22.6	1中下	
	ほしのゆめ	7.26	9.10	67	15.7	765	587	95	22.0	1下	
道 南 農 試	ななつぼし	7.31	9.14	72	16.7	579	545	102	21.4	1	1998～2000
	きらら397	7.30	9.16	67	15.8	604	534	100	22.4	1	
	ほしのゆめ	7.29	9.12	72	15.6	659	503	94	21.3	2上	
北 海 道 農 試	ななつぼし	8. 2	9.16	74	16.6	501	621	115	22.4	1中下	1998～2000
	きらら397	8. 2	9.16	66	16.2	510	542	100	23.0	1	
	ほしのゆめ	8. 1	9.14	69	15.7	538	549	101	22.5	1下	

注) 中苗標準施肥栽培の成績。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成13年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-3 (2001).
2) 吉村 徹 等, 北海道立農試集報, 83, 1-10 (2002).

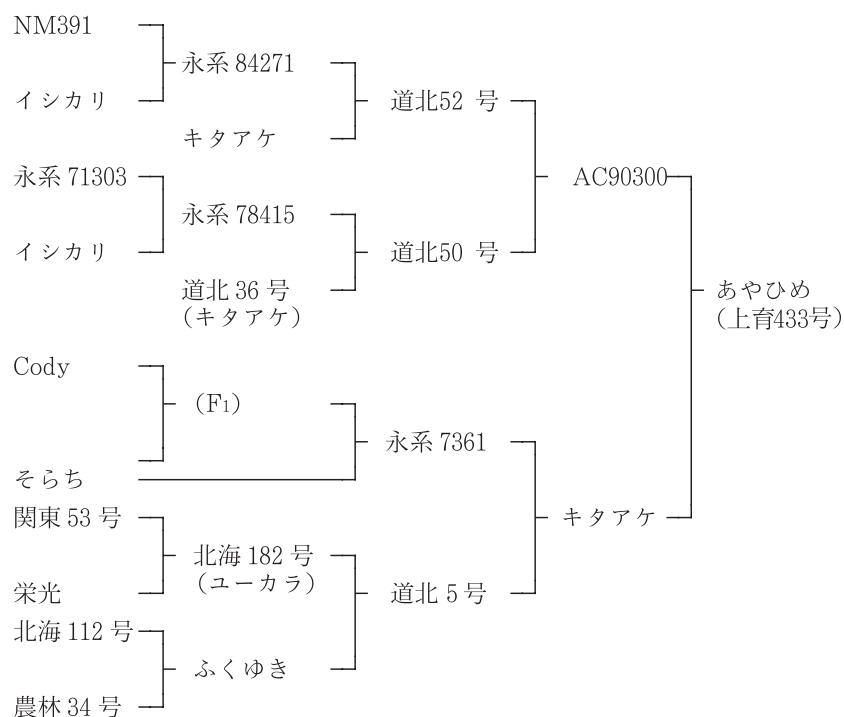
- (8) あやひめ (系統名 上育433号) 2001年
登録番号: (北海道) 水稲北海道うるち第53号
(農水省) 水稲農林376号
(種苗法) 第 号

炊飯することにより、食味が向上する。

来歴 本品種は、1992年に北海道立上川農業試験場において、「AC90300」を母、「キタアケ」を父として人工交配を行い育成したもので、1998年から「上育433号」の系統名で各種の試験を行い、2001年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

セールスポイント

低アミロース米で炊飯米の粘りが強く、粳米に混ぜて



特性概要

1. 稈長は「はなぶさ」よりやや長く、穂長は「はなぶさ」よりやや短く、穂数は「はなぶさ」より少なく、草型は偏穂数型である。
2. ふ先に稀に極短芒を生じ、穎色、ふ先色は黄白、粒着密度はやや密、割れ粳の発生は「はなぶさ」より多いが「ほしのゆめ」よりは少ない。
3. 出穂期、成熟期は「はなぶさ」より1日程度早い中生の早である。
4. 障害型冷害に対する抵抗性はやや強～強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は*Pia,k*と推定され、いもち病圃場抵抗性は葉いもちは強、穂いもちは中、耐倒伏性は中～やや強である。
5. 玄米収量は「はなぶさ」よりやや優る。

6. アミロース含有率が「はなぶさ」より1%程度低い低アミロース品種で、玄米白度、白米白度が「はなぶさ」より優り、食味が「はなぶさ」より明らかに優る。

栽培適地と奨励態度

上川（風連以南）、留萌（中南部）、空知、石狩、後志、日高、胆振、渡島および檜山各支庁管内の「はなぶさ」に替えて栽培する。栽培上の注意は割れ粳の発生が多いので、斑点米や紅変米などの被害粒発生による品質低下を招かぬよう病害虫の適正な防除に努めるとともに、適期刈取りを励行する。稈長がやや長く、耐倒伏性は十分でないので、多肥栽培はさける。粒重が軽いので、登熟期の適正な水管理に努める。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上 川 農 試	あやひめ	7.26	9.10	69	15.7	687	583	113	20.4	1下	1998～2000
	はなぶさ	7.27	9.12	67	16.3	725	514	100	21.6	2下	
	彩	8. 3	9.15	67	16.3	706	566	110	22.5	2下	
	ほしのゆめ	7.26	9.10	67	15.7	765	587	114	22.0	2上	
中 央 農 試	あやひめ	8. 2	9.16	66	15.0	520	476	99	20.9	1中	1998～2000
	はなぶさ	8. 2	9.17	62	16.0	508	483	100	22.8	2中上	
	彩	8. 8	9.22	65	16.5	574	503	104	22.8	2上	
	ほしのゆめ	8. 2	9.16	66	15.5	628	509	105	22.5	1下	
道 南 農 試	あやひめ	7.29	9.12	70	14.8	520	454	96	20.0	1中下	1998～2000
	はなぶさ	7. 3	9.13	69	16.0	526	473	100	21.4	2中上	
	彩	8. 4	9.17	70	16.1	594	523	111	22.5	1下	
	ほしのゆめ	7.29	9.13	72	15.6	659	503	106	21.3	2上	

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
北 海 道 農 試	あやひめ	8. 1	9.15	73	16.7	512	569	108	20.8	1中下	1998~2000
	はなぶさ	8. 1	9.14	69	16.7	509	525	100	22.1	1下	
	彩	8. 7	9.21	71	16.3	533	573	109	23.3	1中下	
	ほしのゆめ	8. 1	9.14	69	15.7	538	549	105	22.5	1下	

注1) 中苗標準施肥栽培の成績。1998年中央農試は成苗ポット。

参照 1) 北海道農政部編，平成13年普及奨励ならびに指導参考事項，4-6(2001)。

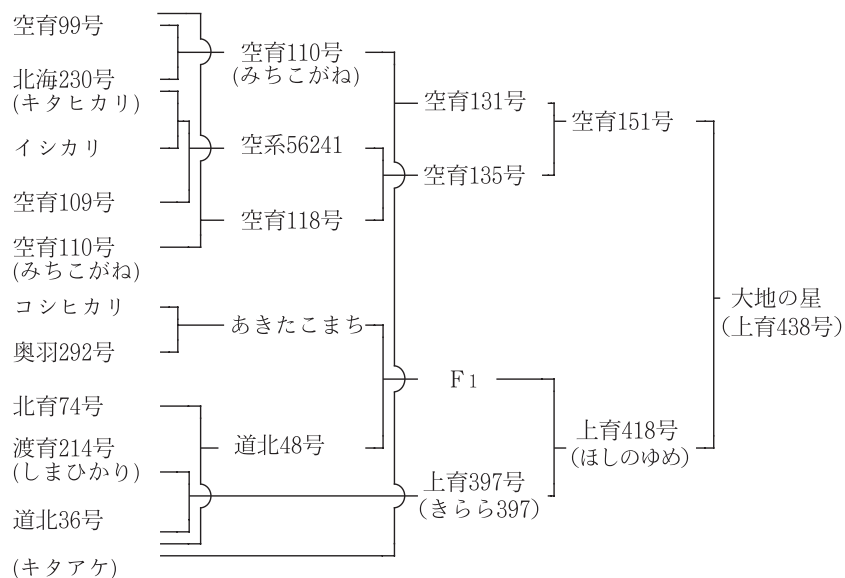
(9) 大地の星 (系統名 上育438号) 2003年

登録番号：(北海道) 水稲北海道うるち第54号
(農水省) 水稲農林391号
(種苗法) 第 号

来歴 本品種は、1994年に北海道立上川農業試験場において、早生・良食味品種の育成を目標に、「空育151号」を母、「上育418号」(ほしのゆめ)を父として人工交配を行った雑種後代から育成したもので、1997年より「上系97243」、1999年より「上育438号」の系統名で各種試験を行い、2003年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

セールスポイント

多収で、耐冷性が強く、加工適性に優れ、冷凍ピラフ等の加工用途に向く。



特性概要

1. 稈長は「あきほ」「きらら397」並かわずかに長く、穂数は「あきほ」「きらら397」より少ない偏穂数型である。千粒重が24~25g程度と重く、割刈の発生は「あきほ」並のやや少で「きらら397」より少ない。
2. 出穂期は早生の中である。成熟期は、中生の早に属し、「きらら397」並かやや早い。
3. 耐倒伏性は中~やや強である。障害型耐冷性は「あきほ」に優り、極強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型はPia,Pii,Pikと推定され、葉いもち圃場抵抗性は強、穂いもち圃場抵抗性はやや強である。
4. 玄米収量は、「あきほ」より明らかに優り、「きらら397」と比較しても多収である。品質は「あきほ」「き

らら397」並であるが、検査等級は劣る。

5. 炊飯米の食味は粘りが劣るため「あきほ」「きらら397」に劣る。粘りが少ないことにより加工適性に優れ、冷凍ピラフ等の加工食品に適する。

栽培地域と奨励態度

道東を除く上川、留萌中部以南の全道で、「あきほ」に換えて栽培する。栽培上の留意点として、出穂期が早生で早期異常出穂や苗の徒長の恐れがあるので、成苗移植では適正な管理に努める。初期の分けつ性がやや劣り、穂数確保が難しいので植付け株数は機械移植基準を守る。刈遅れによる品質低下が懸念されるので適期刈り取りを励行する。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上 川 農 試	大地の星	7.24	9.13	71	16.5	698	651	116	24.5	2中下	1999～2002
	あきほ	7.25	9.10	65	16.8	749	563	100	21.9	1中	
	きらら397	7.27	9.14	65	16.6	765	601	107	22.5	1中下	
中 央 農 試	大地の星	7.28	9.17	66	16.5	579	594	115	24.7	2下	1999～2002
	あきほ	7.31	9.15	66	16.8	661	517	100	22.0	2中	
	きらら397	8. 3	9.19	64	16.6	677	532	103	22.8	2中上	
北 農 研 セ ン タ ー	大地の星	7.26	9.16	71	16.5	519	581	115	24.4	2下	1999～2002
	あきほ	7.29	9.15	67	17.3	507	504	100	22.2	2中	
	きらら397	8. 1	9.22	67	16.2	579	527	105	22.3	2中上	

注) 中苗標準施肥栽培の成績。

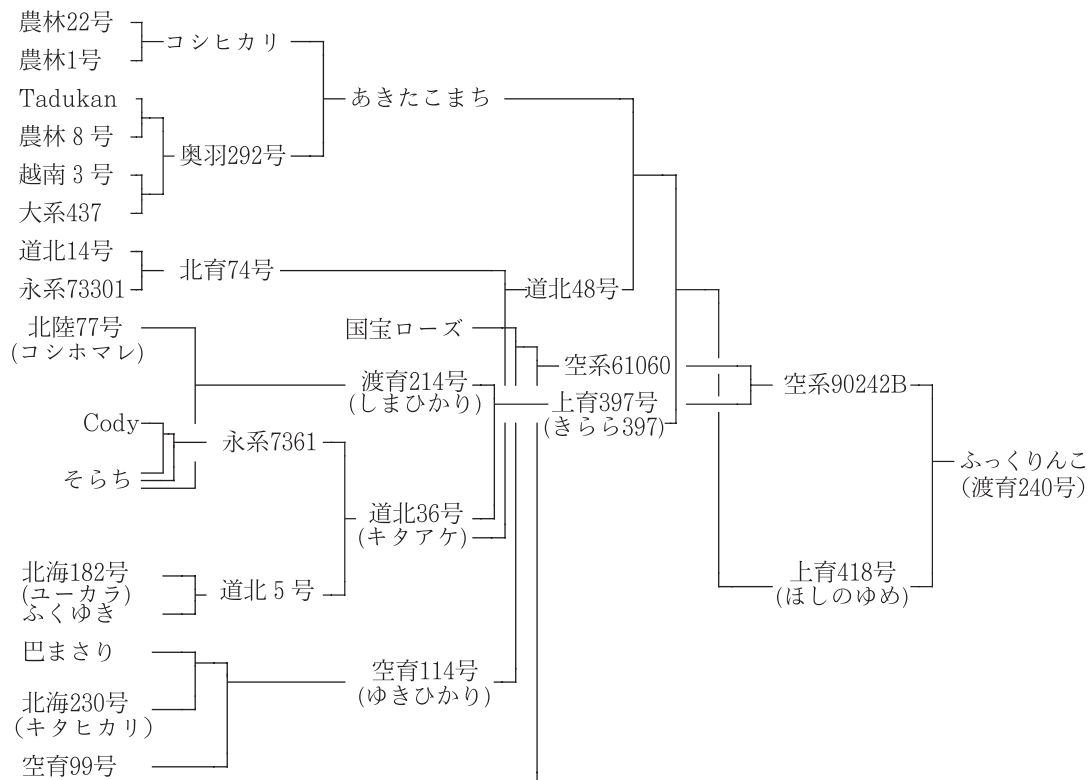
参照 1) 北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-3(2003).

(10) ふっくりんこ(系統名 渡育240号) 2003年
登録番号:(北海道) 水稻北海道うるち第55号
(種苗法) 第 号

セールスポイント

低タンパク, 良食味で, 障害型耐冷性が強い晩生品種である。

来歴 本品種は, 1993年に北海道立中央農業試験場において, 「空系90242B」を母, 「上育418号(ほしのゆめ)」を父として人工交配を行い, その交雑後代から北海道立道南農業試験場において選抜・育成されたもので, 1997年より「渡系9095」, 1999年より「渡育240号」の系統名で各種の試験を行い, 2003年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「きらら397」より長く「ほしのゆめ」並, 穂長は「きらら397」よりやや長く「ほしのゆめ」より長い。穂数は「きらら397」より多く「ほしのゆめ」より少なく, 草型は穂数型に属する。

2. ふ色及びふ先色は黄白で, ふ先に少程度の短芒を有する。
3. 出穂期は「きらら397」より遅い晩生の中, 成熟期は「きらら397」より遅い晩生の早に属し, 登熟は良好である。

4. 穂ばらみ期の障害型耐冷性は「きらら397」より強く「ほしのゆめ」と同じ強である。葉いもち病抵抗性、穂いもち病抵抗性はやや弱である。耐倒伏性は中～やや強である。
5. 玄米収量はほぼ「きらら397」並で「ほしのゆめ」に優る。
6. 玄米の粒形は「きらら397」「ほしのゆめ」並のやや長、粒大は「きらら397」「ほしのゆめ」よりやや大きいやや大である。粒厚は「きらら397」より薄く「ほしのゆめ」並である。千粒重は「きらら397」並で「ほしのゆめ」より重い。腹白の発生は両品種よりやや多いが、心白・乳白の発生、色沢、光沢は両品種並で、

玄米品質はほぼ両品種並の中上である。食味は「きらら397」に明らかに優り「ほしのゆめ」並からやや優る。

栽培適地と奨励態度

檜山南部、渡島中・南部及びこれに準ずる地帯の「きらら397」の一部に置き換えて栽培する。栽培上の注意は、いもち病抵抗性がやや弱いので、その発生に注意し適正防除に努める。倒伏や干ばつにより粒厚が薄くなることがあるので、多肥栽培は避け「施肥標準」を厳守し、登熟期の水管理に留意する。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
道 南 農 試	ふっくりんこ	8. 3	9.23	73	16.1	634	54.4	98	22.3	1下	1999～2002
	きらら397	7.31	9.22	69	15.8	599	55.7	100	22.1	2上	
	ほしのゆめ	7.29	9.18	72	15.2	655	51.8	93	21.3	2中上	
	ななつぼし	7.31	9.20	74	16.2	584	54.8	98	21.5	1下	

注) 中苗標準施肥栽培の成績。

参照 1) 北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 4-6 (2003).

2. 小麦

- (1) きたもえ (系統名 北見72号) 2000年
登録番号: (北海道) 小麦北海道秋第14号
(農水省) 小麦農林149号
(種苗法) 第11237号

セールスポイント

コムギ縮萎縮病抵抗性、穂発芽耐性に優れ、粉色とゆでうどんの色に優れる秋まき品種である。

来歴 本品種は、1985年に北海道立北見農業試験場において、「59045 (後の「ホクシン」)」を母、「北系1354」を父として人工交配を行い、育成したもので、1992年より「北系1616」、1994年より「北見72号」の系統名で各種試験を行い、2000年に優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

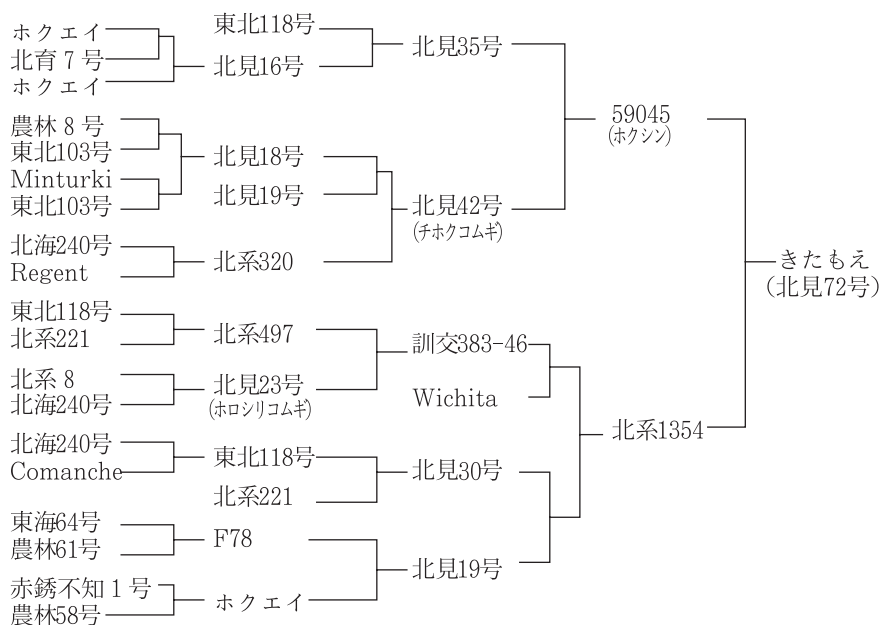
1. 叢性は直立で、稈長はやや短、稈の細太は中で「ホクシン」よりやや細く、「チホクコムギ」並、ワックスの多少は少である。葉身の下垂度は「ホクシン」よりやや小さく、穂型は棒状、ふ色は淡黄である。
2. 粒形は中、粒の大小はやや大、粒色は黄褐で、千粒

重はやや大、容積重、原麦粒の見かけの品質は「ホクシン」と同等である。

3. やや早生に属するが「ホクシン」と比較して出穂期で2日、成熟期で2日遅い。
4. 耐倒伏性は「ホクシン」並、耐寒性、耐雪性は「ホクシン」並、コムギ縮萎縮病抵抗性は「ホクシン」より強いやや強、赤さび病抵抗性はやや弱、うどんこ病抵抗性はやや強である。黒目粒は少なく、穂発芽性は「ホクシン」より強くやや難である。
5. 子実重は「ホクシン」並である。
6. 製粉歩留、ミリングスコアは「ホクシン」と同程度かやや高い。粉色は「ホクシン」より優れ、粉質は粉状質、蛋白含量は「ホクシン」並である。製めん適性は「ホクシン」と比較して色は優れるが、粘弾性はやや劣る。

栽培適地と奨励態度

北海道内のコムギ縮萎縮病発生地帯において「ホクシン」に置き換えて栽培する。栽培に当たっては、縮萎縮病抵抗性は「ホクシン」より強いが、免疫的な抵抗性は有していないため、適正な輪作体系の維持に努める。耐



穂発芽性は「ホクシン」より強いが、刈遅れによる品質低下の懸念があるので、適期収穫を励行する。他の病害・

障害抵抗性、および子実蛋白含量は「ホクシン」並なので、播種・防除・施肥管理は「ホクシン」に準ずる。

試験場名	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	倒伏 程度	子実重 (kg/10a)	標準比 (%)	容積重 (g)	千粒重 (g)	外観 品質	試験年次
北見農試	きたもえ	6.14	7.28	89	7.2	789	微	557	103	789	36.8	上下	1995～
	ホクシン	6.12	7.26	89	8.3	758	少	541	100	790	36.3	上下	1999
中央農試	きたもえ	6.10	7.22	85	7.2	599	少	506	96	776	38.9	上下	1995～
	ホクシン	6.6	7.20	88	8.4	622	少	526	100	780	38.9	上下	1999
上川農試	きたもえ	6.12	7.18	85	7.5	672	微	549	96	771	39.3	上下	1995～
	ホクシン	6.9	7.17	87	8.5	640	微	570	100	774	38.9	上下	1999
十勝農試	きたもえ	6.10	7.24	87	7.0	605	無	527	101	783	38.4	上下	1995～
	ホクシン	6.7	7.22	89	8.1	592	無	520	100	778	39.7	上下	1999
遺伝資源 センター	きたもえ	6.11	7.18	76	6.8	539	無	414	98	801	37.0	上中	1995～
	ホクシン	6.9	7.17	77	7.7	519	無	422	100	797	37.2	上中	1999

参照 1) 北海道農政部編, 平成12年普及奨励ならびに指導参考事項, 25-27 (2000).
2) 柳沢 朗等, 北海道立農試集報. 82, 11-20 (2002).

(2) はるひので (系統名 北見春59号) 2000年
登録番号: (北海道) 小麦北海道春第15号
(農水省) 春播小麦農林150号
(種苗法) 第11238号

セールスポイント

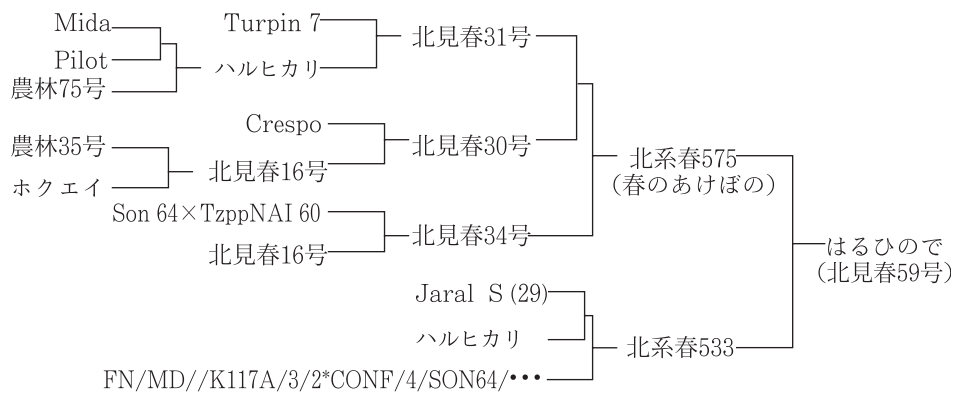
赤かび病抵抗性, 耐倒伏性, 製パン適性に優れる春まき品種である。

来歴 本品種は, 1986年に北海道立北見農業試験場において, 「北系春575」(後の「春のあけぼの」) を母, 「北系春533」を父として人工交配を行い, 育成したものである。1994年より「北系春669」, 1996年より「北見春59

号」の系統名で各種試験を行い, 2000年に優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. 葉色はやや濃く, 葉身の下垂度は小さく, 株は閉じている。鞘葉の色を有し, 葯の色は紫である。葉鞘, 稈のワックスおよび毛は無く, 稈長はやや短, 穂長は中, 稈の細太は中, 稈の剛柔はやや剛である。
2. 穂型は紡錘状, 粒着はやや密, 芒は多く長い。ふ色は黄である。
3. 粒形は中, 粒大はかなり大, 粒色は赤褐である。粒の黒目の発生は「ハルユタカ」より多い。千粒重, 容積重は「ハルユタカ」より大きく, 原麦粒の見かけの品質は「ハルユタカ」より優る。



4. 出穂期、成熟期は「ハルユタカ」と同程度で中生に属する。穂発芽性はやや難、耐倒伏性は強、赤かび病抵抗性は中、うどんこ病抵抗性はやや弱、赤さび病抵抗性は中である。
5. 子実重は「ハルユタカ」より多収である。
6. 粒の硬軟はやや硬、粒質は硝子質で、60%粉粗蛋白含量は「ハルユタカ」と同程度、製粉歩留は「ハルユタカ」よりやや低く、ミリングスコアは同程度のやや高である。
7. フェリノグラムの吸水率は「ハルユタカ」より高く、バロリーメーターバリューは高い。エキステンソグラ

ムの生地力の程度は大で、伸長抵抗は強、伸長度は中、形状係数は大である。製パン適性は「ハルユタカ」より優れる。

栽培適地と奨励態度

北海道内の「ハルユタカ」の一部に置き換えて栽培する。融雪後できるだけ早期に播種し、成熟期を早め、収量・品質の向上を図る。穂発芽性はやや難であるが、刈り遅れによる品質低下や黒目粒発生の増加が懸念されるので、適期収穫を励行する。うどんこ病に対する抵抗性は不十分なので、適期防除に努める。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	倒伏 程度	子実重 (kg/10a)	標準比 (%)	容積重 (g)	千粒重 (g)	外観 品質	試験年次
北見農試	はるひので	7. 2	8.15	86	8.5	509	無	405	108	771	39.5	中上	1996～
	ハルユタカ	7. 3	8.15	87	8.4	554	微	375	100	761	35.3	中中	1999
中央農試	はるひので	6.26	8. 6	79	8.5	438	無	265	112	778	40.6	中上	1996～
	ハルユタカ	6.27	8. 5	80	8.7	423	無	237	100	744	34.0	中中	1999
上川農試	はるひので	6.25	8. 6	83	8.4	526	微	439	101	778	42.4	上下	1996～
	ハルユタカ	6.27	8. 6	86	8.6	546	微	434	100	751	36.9	中上	1999
十勝農試	はるひので	6.28	8. 9	85	8.1	484	無	330	106	762	41.5	中上	1996～
	ハルユタカ	6.29	8.10	87	8.1	438	無	312	100	715	34.5	中上	1999

注) 北見農試はドリル播きの成績。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成12年普及奨励ならびに指導参考事項, 28-30 (2000).
2) 田引 正等, 北海道立農試集報. 82, 21-30 (2002).

- (3) 春よ恋 (系統名 HW 1 号) 2000年
登録番号: (北海道) 小麦北海道春第16号
(種苗法) 第8834号

セールスポイント

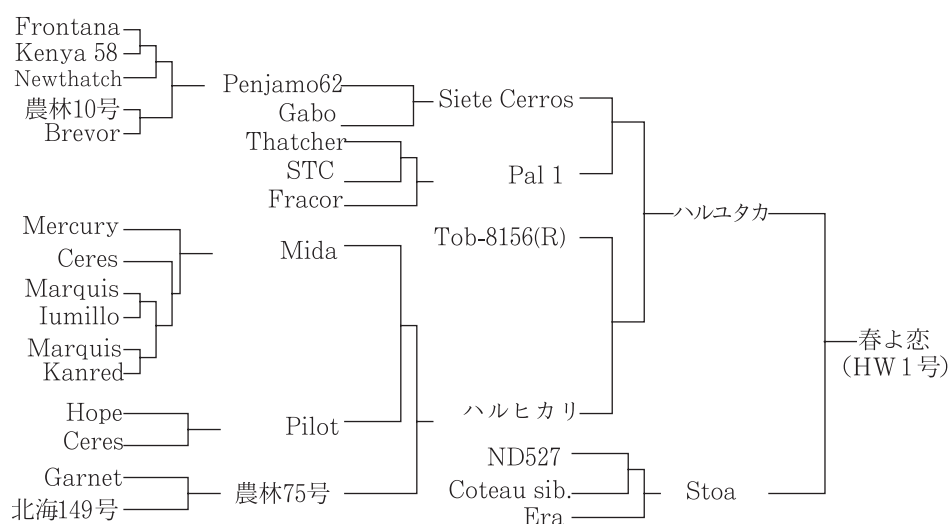
うどんこ病、赤かび病抵抗性に優れ、製パン適性に優れた多収な春まき品種である。

来歴 本品種は、1989年にホクレン農業総合研究所において「ハルユタカ」を母、「Stoa」を父として人工交配

し、1990年にF1植物の葎を培養して作出した半数体倍加系統から選抜、育成されたものである。1995年より「90DH22-22」、1996年より「HW 1 号」の系統名で各種試験を行い、2000年に優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. 葉色はやや薄く、株は閉じている。ワックスはなく、葉にわずかにフレッケンを生じ、生理的に色が抜ける場合がある。稈長は中で「ハルユタカ」よりやや長く、



穂長は中、穂数は「ハルユタカ」並かやや多い。稈の細太及び剛柔は中である。

2. 穂型は紡錘状で、粒着はやや密、芒は多くて長い。ふ色は黄である。
3. 粒形は「ハルユタカ」よりやや長く、千粒重、容積重は「ハルユタカ」より重い。外観品質も「ハルユタカ」より優れる。黒目粒の発生は「ハルユタカ」よりやや多い。
4. 出穂期、成熟期がほぼ「ハルユタカ」並の中生である。耐倒伏性は「ハルユタカ」と比べると劣る。うどんこ病抵抗性は強く、赤さび病抵抗性はやや強、赤かび病抵抗性は「ハルユタカ」より優れている。穂発芽性は「ハルユタカ」よりやや強い。

5. 子実重は「ハルユタカ」より多く、かなり多である。
6. 粒は硬く、粒質は硝子質である。製粉性は「ハルユタカ」より劣る。60%粉の粗蛋白含量は「ハルユタカ」並である。フェリノグラムの吸水率は「ハルユタカ」よりも高く、バロリーメーターバリューもやや高い。生地力の程度はかなり大、伸長抵抗はかなり強、生地の伸長度は中、形状係数はかなり大である。製パン適性は「ハルユタカ」より優れる。

栽培適地と奨励態度

全道の「ハルユタカ」の一部に置き換えて栽培する。耐倒伏性が劣るので標準播種量（340粒/㎡）および施肥標準を守り、密植や過度の窒素の施用は避ける。

試験場名	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	倒伏 程度	子実重 (kg/10a)	標準比 (%)	容積重 (g)	千粒重 (g)	外観 品質	試験年次
北見農試	春よ恋	7. 2	8.14	95	8.5	532	2.5	422	113	768	38.1	中上	1996～
	ハルユタカ	7. 3	8.14	87	8.4	554	1.0	375	100	761	35.3	中中	1999
中央農試	春よ恋	6.27	8. 6	87	8.7	456	0.3	293	124	777	36.5	中上	1996～
	ハルユタカ	6.27	8. 5	80	8.7	423	0.2	237	100	744	34.0	中中	1999
上川農試	春よ恋	6.27	8. 6	93	8.6	550	2.0	470	108	774	37.1	—	1996～
	ハルユタカ	6.27	8. 6	86	8.6	546	0.7	434	100	751	36.9	—	1999
十勝農試	春よ恋	6.29	8. 9	93	8.4	465	0.0	353	113	747	36.4	上下	1996～
	ハルユタカ	6.29	8.10	87	8.1	438	0.0	312	100	715	34.5	中上	1999

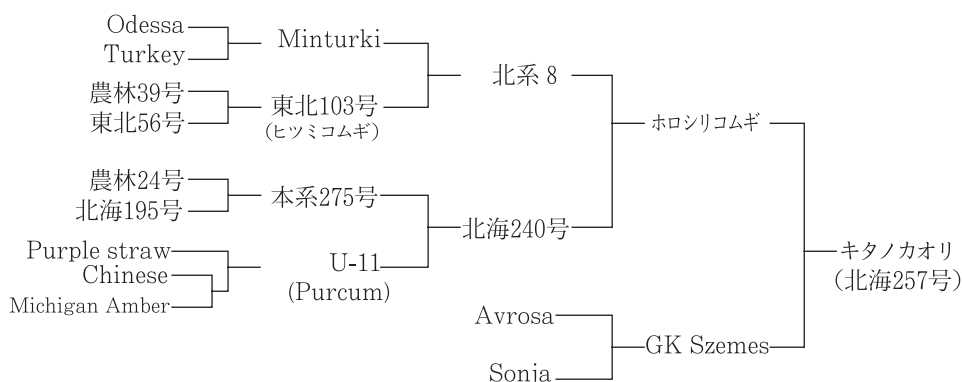
参照 1) 北海道農政部編, 平成12年普及奨励ならびに指導参考事項, 31-33 (2000).

- (4) キタノカオリ (系統名 北海257号) 2003年
登録番号: (北海道) 小麦北海道秋第17号
(農水省) 小麦農林158号
(種苗法) 第11095号

セールスポイント

製パン適性に優れた秋まき品種である。

来歴 本品種は、1988年に農林水産省北海道農業試験場において、「ホロシリコムギ」を母とし、「GK-Szemes」を父として人工交配を行い、育成したものである。1996年より「札系226号」、1998年より「北海257号」の系統名で各種試験を行い、2003年に優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 叢性は直立，株の開閉はかなり閉である。稈長は短，稈の細太はかなり太，葉色はやや淡，ワックスの多少は少，芒はなく，ふ色は淡黄である。
2. 穂型は棒状，穂長はやや長，粒着は密である。粒の形は中，大小は大，色は褐，千粒重は大，容積重はやや大，原麦粒の見かけの品質は中の上である。
3. 出穂期はやや晩，成熟期は中で「ホクシン」より遅い。
4. 耐倒伏性は強く，耐寒性は中，耐雪性はやや強，コムギ縞萎縮病抵抗性は弱，赤かび病抵抗性は中，うどんこ病抵抗性は強，赤さび病抵抗性はかなり強，穂発芽性は中である。
5. 子実重は中で「ホクシン」よりやや少ない。
6. 粒質は硝子質，製粉歩留及びミリングスコアは中，

60%粉粗蛋白質含量はやや多，粉の明度及び粉の赤色みは中，粉の黄色みはかなり高，吸水率は高，バロリーメーターバリューはやや高，生地の力の程度はやや大，生地の伸長抵抗は強，生地の伸長度は中，生地の形状係数は大である。製パン適性は「ホロシリコムギ」，「ハルユタカ」より優る。

栽培適地と奨励態度

全道の秋まき小麦栽培地帯の「ホクシン」の一部に置き換えて栽培する。耐雪性は「ホクシン」と同じやや強であるが，多雪地帯での冬損程度がやや多い傾向があるので，適切な管理に努める。赤かび病抵抗性，穂発芽性は必ずしも強くないので，防除の徹底と適期収穫を励行する。パン用であるので，蛋白質含量が低くならないように肥培管理に努める。

試験場名	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度	子実重 (kg/10a)	標準比 (%)	容積重 (g)	千粒重 (g)	外観 品質	試験年次
北農研 センター	キタノカオリ	6.12	7.25	75	9.0	604	0.0	586	96	812	41.3	2.5	1998～ 2001
	ホクシン	6.6	7.20	83	8.4	621	0.5	607	100	796	38.1	2.5	
	ホロシリコムギ	6.10	7.23	95	8.5	654	1.3	600	99	792	42.2	2.8	
中央農試	キタノカオリ	6.8	7.22	85	8.8	532	0.0	589	101	793	44.1	3.0	1998～ 2001
	ホクシン	6.2	7.17	88	8.6	608	0.2	583	100	784	39.8	2.5	
遺伝資源 センター	キタノカオリ	6.11	7.21	75	8.8	431	0.0	475	91	802	43.7	3.0	1998～ 2001
	ホクシン	6.5	7.15	79	8.1	570	1.5	525	100	802	39.3	1.9	
上川農試	キタノカオリ	6.11	7.23	74	9.2	407	0.0	567	89	774	43.1	2.3	1998～ 2001
	ホクシン	6.5	7.17	80	8.2	528	0.0	634	100	770	41.0	1.8	
十勝農試	キタノカオリ	6.11	7.25	81	9.2	485	0.0	553	96	805	41.8	2.8	1998～ 2001
	ホクシン	6.5	7.19	86	8.5	530	0.3	577	100	800	38.6	2.4	
北見農試	キタノカオリ	6.13	7.28	79	9.3	502	0.0	493	92	817	41.3	2.3	1998～ 2001
	ホクシン	6.8	7.22	82	8.3	618	0.0	535	100	806	39.4	2.3	

注) 外観品質は1 (上上) ～ 6 (下)。

参照 1) 北海道農政部編，平成15年普及奨励ならびに指導参考事項，7 - 9 (2003)。

3. とうもろこし

<飼料用>

(1) DK212 (系統名 SH2112) 1996年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交第53号

セールスポイント

多収で、耐倒伏性がやや強い早生品種である。

来歴：本品種は、フランスのデカルブジェネティクスコーポレーション社が育成したフリント種×デント種の単交配一代雑種である。1991年に雪印種苗株式会社が導入し、1993年より「SH2112」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ダイヘイゲン」並で、「ワセホマレ」並か1～2日遅い。収穫時熟度は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」並である。総体の乾物率は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」より高い。熟期は早生の中に属する。
2. 耐倒伏性は「ダイヘイゲン」より強く、「ワセホマ

レ」よりやや強い。

3. 発芽は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」並かやや遅い。初期生育は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」よりやや劣る。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」より多い。推定乾物中TDN割合は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」並かやや高い。
5. 稈長は「ダイヘイゲン」よりやや低く、「ワセホマレ」並かやや低い。着雌穂高は「ダイヘイゲン」よりやや低く、「ワセホマレ」よりやや高い。雌穂について、年次によっては、包葉先端から子実が顕著に露出する。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」並かやや強く、「ワセホマレ」並かやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「ワセホマレ」よりやや強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部、十勝、網走及び根釧、道北の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	D K 2 1 2	1.7	8.5	0.0	黄 初	1,179	862	104	28.5	73.0	1993～1995
	ダイヘイゲン	1.0	8.4	4.3	黄初～中	1,149	826	100	27.1	71.9	
	ワセホマレ	1.4	8.4	2.9	黄初～中	994	710	86	27.1	71.4	
北 見 農 試	D K 2 1 2	2.4	8.11	0.6	糊 後	1,305	939	110	27.5	71.8	1993～1995
	ダイヘイゲン	1.7	8.10	3.8	糊 後	1,191	852	100	26.0	71.1	
	ワセホマレ	1.5	8.9	1.7	糊 後	1,165	826	97	26.0	70.4	
上 川 農 試 (土 別)	D K 2 1 2	3.3	8.5	0.0	糊 後	1,445	1,020	123	30.1	70.6	1993
	ダイヘイゲン	2.0	8.4	4.3	黄 初	1,177	827	100	27.1	70.3	
上 川 農 試 (比 布)	D K 2 1 2	2.4	7.24	0.9	黄 後	1,599	1,140	115	28.3	71.5	1994～1995
	ダイヘイゲン	2.0	7.24	8.3	黄 後	1,387	992	100	27.3	71.6	
根 釧 農 試	D K 2 1 2	1.6	8.22	3.0	糊 後	1,045	739	100	27.5	70.1	1993～1995
	ダイヘイゲン	1.0	8.21	23.2	糊 後	1,042	737	100	27.5	70.4	
	ワセホマレ	1.1	8.20	17.4	糊 後	981	690	94	27.5	70.0	
天 北 農 試	D K 2 1 2	2.9	8.19	3.0	糊 後	1,084	778	111	25.8	70.6	1993～1995
	ダイヘイゲン	1.9	8.20	6.2	糊 中	985	700	100	24.0	70.2	
	ワセホマレ	2.1	8.21	4.3	糊 中	990	702	100	24.2	69.6	

参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 27-29 (1996).

(2) **ピヤシリ85** (系統名 SH1302) 1996年

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準北海道
交第54号

セールスポイント

耐倒伏性がやや強く、すす紋病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴：本品種は、雪印種苗株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1993年より「SH1302」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」並で、「キタアサヒ」並か1～2日早い。収穫時熟度及び総体の乾物率は、「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」並である。熟期は早生の晩に属する。
2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」

よりやや強い。

3. 発芽及び初期生育は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」並である。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」並かやや多く、「キタアサヒ」並である。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」並で、「キタアサヒ」よりやや高い。
5. 稈長は「ヘイゲンミノリ」並かやや高く、「キタアサヒ」よりやや低い。着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」よりやや高く、「キタアサヒ」よりやや低い。雌穂について、年次によっては、包葉先端から子実が顕著に露出する。
6. すず紋病抵抗性及びごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ヘイゲンミノリ」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、網走内陸及び道央北部である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾 物 率 (%)	乾 物 中 T D N (%)	試 験 年 次
						乾 総 重 (kg)	T D N (kg)	同 左 比 (%)			
十 勝 農 試	ピ ヤ シ リ 85	1.7	8.9	0.0	糊後～黄初	1,241	890	101	25.7	71.5	1993～1995
	ヘイゲンミノリ	1.6	8.8	0.1	糊後～黄初	1,229	883	100	26.6	71.7	
	キタアサヒ	1.6	8.10	2.0	糊後～黄初	1,293	911	103	26.2	70.1	
北 見 農 試	ピ ヤ シ リ 85	2.2	8.15	0.1	糊 中	1,265	902	104	26.3	71.1	1993～1995
	ヘイゲンミノリ	1.9	8.15	3.3	糊 中	1,219	866	100	26.8	70.9	
	キタアサヒ	2.2	8.16	0.3	糊 中	1,249	874	101	25.1	69.6	
上 川 農 試 (土 別)	ピ ヤ シ リ 85	3.8	8.9	0.0	糊 後	1,352	943	110	26.1	69.7	1993
	ヘイゲンミノリ	2.8	8.8	0.0	糊後～黄初	1,233	855	100	25.7	69.3	
	キタアサヒ	2.8	8.10	0.0	黄 中	1,332	924	108	26.6	69.4	
上 川 農 試 (比 布)	ピ ヤ シ リ 85	2.2	7.26	0.0	黄中～後	1,573	1,112	101	26.3	70.8	1994～1995
	ヘイゲンミノリ	2.4	7.26	1.9	黄 後	1,560	1,106	100	27.1	71.1	
	キタアサヒ	2.4	7.26	3.6	黄 後	1,572	1,116	101	28.9	71.1	

注) 上川農試の「キタアサヒ」は他の2品種と収穫期が異なる。

参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 30-32 (1996).

(3) **LG2290** (系統名 HE9138) 1996年

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸交
第55号

セールスポイント

多収で耐倒伏性が強い早生品種である。

来歴：本品種は、フランスのリマグレイン社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1991年

に雪印種苗株式会社が導入し、1993年より「HE9138」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」並で、「キタアサヒ」並か1～2日早い。収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」並である。総体の乾物率は「ヘイゲンミノリ」並で「キタアサヒ」よりやや高い。

- 熟期は早生の晩に属する。
- 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」よりやや強い。
 - 発芽は「ヘイゲンミノリ」並かやや遅く、「キタアサヒ」並である。初期生育は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」並である。
 - 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」より多い。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」並で、「キタアサヒ」よりやや高い。
 - 稈長は「ヘイゲンミノリ」よりやや高く、「キタア

- サヒ」並である。着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」より高く、「キタアサヒ」よりやや低い。
- すす紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」並かやや強く、「ヘイゲンミノリ」よりやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ヘイゲンミノリ」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、網走内陸及び道央北部である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	L G 2 2 9 0	1.7	8.9	0.3	糊後～黄初	1,348	962	115	26.2	71.1	1993～1995
	ヘイゲンミノリ	1.7	8.8	0.1	糊後～黄初	1,157	839	100	25.5	72.2	
	キタアサヒ	1.7	8.9	2.3	糊後～黄初	1,278	899	107	25.5	70.0	
北 見 農 試	L G 2 2 9 0	2.7	8.16	0.0	糊 中	1,423	1,003	116	26.0	70.1	1993～1995
	ヘイゲンミノリ	1.9	8.15	3.3	糊 中	1,219	866	100	26.8	70.9	
	キタアサヒ	2.2	8.16	0.3	糊 中	1,249	874	101	25.1	69.6	
上 川 農 試 (土 別)	L G 2 2 9 0	2.8	8.9	0.0	黄中～後糊	1,493	1,070	125	29.7	71.7	1993
	ヘイゲンミノリ	2.8	8.8	0.0	後～黄初	1,233	855	100	25.7	69.3	
	キタアサヒ	2.8	8.10	0.0	黄 中	1,332	924	108	26.6	69.4	
上 川 農 試 (比 布)	L G 2 2 9 0	2.2	7.26	0.0	黄 後	1,844	1,326	120	29.8	72.0	1994～1995
	ヘイゲンミノリ	2.4	7.26	1.9	黄 後	1,560	1,106	100	27.1	71.1	
	キタアサヒ	2.4	7.26	3.6	黄 後	1,572	1,116	101	28.9	71.1	

注) 上川農試の「ヘイゲンミノリ」は他の2品種と収穫期が異なる。

参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 33-35 (1996).

- (4) DK474 (系統名 PP1460) 1996年
登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第56号

セールスポイント

やや多収で, 耐倒伏性がやや強い晩生品種である。

来歴: 本品種は, アメリカのデカルブ・プラント・ジェネティクス社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。カネコ種苗株式会社が導入し, 1993年より「PP1460」の系統名で各種の試験を行い, 1996年に優良品種となった。

特性概要

- 絹糸抽出期は「P3732」よりやや遅く, 「3540」より早い。収穫時熟度は「P3732」よりやや遅れ, 「3540」と同程度である。総体の乾物率は「P3732」並か高く, 「3540」より高い。熟期は晩生の早に属する。

- 耐倒伏性は「P3732」と同程度で「3540」よりやや弱い。
- 発芽及び初期生育は「P3732」及び「3540」と同程度である。
- 乾総重及び推定TDN収量は「P3732」よりやや多く, 「3540」より少ない。推定乾物中TDN割合は「P3732」と同程度で, 「3540」より高い。
- 稈長は「P3732」並か低く, 「3540」より低い。着雌穂高は「P3732」及び「3540」より低い。
- すす紋病抵抗性は「3540」より強く, 「P3732」と同程度である。ごま葉枯病抵抗性は「P3732」及び「3540」より弱い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央中部, 南部及び道南の気象条件の良い地域である。一般栽培に準ずるが, ごま葉枯病に弱いので多発する圃場での作付を避ける。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	D K 4 7 4	2.0	8.12	1.6	黄 中	1,829	1,325	107	29.8	72.4	1993～1995
	P 3 7 3 2	2.5	8.10	0.0	黄 中	1,689	1,233	100	27.9	72.9	
	3 5 4 0	2.2	8.15	0.0	黄中～後	1,924	1,379	112	27.4	71.7	
道南農試	D K 4 7 4	2.8	8. 6	3.6	黄初～中	1,866	1,328	100	33.4	71.1	1993～1995
	P 3 7 3 2	1.1	8. 5	5.7	黄 中	1,862	1,327	100	31.3	71.2	
	3 5 4 0	1.7	8. 9	2.4	黄初～中	2,015	1,403	105	29.3	69.5	
滝川畜試	D K 4 7 4	1.1	8. 9	1.3	黄 中	1,723	1,240	105	27.2	71.9	1993～1995
	P 3 7 3 2	1.4	8.10	0.9	黄 中	1,639	1,176	100	26.6	71.7	
	3 5 4 0	1.7	8.14	0.7	黄 中	1,877	1,329	113	24.5	70.8	

注) 道南農試の倒伏は、1993年～1994年の2か年の数値(1995年は全倒伏のため除外)。

参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 35-37 (1996)。

(5) DK401 (系統名 DK401) 1996年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第57号

セールスポイント

多収な中生品種である。

来歴: 本品種は、アメリカのデカルブ・プラント・ジェネティクス社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。カネコ種苗株式会社が導入し、1992年より「DK401」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「キタユタカ」より遅く、「3790」よりやや遅い。「P3732」よりやや早い。収穫時熟度は「キタユタカ」「3790」よりやや遅れ、「P3732」並である。総体の乾物率は「キタユタカ」並か高いが、「3790」並かやや低く、「P3732」より高い。熟期は中生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「キタユタカ」より強く「3790」「P3732」よりやや弱い。
3. 発芽は「キタユタカ」及び「P3732」よりやや遅い。初期生育は「キタユタカ」及び「P3732」よりやや劣る。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「キタユタカ」より多く、「3790」並かやや多いが、「P3732」並かやや少ない。推定乾物中TDN割合は「キタユタカ」より高く、「3790」及び「P3732」よりやや高い。
5. 稈長は「キタユタカ」「3790」より高く、「P3732」並かやや高い。着雌穂高は「キタユタカ」より高いが、「3790」並かやや低い。「P3732」より低い。
6. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」並かやや強く、「3790」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」及び「3790」より弱い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央中部、南部及び道南である。一般栽培に準ずるが、ごま葉枯病に弱いので多発する圃場での作付を避ける。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	D K 4 0 1	3.0	8. 9	4.6	黄初～中	1,573	1,150	108	27.8	73.1	1992～1994
	キ タ ユ タ カ	2.0	8. 6	7.1	黄 中	1,473	1,060	100	26.6	72.0	
	3 7 9 0	2.3	8. 8	0.9	黄 中	1,572	1,139	107	28.3	72.5	
	P 3 7 3 2	2.9	8.11	0.0	黄 中	1,598	1,165	110	27.3	72.9	
道南農試	D K 4 0 1	2.4	8. 7	3.4	黄中～後	1,818	1,301	119	33.8	71.6	1992～1994
	キ タ ユ タ カ	1.2	8. 3	32.1	黄 中	1,544	1,090	100	27.6	70.6	
	3 7 9 0	1.5	8. 4	0.4	黄 中	1,836	1,230	113	32.0	70.7	
	P 3 7 3 2	1.0	8. 6	4.9	黄中～後	1,967	1,363	125	32.0	71.1	

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
滝 川 畜 試	D K 4 0 1	2.3	8.9	4.7	黄 初	1,596	1,156	112	26.2	72.4	1992～1994
	キ タ ュ タ カ	1.2	8.8	6.9	黄 中	1,470	1,033	100	23.3	70.2	
	3 7 9 0	1.7	8.9	1.1	黄 中	1,579	1,137	110	26.3	72.1	
	P 3 7 3 2	1.6	8.11	0.9	黄 中	1,588	1,140	110	25.5	71.8	

注) 北海道農試の倒伏は、1993～1994年の2か年の数値(1992年のP3732のみ強風に遭遇して倒伏したため除外)。

参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 37-40 (1996).

(6) ロイヤルデントオーロラ82(系統名 TH9128)1997年
登録番号:(北海道)とうもろこし(飼)準輸交
第58号

セールスポイント

多収で、耐倒伏性及びごま葉枯病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は、ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したフリント種×デント種の単交配一代雑種である。1991年にタキイ種苗株式会社が導入し、1993年より「TH9128」の系統名で各種の試験を行い、1997年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ダイハイゲン」及び「ワセホマレ」より1～2日遅い。収穫時熟度は「ダイハイゲン」並

かやや進み「ワセホマレ」並である。総体の乾物率は「ダイハイゲン」及び「ワセホマレ」並である。熟期は早生の中に属する。

2. 耐倒伏性は「ダイハイゲン」及び「ワセホマレ」より強い。

3. 発芽及び初期生育は「ダイハイゲン」及び「ワセホマレ」並である。

4. 乾総重及び推定TDN収量は「ダイハイゲン」より多い。推定乾物中TDN割合は「ダイハイゲン」並かやや低い。

5. 稈長及び着雌穂高は「ダイハイゲン」より高い。

6. すず紋病抵抗性は「ダイハイゲン」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイハイゲン」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝、道央北部、網走ならびに道北の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	オーロラ82	1.1	8.2	0.9	黄初～中	1,303	950	115	29.3	73.0	1994～1996
	ダイハイゲン	1.1	8.1	2.8	黄 初	1,137	823	100	28.6	72.4	
	ワセホマレ	1.2	8.1	2.1	黄初～中	982	705	86	29.2	71.8	
上 川 農 試	オーロラ82	1.7	7.24	0.2	黄後～完	1,619	1,155	104	28.4	71.5	1994～1996
	ダイハイゲン	1.7	7.25	5.5	黄中～後	1,553	1,108	100	28.1	71.5	
北 見 農 試	オーロラ82	1.8	8.10	0.6	糊 後	1,553	1,104	119	26.3	71.1	1994～1996
	ダイハイゲン	1.7	8.8	3.3	糊 後	1,289	931	100	26.2	72.2	
	ワセホマレ	1.5	8.8	1.8	糊 後	1,227	880	94	26.1	71.7	
天 北 農 試	オーロラ82	1.2	8.20	0.0	糊中～後	1,287	909	120	25.0	70.1	1994～1996
	ダイハイゲン	1.5	8.19	4.9	糊中～後	1,061	753	100	24.9	70.7	
	ワセホマレ	1.6	8.18	2.6	糊中～後	1,091	774	103	25.1	70.6	

参照 1) 北海道農政部編, 平成9年普及奨励ならびに指導参考事項, 9-11 (1997).

(7) **ディアHT** (系統名 **ディアHT**) 1997年
 登録番号：(北海道) とうもろこし(飼) 準輸交
 第59号
 (種苗法) 第5853号

セールスポイント

多収で耐倒伏性が強い早生品種である。

来歴：本品種は、アメリカのパイオニア社が育成したデ
 ント種×フリント種の単交配一代雑種である。1992年に
 ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1993年より「ディ
 アHT」の系統名で各種の試験を行い、1997年に優良品
 種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」より1～2日早く
 「ディア」並である。収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」
 並かやや遅れ「ディア」並である。総体の乾物率は
 「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」並かやや高い。熟

期は早生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」より
 やや強い。
3. 発芽は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」並である。
 初期生育は「ヘイゲンミノリ」並かやや劣り、「ディ
 ア」並かやや優れる。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」よ
 り多く「ディア」よりやや多い。推定乾物中TDN割
 合は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」並かやや低い。
5. 稈長及び着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」より高く
 「ディア」並である。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ディア」
 より強く「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。ごま葉枯
 病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ヘイゲンミノリ」
 より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、道央北部及び網走内陸である。
 一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾 物 率 (%)	乾 物 中 T D N (%)	試 験 年 次
						乾 総 重 (kg)	T D N (kg)	同 左 比 (%)			
十 勝 農 試	デ ィ ア H T	1.6	8. 3	0.0	黄 初	1,310	947	104	29.4	72.3	1994～1996
	ヘ イ ゲ ン ミ ノ リ	1.3	8. 4	0.3	黄 初	1,257	912	100	29.0	72.6	
	デ ィ ア	1.7	8. 3	0.0	黄 初	1,282	929	102	28.3	72.4	
上 川 農 試	デ ィ ア H T	1.9	7.25	0.6	黄中～後	1,789	1,251	112	28.9	70.2	1994～1996
	ヘ イ ゲ ン ミ ノ リ	1.9	7.27	1.2	黄 後	1,574	1,117	100	26.9	71.2	
	デ ィ ア	2.1	7.25	1.5	黄中～後	1,657	1,173	105	27.6	70.9	
北 見 農 試	デ ィ ア H T	1.8	8.11	0.4	糊 後	1,437	1,027	109	27.1	71.4	1994～1996
	ヘ イ ゲ ン ミ ノ リ	1.6	8.13	3.3	糊 後	1,310	939	100	28.1	71.7	
	デ ィ ア	2.7	8.13	1.9	糊 後	1,354	965	103	26.4	71.1	

参照 1) 北海道農政部編, 平成9年普及奨励ならびに指導参考事項, 12-14 (1997).

(8) **ノルダ** (系統名 **ノルダ**) 1998年
 登録番号：(北海道) とうもろこし(飼) 準輸交
 第60号

セールスポイント

初期生育が良好な早生品種である。

来歴 本品種は、フランスのパイオニア社が育成したデ
 ント種×(フリント種×デント種)の三系交配一代雑種
 である。1993年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、
 1995年より「ノルダ」の系統名で各種の試験を行い、
 1998年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ダイヘイゲン」並か1～2日遅い。
 収穫時熟度は「ダイヘイゲン」並である。総体の乾物
 率は「ダイヘイゲン」より高い。熟期は早生の中に属
 する。
2. 耐倒伏性は「ダイヘイゲン」並である。
3. 発芽は「ダイヘイゲン」よりやや遅い。初期生育は
 「ダイヘイゲン」よりやや劣る。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ダイヘイゲン」並か
 やや多い。推定乾物中TDN割合は「ダイヘイゲン」
 よりやや低い。
5. 稈長は「ダイヘイゲン」よりやや高い。着雌穂高は

「ダイヘイゲン」より高い。雌穂先端部の子実は露出する。

6. すず紋病抵抗性及びごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝、網走ならびに根釧、道北の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ノ ル ダ	1.7	8.3	4.5	黄 初	1,245	891	106	29.4	71.6	1995～1997
	ダイヘイゲン	1.1	8.3	3.5	黄 初	1,162	840	100	27.6	72.3	
北 見 農 試	ノ ル ダ	2.6	8.10	2.0	糊 中	1,358	960	98	25.5	70.7	1995～1997
	ダイヘイゲン	1.7	8.10	1.5	糊 中	1,368	979	100	23.5	71.5	
根 釧 農 試	ノ ル ダ	1.6	8.26	0.0	糊 中	1,139	770	105	24.9	67.6	1995～1997
	ダイヘイゲン	1.4	8.25	1.8	糊初～中	1,070	734	100	22.0	68.6	
天 北 農 試	ノ ル ダ	1.4	8.27	0.0	乳後～糊初	1,017	691	97	22.9	67.5	1995～1997
	ダイヘイゲン	1.0	8.25	0.0	糊 初	1,023	712	100	21.2	69.2	

参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 38-39 (1998).

(9) ピリカ90 (系統名 SL9305) 1998年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準北海道
交第61号

セールスポイント

やや多収で耐倒伏性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は、雪印種苗株式会社育成したテント種×フリント種の単交配一代雑種である。1995年より「SL9305」の系統名で各種の試験を行い、1998年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期及び収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」並である。総体の乾物率は「ヘイゲンミノリ」並かやや

高い。熟期は早生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。

3. 発芽は「ヘイゲンミノリ」よりやや遅い。初期生育は「ヘイゲンミノリ」並である。

4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」よりやや多い。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」よりやや高い。

5. 稈長及び着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」より高い。

6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ヘイゲンミノリ」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、道央北部及び網走内陸である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ピ リ カ 90	1.2	8.6	0.3	糊後～黄初	1,358	986	110	27.4	72.6	1995～1997
	ヘイゲンミノリ	1.1	8.6	0.9	糊後～黄初	1,253	893	100	27.0	71.3	
	デ ィ ア	1.7	8.6	0.9	糊後～黄初	1,295	925	104	27.1	71.4	
上 川 農 試	ピ リ カ 90	1.7	7.28	0.0	黄 中	1,739	1,236	105	28.9	71.0	1995～1997
	ヘイゲンミノリ	1.7	7.27	0.5	黄中～後	1,659	1,177	100	27.1	71.1	
	デ ィ ア	2.0	7.25	0.0	黄 中	1,714	1,211	103	27.7	70.7	
北 見 農 試	ピ リ カ 90	1.9	8.14	1.0	糊 後	1,421	1,013	103	23.8	71.3	1995～1997
	ヘイゲンミノリ	1.5	8.14	4.8	糊 中	1,400	986	100	23.5	70.3	
	デ ィ ア	2.8	8.14	16.8	糊 後	1,361	951	96	23.7	69.9	

参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 40-41 (1998).

(10) クラリカ (系統名 3893) 1998年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第62号

セールスポイント

多収で、ごま葉枯病抵抗性が強い中生品種である。

来歴 本品種は、アメリカのパイオニア社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。1994年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、1995年より「3893」の系統名で各種の試験を行い、1998年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「キタユタカ」より1日程度、「3790」より2日程度遅い。収穫時熟度は「キタユタカ」よりやや進み、「3790」並である。総体の乾物率は「キタ

ユタカ」より高く、「3790」並である。熟期は中生の中に属する。

2. 耐倒伏性は「キタユタカ」よりやや強く、「3790」並である。
3. 発芽及び初期生育は「キタユタカ」及び「3790」並である。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「キタユタカ」より多く、「3790」よりやや多い。推定乾物中TDN割合は「キタユタカ」より高く、「3790」よりやや高い。
5. 稈長及び着雌穂高は「キタユタカ」より高く、「3790」並かやや高い。
6. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」よりやや強く、「3790」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強く、「3790」並かやや強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾 物 率 (%)	乾 物 中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 海 道 農 試	ク ラ リ カ	1.3	8. 5	0.0	黄初～中	1,738	1,278	114	30.2	73.6	1995,1997
	キ タ ユ タ カ	1.1	8. 6	0.3	黄初～中	1,537	1,117	100	26.7	72.7	
	3 7 9 0	1.5	8. 7	0.0	黄 中	1,708	1,241	111	30.4	72.7	
滝 川 畜 試	ク ラ リ カ	1.5	8. 9	1.6	黄初～中	1,781	1,279	109	26.7	71.9	1995～1997
	キ タ ユ タ カ	1.6	8.10	2.4	糊後～黄初	1,664	1,178	100	24.8	70.8	
	3 7 9 0	1.8	8.11	0.2	黄初～中	1,728	1,235	105	27.8	71.5	
上 川 農 試	ク ラ リ カ	2.1	7.30	0.5	黄中～後	1,926	1,391	116	29.3	72.3	1995～1997
	キ タ ユ タ カ	1.9	7.30	4.3	黄 中	1,693	1,202	100	26.3	71.0	
	3 7 9 0	1.9	7.31	0.0	黄 中	1,856	1,331	111	29.6	71.8	

参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 36-37 (1998).

(11) KD354 (系統名 KD354) 1999年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第63号

セールスポイント

やや多収な早生品種である。

来歴 本品種は、ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1994年にカネコ種苗株式会社が導入し、1995年より「KD354」の系統名で各種の試験を行い、1999年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」より2～3日早く、「ディア」並である。収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」よりやや進む。総体の乾物率は「ヘイゲンミノリ」並かやや高く、「ディア」並である。熟期は早生の晩に属する。
2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」並である。
3. 発芽は「ヘイゲンミノリ」よりやや遅い。初期生育は「ヘイゲンミノリ」並である。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」よりやや多い。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」よりやや高い。
5. 稈長及び着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」よりやや高い。

6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く、「ヘイゲンミノリ」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部，網走内陸及び道央北部である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	K D 3 5 4	1.4	8.5	33.6	黄 初	1,241	896	108	25.9	72.2	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.1	8.8	34.1	糊後～黄初	1,170	828	100	24.6	70.8	
	デ ィ ア	1.6	8.6	31.6	糊後～黄初	1,272	908	110	26.0	71.4	
北 見 農 試	K D 3 5 4	1.4	8.14	17.6	糊後～黄初	1,446	1,015	100	23.5	70.2	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.4	8.14	14.1	糊 中	1,444	1,017	100	23.5	70.4	
上 川 農 試	K D 3 5 4	1.2	7.24	0.0	黄中～後	1,736	1,259	103	30.4	72.1	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.0	7.27	0.2	黄 中	1,703	1,222	100	29.1	71.8	
	デ ィ ア	1.7	7.24	0.0	黄 中	1,742	1,244	102	30.5	71.4	

参照 1) 北海道農政部編，平成11年普及奨励ならびに指導参考事項，29-30 (1999)。

(12) ロイヤルデント85H (系統名 TH9434) 1999年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸交
第64号

セールスポイント

やや多収な早生品種である。

来歴 本品種は，ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したデント種×フリント種の三系交配一代雑種である。1994年にタキイ種苗株式会社が導入し，1995年より「TH9434」の系統名で各種の試験を行い，1999年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」より2日程度早く，「ディア」並である。収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」よりやや進む。総体の乾物率は「ヘイ

ゲンミノリ」並で，「ディア」よりやや低い。熟期は早生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」並である。

3. 発芽は「ヘイゲンミノリ」よりやや遅く，初期生育は「ヘイゲンミノリ」よりやや劣る。

4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」よりやや多い。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」並である。

5. 稈長は「ヘイゲンミノリ」並で，着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」より高い。

6. すず紋病抵抗性及びごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く，「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部，網走内陸及び道央北部である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ロイヤルデント85H	1.6	8.6	33.8	黄 初	1,192	859	104	24.1	72.1	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.1	8.8	34.1	糊後～黄初	1,170	828	100	24.6	70.8	
	デ ィ ア	1.6	8.6	31.6	糊後～黄初	1,227	908	110	26.0	71.4	
北 見 農 試	ロイヤルデント85H	2.4	8.14	22.5	糊後～黄初	1,485	1,043	103	23.3	70.3	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.4	8.14	14.1	糊 中	1,444	1,017	100	23.5	70.4	
上 川 農 試	ロイヤルデント85H	1.6	7.25	0.0	黄中～後	1,726	1,236	101	28.6	71.6	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.0	7.27	0.2	黄 中	1,703	1,222	100	29.1	71.8	
	デ ィ ア	1.7	7.24	0.0	黄 中	1,742	1,244	102	30.5	71.4	

参照 1) 北海道農政部編，平成11年普及奨励ならびに指導参考事項，30-31 (1999)。

(13) ノベタ (系統名 ノベタ) 2000年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第65号

セールスポイント

やや多収な早生品種である。

来歴 本品種は、フランスのパイオニア社が育成したフ
リントデント種×フリント種の単交配一代雑種である。
1994年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、1995年
より「ノベタ」の系統名で各種の試験を行い、2000年に
優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」より2～3日早く、
「ディア」より1日早い。収穫時熟度は「ヘイゲンミ
ノリ」及び「ディア」並である。総体の乾物率は「ヘ

イゲンミノリ」より高く、「ディア」並かやや高い。
熟期は早生の晩に属する。
2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」並である。
3. 発芽は「ヘイゲンミノリ」より遅く、初期生育は
「ヘイゲンミノリ」よりやや劣る。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」よ
りやや多い。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミ
ノリ」より高い。
5. 稈長及び着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」より高く、
「ディア」並である。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ヘイゲン
ミノリ」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘ
イゲン」よりやや強く、「ヘイゲンミノリ」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、道央北部及び網走内陸である。
一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ノ ベ タ	1.4	8. 5	36.3	糊後～黄初	1,254	913	110	26.2	72.8	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.1	8. 8	34.1	糊後～黄初	1,170	828	100	24.6	70.8	
	デ ィ ア	1.6	8. 6	31.6	糊後～黄初	1,227	908	110	26.0	71.4	
北 見 農 試	ノ ベ タ	1.8	8. 6	14.9	黄 初	1,460	1,061	100	28.6	72.7	1997～1999
	ヘイゲンミノリ	1.7	8. 9	14.1	糊 後	1,486	1,058	100	26.4	71.2	
上 川 農 試	ノ ベ タ	1.5	7.24	0.0	黄 中	1,791	1,304	105	32.0	72.8	1997～1999
	ヘイゲンミノリ	1.1	7.25	0.0	黄 中	1,709	1,240	100	31.0	72.1	
	デ ィ ア	1.8	7.24	0.0	黄 中	1,792	1,277	103	31.0	71.2	

参照 1) 北海道農政部編, 平成12年普及奨励ならびに指導参考事項, 49-51 (2000).

(14) ロイヤルデントアポロ90(系統名 TH9597)2000年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第66号

セールスポイント

耐倒伏性が強い早生品種である。

来歴：本品種は、フランスのフランス・カナダセメンシ
ス社が育成したフリント種×デント種の単交配一代雑種
である。1995年にタキイ種苗株式会社が導入し、1996年
より「TH9597」の系統名で各種の試験を行い、2000年
に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ディア」より1日遅い。収穫時熟度

は「ディア」並である。総体の乾物率は「ディア」よ
りやや高い。熟期は早生の晩に属する。
2. 耐倒伏性は「ディア」並かやや強い。
3. 発芽は「ディア」並で、初期生育は「ディア」より
やや劣る。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ディア」並である。
乾雌穂重割合は「ディア」よりやや高く、推定乾物中
TDN割合は「ディア」並かやや高い。
5. 稈長は「ディア」並で、着雌穂高は「ディア」より
低い。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「ディ
ア」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲ
ン」よりやや強く、「ディア」並である。

栽培適地と奨励態度

一般栽培に準じて栽培できる。

栽培適地は十勝中部，道央北部及び網走内陸である。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ア ポ ロ 90	6.6	8. 4	28.6	黄 初	1,313	954	99	27.6	72.6	1997～1999
	デ ィ ア	6.8	8. 2	31.6	黄 初	1,341	964	100	27.2	71.9	
北 見 農 試	ア ポ ロ 90	5.2	8. 7	15.4	黄 初	1,557	1,126	103	29.7	72.3	1997～1999
	デ ィ ア	6.0	8. 8	27.1	黄 初	1,543	1,098	100	27.7	71.1	
上 川 農 試	ア ポ ロ 90	6.7	7.25	0.0	黄 中	1,807	1,305	102	32.8	72.2	1997～1999
	デ ィ ア	7.3	7.24	0.0	黄 中	1,792	1,277	100	31.0	71.2	

参照 1) 北海道農政部編，平成12年普及奨励ならびに指導参考事項，52-54 (2000).

(15) DK483 (系統名 SH6547) 2000年

登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第67号

セールスポイント

多収で，耐倒伏性がやや強い晩生品種である。

来歴 本品種は，アメリカのデカルブ・プラント・ジェネティクス社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。1995年に雪印種苗株式会社が導入し，1997年より「SH6547」の系統名で各種の試験を行い，2000年に優良品種となった。

2. 耐倒伏性は「P3732」並かやや強い。
3. 発芽は「P3732」よりやや早く，初期生育は「P3732」より優れる。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「P3732」より多い。乾雌穂重割合は「P3732」と同程度である。開花期前後の多雨・寡照・高温条件により，有効雌穂割合が低下することがある。その程度は「P3732」並である。
5. 稈長は「P3732」より短く，着雌穂高は「P3732」並かやや低い。
6. すず紋病抵抗性は「3540」より強く，「P3732」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「3540」及び「P3732」と同程度である。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「P3732」とほぼ同じである。収穫時熟度及び総体の乾物率は「P3732」と同程度である。熟期は晩生の早に属する。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央（北部を除く）及び道南である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 海 道 農 試	D K 4 8 3	7.0	8. 7	25.5	黄初～中	1,776	1,269	111	26.8	71.2	1997～1999
	P 3 7 3 2	5.8	8. 8	31.5	黄 中	1,636	1,146	100	26.4	69.3	
滝 川 畜 試	D K 4 8 3	8.0	8.16	11.4	黄 初	1,797	1,279	100	23.3	71.1	1997～1999
	P 3 7 3 2	6.2	8.16	18.1	黄 中	1,765	1,280	100	25.7	72.5	
道 南 農 試	D K 4 8 3	7.5	8. 7	33.5	黄 中	1,800	1,291	117	32.6	71.8	1997～1999
	P 3 7 3 2	6.3	8. 7	34.0	黄 中	1,558	1,107	100	29.6	71.1	

注) 滝川畜試の1999年は適期播種ができなかったため，倒伏のみ1997～1999年の平均とし，その他の形質は1997～1998年の平均とした。

参照 1) 北海道農政部編，平成12年普及奨励ならびに指導参考事項，55-57 (2000).

(16) **DK566** (系統名 DK566) 2000年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸交
第68号

セールスポイント

耐倒伏性およびごま葉枯病抵抗性が強い晩生品種である。

来歴 本品種は、アメリカのデカルブ・プラント・ジェネティクス社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。1995年にカネコ種苗株式会社が導入し、1997年より「DK566」の系統名で各種の試験を行い、2000年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「3540」より約1日早い。収穫時熟度

は「3540」並かやや遅れる。総体の乾物率は「3540」並かやや高い。熟期は晩生の中に属する。
2. 耐倒伏性は「3540」並である。
3. 発芽は「3540」並で、初期生育は「3540」並かやや劣る。
4. 乾総重は「3540」並かやや少なく、推定TDN収量は「3540」並である。乾雌穂重割合は「3540」より高い。
5. 稈長及び着雌穂高は「3540」並である。
6. すず紋病抵抗性は「3540」より強く、「P3732」と同程度である。ごま葉枯病抵抗性は「3540」及び「P3732」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央(北部を除く)及び道南である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	D K 5 6 6	5.4	8.12	29.6	糊後～黄初	1,866	1,347	99	25.6	72.2	1997～1999
	3 5 4 0	6.5	8.13	30.1	黄初～中	1,928	1,360	100	26.3	70.5	
滝川畜試	D K 5 6 6	8.9	8.19	27.2	黄初～中	1,925	1,391	97	23.6	77.2	1997～1999
	3 5 4 0	7.3	8.19	17.0	黄 中	2,032	1,441	100	23.6	70.8	
道南農試	D K 5 6 6	6.5	8.9	34.4	黄 中	1,826	1,315	103	30.2	72.1	1997～1999
	3 5 4 0	7.8	8.11	33.3	黄 中	1,810	1,272	100	30.0	70.3	

注) 滝川畜試の1999年は適期播種ができなかったため、倒伏のみ1997～1999年の平均とし、その他の形質は1997～1998年の平均とした。

参照 1) 北海道農政部編, 平成12年普及奨励ならびに指導参考事項, 58-60 (2000).

(17) **モノポール85** (系統名 TH9623) 2001年
登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸交
第69号

セールスポイント

多収で、耐倒伏性が強く、すず紋病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種はドイツのクラインワンツレーベン社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1996年にタキイ種苗株式会社が導入し、1998年より「TH9623」の系統名で各種の試験を行い、2001年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ディア」より約1～2日早く、収穫

時熟度は「ディア」よりやや進む。総体の乾物率は「ディア」並である。熟期は早生の晩である。
2. 初期生育は「ディア」より優れ、稈長は「ディア」よりやや高く、着雌穂高は「ディア」並である。耐倒伏性は「ディア」並である。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ディア」よりやや強く、ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや弱く、「ディアHT」より弱い。
4. 乾総重、推定TDN収量は「ディア」より多く、乾雌穂重割合は「ディア」よりやや高い。推定乾物中TDN割合は「ディア」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、網走内陸及び道央北部地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	モ ノ ボ ル 85	7.3	8. 4	4.7	黄 初	1,583	1,155	105	29.2	72.9	1998～2000
	デ ィ ア	5.5	8. 5	11.6	黄 初	1,526	1,105	100	29.8	72.4	
十 勝 農 試	モ ノ ボ ル 85	7.1	7.30	33.3	黄初～中	1,467	1,074	109	25.6	73.2	1998～2000
	デ ィ ア	5.7	7.31	30.8	黄 初	1,348	989	100	26.2	73.3	
上 川 農 試	モ ノ ボ ル 85	8.5	7.21	1.1	黄中～後	1,853	1,338	110	31.3	72.2	1998～2000
	デ ィ ア	6.6	7.23	0.2	黄 中	1,718	1,221	100	30.9	71.1	

参照 1)北海道農政部編, 平成13年普及奨励ならびに指導参考事項, 40-42 (2001).

(18) 35G86 (系統名 X1045T) 2001年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第70号

セールスポイント

多収で, 耐倒伏性がやや強く, ごま葉枯病抵抗性が強い晩生品種である。

来歴 本品種は, アメリカのパイオニア社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。1996年にホクレン農業協同組合連合会が導入し, 1998年より「X1045T」の系統名で各種の試験を行い, 2001年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「P3732」より約1日遅く, 収穫時熟度及び総体の乾物率はほぼ「P3732」並である。熟期は晩生の早である。
2. 初期生育は「P3732」より優れ, 稈長および着雌穂高は「P3732」より高い。耐倒伏性はほぼ「P3732」並である。
3. すず紋病抵抗性及びごま葉枯病抵抗性は「3540」より強く, 「P3732」並である。
4. 乾総重, 推定TDN収量は「P3732」より多く, 乾雌穂重割合は「P3732」よりやや低い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央(北部を除く)及び道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 海 道 農 試	3 5 G 8 6	5.6	8. 7	31.1	黄 初	2,013	1,447	124	30.0	71.9	1998～2000
	P 3 7 3 2	4.5	8. 6	31.5	黄初～中	1,665	1,171	100	27.0	69.6	
畜 試 滝川試験地	3 5 G 8 6	7.7	8.11	33.0	黄 中	2,078	1,503	106	27.3	72.4	1998～2000
	P 3 7 3 2	6.1	8.10	17.7	黄 中	1,925	1,418	100	27.4	73.7	
道 南 農 試	3 5 G 8 6	7.8	8. 5	63.1	黄 中	1,788	1,287	115	30.9	72.0	1998～2000
	P 3 7 3 2	6.3	8. 4	65.2	黄 中	1,562	1,122	100	29.6	71.9	

注) 畜試滝川試験地は倒伏のみ1998年～2000年の3か年平均値, その他の形質は1999年を除く2か年平均値。

参照 1)北海道農政部編, 平成13年普及奨励ならびに指導参考事項, 43-45 (2001).

(19) カリメラ (系統名 カリメラ) 2002年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第72号

セールスポイント

多収で耐倒伏性が強い早生品種である。

来歴 本品種は, アメリカのパイオニア社が育成したデ

ント種×フリント種の単交配一代雑種である。1997年にホクレン農業協同組合連合会が導入し, 1999年より「カリメラ」の系統名で各種の試験を行い, 2002年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ディアHT」より1日遅く, 収穫時

熟度及び総体の乾物率は「ディアHT」並である。熟期は早生の晩である。

- 初期生育は「ディアHT」よりやや劣り、稈長及び着雌穂高は「ディアHT」より高い。耐倒伏性は「ディアHT」並である。
- すす紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く、「ディアHT」よりやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「ディアHT」よりやや強

い。

- 乾総重、推定TDN収量は「ディアHT」より多く、乾雌穂重割合及び推定乾物中TDN割合は「ディアHT」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部及び網走内陸地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	カ リ メ ラ	5.1	8. 4	7.8	黄 後	1,734	1,267	113	30.1	73.1	1999～2001
	デ ィ ア H T	5.4	8. 3	0.0	黄 中	1,550	1,125	100	29.1	72.6	
十 勝 農 試	カ リ メ ラ	4.5	7.29	0.6	黄 中	1,570	1,155	111	27.9	73.6	1999～2001
	デ ィ ア H T	5.1	7.29	0.0	黄初～中	1,426	1,045	100	26.9	73.3	
上 川 農 試	カ リ メ ラ	6.5	7.23	0.9	黄 中	1,790	1,242	102	29.6	69.3	1999～2001
	デ ィ ア H T	7.2	7.23	0.5	黄 中	1,737	1,218	100	29.5	70.1	

参照 1)北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 29-30 (2002).

20 ジェレミス (系統名 JEREMIS) 2002年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第73号

セールスポイント

多収で、耐倒伏性が強く、すす紋病抵抗性がやや強い中生品種である。

来歴 本品種は、フランスのポー・セマース社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1997年に株式会社ゲン・コーポレーションが導入し、1999年より「JEREMIS」の系統名で各種の試験を行い、2002年に優良品種となった。

特性概要

- 絹糸抽出期は「DK300」より2日早く、収穫時熟

度は「DK300」並である。総体の乾物率は「DK300」よりやや低い。熟期は中生の早である。

- 初期生育は「DK300」より優れ、稈長及び着雌穂高は「DK300」より高い。耐倒伏性は「DK300」並である。
- すす紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く、「DK300」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」及び「DK300」並である。
- 乾総重、推定TDN収量は「DK300」より多く、乾雌穂重割合は「DK300」より高い。推定乾物中TDN割合は「DK300」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部、十勝中部及び網走内陸の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	ジ ャ レ ミ ス	6.2	8. 4	0.6	黄 中	1,638	1,202	109	27.9	73.5	1999～2001
	D K 3 0 0 0	5.0	8. 6	6.7	黄 中	1,518	1,102	100	28.1	72.6	
十 勝 農 試	ジ ャ レ ミ ス	5.9	7.31	0.3	黄初～中	1,611	1,182	110	26.3	73.4	1999～2001
	D K 3 0 0 0	4.9	8. 2	0.0	黄 初	1,472	1,079	100	26.8	73.3	
上 川 農 試	ジ ャ レ ミ ス	8.0	7.24	1.9	黄中～後	1,917	1,419	105	34.8	74.2	1999～2001
	D K 3 0 0 0	6.4	7.27	0.5	黄 中	1,837	1,347	100	34.5	73.2	

参照 1)北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 31-32 (2002).

(21) 36A43 (系統名 36A43) 2002年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第71号

セールスポイント

やや多収で、すす紋病抵抗性がやや強く、ごま葉枯病抵抗性が強い晩生品種である。

来歴 本品種は、アメリカのパイオニア社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。1997年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、1999年より「36A43」の系統名で各種の試験を行い、2002年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「3845」より1～2日遅く、収穫時熟

度は「3845」よりやや遅れる。総体の乾物率は「3845」並かやや低い。熟期は中生の晩である。

- 初期生育は「3845」よりやや劣る。稈長は「3845」並で着雌穂高は「3845」より高い。耐倒伏性は「3845」よりやや強い。
- すす紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く「3845」並かやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強く「3845」よりやや強い。
- 乾総重、推定TDN収量は「3845」よりやや多い。乾雌穂重割合は「3845」よりやや低い。開花期前後の多雨・少日照条件により有効雌穂割合が低下することがある。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央（北部を除く）及び道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 農 研 セ ン タ ー	3 6 A 4 3	6.3	8. 6	2.5	黄 中	1,971	1,427	110	30.9	72.4	1999～2001
	3 8 4 5	7.5	8. 3	19.5	黄初～中	1,788	1,302	100	30.1	72.8	
上 川 農 試	3 6 A 4 3	6.6	8. 1	14.4	黄初～中	2,086	1,487	100	31.3	71.4	1999～2001
	3 8 4 5	7.5	7.30	14.8	黄中～後	2,034	1,483	100	33.9	72.9	
畜 試 滝川試験地	3 6 A 4 3	5.5	8. 9	24.0	黄後	1,821	1,317	107	28.1	72.2	1999～2001
	3 8 4 5	6.5	8. 7	49.0	黄後	1,681	1,229	100	29.5	73.0	

注)畜試滝川試験地は倒伏のみ1999年～2001年の3か年平均値、その他の形質は1999年を除く2か年平均値。

参照 1)北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 33-34 (2002).

(22) おおぞら (系統名 北交55号) 2002年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 北海道交
第71号
(農水省) とうもろこし農林交56号
(種苗法) 第 号

セールスポイント

やや多収で、耐倒伏性が強く、ごま葉枯病抵抗性がやや強い中生品種である。

来歴 本品種は、独立行政法人北海道農業研究センターが、耐倒伏性が強く、初期生育に優れ登熟の早い安定・多収な中生品種の育成を目標に、「Ho57」を種子親、「Ho49」を花粉親として育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1998年に「月交580」、1999年より「北交55号」の系統名で各種の試験を行い、2002年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「3790」より1日遅く「3845」並で、

総体の乾物率は「3790」並である。熟期は中生の中である。

- 初期生育は「3790」より優れ「3845」並である。稈長は「3790」より高く、「3845」よりやや高い。着雌穂高は「3790」及び「3845」より高い。耐倒伏性は「3790」及び「3845」より強い。
- すす紋病抵抗性は「キタユタカ」よりやや強く「3790」及び「3845」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強く「3845」並で、「3790」より弱い。
- 乾総重、推定TDN収量は「3790」及び「3845」よりやや多い。乾雌穂重割合は「3790」及び「3845」よりやや低い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央（北部を除く）及び道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。密植適性は比較的高いが、栽植密度は6,800～8,000本/10 a程度とする。

試験場名	品 種 名	初 生 期 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾 物 率 (%)	試 験 年 次
						乾 総 重 (kg)	T D N (kg)	同 左 比 (%)		
北 農 研 セ ン タ ー	お お ぞ ら	8.4	8.4	9.0	黄 中	1,863	1,344	106	29.6	1997～2001
	3 7 9 0	6.9	8.5	32.3	黄 中	1,765	1,273	100	29.7	
	3 8 4 5	7.5	8.5	37.9	黄初～中	1,809	1,318	104	30.0	
上 川 農 試	お お ぞ ら	7.2	7.31	3.0	黄中～後	2,052	1,458	100	34.5	1998～2001
	3 7 9 0	7.4	7.28	10.4	黄中～後	1,995	1,455	100	34.0	
	3 8 4 5	7.7	7.29	10.7	黄中～後	2,028	1,479	102	33.6	
畜 試 滝 川 試 験 地	お お ぞ ら	6.7	8.8	12.7	黄 後	1,712	1,238	102	30.3	2000～2001
	3 7 9 0	4.5	8.7	24.7	黄中～後	1,676	1,215	100	29.7	
	3 8 4 5	6.5	8.8	57.3	黄中～後	1,680	1,228	101	29.4	

参照 1)北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 35-36 (2002).
2)濃沼圭一 等, 北海道農研研報, 180, 1-17(2004).

23) ビスカ (系統名 X0826X) 2003年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第74号

セールスポイント

やや多収で, 耐倒伏性及びすす紋病抵抗性がやや強い
早生品種である。

来歴 本品種は, アメリカのパイオニア社が育成したデ
ント種×フリント種の単交配一代雑種である。1998年に
ホクレン農業協同組合連合会が導入し, 1999年より
「X0826X」の系統名で各種の試験を行い, 2003年に優
良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「オーロラ82」より4日遅く, 収穫時

熟度は「オーロラ82」よりやや遅れる。総体の乾物率
は「オーロラ82」よりやや高い。熟期は早生の中であ
る。

2. 初期生育は「オーロラ82」並で, 稈長および着雌穂
高は「オーロラ82」より高い。耐倒伏性は「オーロラ
82」並である。

3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」および「オーロ
ラ82」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲ
ン」よりやや強く「オーロラ82」よりやや弱い。

4. 乾総重, 推定TDN収量は「オーロラ82」よりやや
多く, 乾雌穂重割合及び推定乾物中TDN割合は「オー
ロラ82」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部, 十勝及び網走地域である。一般
栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 生 期 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾 物 率 (%)	乾 物 中 T D N (%)	試 験 年 次
						乾 総 重 (kg)	T D N (kg)	同 左 比 (%)			
北 見 農 試	ビ ス カ	6.3	8.10	5.0	黄 中	1,651	1,177	103	24.5	71.3	2000～2002
	オ ー ロ ラ 82	5.9	8.8	0.0	黄 中	1,589	1,139	100	22.6	71.6	
十 勝 農 試	ビ ス カ	5.7	8.2	0.2	黄 初	1,622	1,179	107	27.7	72.7	2000～2002
	オ ー ロ ラ 82	5.7	7.29	2.0	黄初～中	1,512	1,102	100	25.7	72.9	
上 川 農 試	ビ ス カ	7.2	7.26	0.5	黄初～中	1,936	1,398	109	29.8	72.2	2000～2002
	オ ー ロ ラ 82	7.5	7.23	0.0	黄中～後	1,778	1,283	100	28.0	72.2	

参照 1)北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 25-26 (2003).

⑭ リッチモンド (系統名 HE9815) 2003年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第75号

セールスポイント

やや多収で、耐倒伏性がやや強く、ごま葉枯病抵抗性が強い早生品種である。

来歴 本品種は、フランスのリマグレイン社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1998年に雪印種苗株式会社が導入し、2000年より「HE9815」の系統名で各種の試験を行い、2003年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「オーロラ82」より1日遅く、収穫時

熟度は「オーロラ82」並である。総体の乾物率は「オーロラ82」より高い。熟期は早生の中である。

2. 初期生育は「オーロラ82」並である。稈長は「オーロラ82」並で、着雌穂高は「オーロラ82」よりやや低い。耐倒伏性は「オーロラ82」並である。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く「オーロラ82」並である。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「オーロラ82」より強い。
4. 乾総重、推定TDN収量は「オーロラ82」よりやや多く、乾雌穂重割合は「オーロラ82」並かやや低い。推定乾物中TDN割合は「オーロラ82」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部、十勝及び網走地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	リッチモンド	5.7	8.9	0.0	黄 中	1,635	1,158	100	26.0	70.8	2000～2002
	オーロラ82	5.9	8.7	0.0	黄 中	1,610	1,155	100	22.4	71.6	
十 勝 農 試	リッチモンド	5.8	7.28	0.3	黄 中	1,637	1,202	109	30.1	73.4	2000～2002
	オーロラ82	5.7	7.29	2.0	黄初～中	1,512	1,102	100	25.7	72.9	
上 川 農 試	リッチモンド	7.2	7.23	0.0	黄 中	1,987	1,436	112	31.9	72.3	2000～2002
	オーロラ82	7.5	7.23	0.0	黄中～後	1,778	1,283	100	28.0	72.2	

参照 1)北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 27-28 (2003).

⑮ SL9851 (系統名 SL9851) 2003年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準北海
道交第76号

セールスポイント

やや多収で、耐倒伏性及びごま葉枯病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は、雪印種苗株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2000年より「SL9851」の系統名で各種の試験を行い、2003年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ディアHT」より3日遅いが、低温条件ではやや遅れることがある。収穫時熟度及び総体

の乾物率は「ディアHT」並である。熟期は早生の晩である。

2. 初期生育は「ディアHT」よりやや劣る。稈長は「ディアHT」よりやや高く、着雌穂高は「ディアHT」並である。耐倒伏性は「ディアHT」並である。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く「ディアHT」並である。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ディアHT」より強い。
4. 乾総重、推定TDN収量は「ディアHT」よりやや多く、乾雌穂重割合及び推定乾物中TDN割合は「ディアHT」並かやや低い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部及び網走内陸の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	S L 9 8 5 1	5.1	8.11	1.7	黄 初	1,522	1,070	101	24.4	70.3	2000～2002
	デ ィ ア H T	5.4	8.7	0.0	黄 中	1,482	1,057	100	25.9	71.3	
十 勝 農 試	S L 9 8 5 1	4.2	8.2	0.7	黄初～中	1,561	1,125	107	26.6	72.0	2000～2002
	デ ィ ア H T	5.0	7.30	0.0	黄 初	1,447	1,052	100	25.8	72.7	
上 川 農 試	S L 9 8 5 1	5.8	7.26	1.4	黄 中	1,817	1,316	109	28.2	72.4	2000～2002
	デ ィ ア H T	6.6	7.24	1.4	黄初～中	1,708	1,203	100	27.7	70.3	

参照 1)北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 29-30 (2003).

(26) TH9861 (系統名 TH9861) 2003年
登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第77号

セールスポイント

多収で, 耐倒伏性がやや強く, 病害抵抗性が強い中生品種である。

来歴 本品種は, フランスカナダ・セメンセス社が育成したフロント種×デント種の単交配一代雑種である。1998年にタキイ種苗株式会社が導入し, 2000年より「TH9861」の系統名で各種の試験を行い, 2003年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ロイヤルデント90H」より約2日遅

く, 収穫時熟度及び総体の乾物率は「ロイヤルデント90H」並である。熟期は中生の早である。

- 初期生育は「ロイヤルデント90H」並で, 稈長及び着雌穂高は「ロイヤルデント90H」より高い。耐倒伏性は「ロイヤルデント90H」よりやや強い。
- すず紋病抵抗性は「ロイヤルデント90H」及び「キタユタカ」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「ロイヤルデント90H」よりやや強く, 「キタユタカ」より強い。
- 乾総重及び推定TDN収量は「ロイヤルデント90H」より多く, 乾雌穂重割合は「ロイヤルデント90H」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	T H 9 8 6 1	5.4	8.1	0.5	糊後～黄初	1,572	1,158	108	24.4	73.7	2000～2002
	ロイヤルデント90H	5.9	7.28	1.3	黄 初	1,460	1,069	100	25.6	73.2	
畜 試 滝川試験地	T H 9 8 6 1	6.3	8.5	1.7	黄 中	1,530	1,120	110	30.2	73.1	2000～2002
	ロイヤルデント90H	6.0	8.4	2.3	黄 中	1,401	1,020	100	26.8	72.8	
北 農 研 センター	T H 9 8 6 1	7.8	7.29	0.0	黄初～中	1,617	1,179	111	27.2	72.0	2000～2002
	ロイヤルデント90H	8.0	7.27	0.0	黄初～中	1,459	1,063	100	27.1	72.9	

参照 1)北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 31-32 (2003).

(27) チベリウス (系統名 HK9851) 2004年
登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 輸交
第26号

セールスポイント

多収で, 耐倒伏性及びごま葉枯病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は, ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したデント種×フロント種の単交配一代雑種である。1999年にホクレン農業協同組合連合会が導入し, 2000年より「HK9851」の系統名で各種の試験を行い, 2004年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期および収穫時熟度は「オーロラ82」並で、総体の乾物率は「オーロラ82」よりやや高い。熟期は「オーロラ82」と同じ早生の中である。
2. 初期生育は「オーロラ82」並である。稈長は「オーロラ82」よりやや高く、着雌穂高は「オーロラ82」並である。耐倒伏性は「オーロラ82」並である。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」並で「オーロラ82」よりやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイ

ゲン」及び「オーロラ82」より強い。

4. 乾総重、推定TDN収量は「オーロラ82」より多く、乾雌穂重割合は「オーロラ82」よりやや高い。推定乾物中TDN 割合は「オーロラ82」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部、十勝及び網走地域である。すす紋病抵抗性が「オーロラ82」よりやや弱いので、連作を避け、適正な肥培管理を行う。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	チ ベ リ ウ ス	5.9	8. 8	15.0	黄初～中	1,699	1,225	106	25.7	72.1	2001～2003
	オ ー ロ ラ 82	6.0	8. 9	0.0	黄初～中	1,610	1,157	100	23.6	71.7	
十 勝 農 試	チ ベ リ ウ ス	5.6	8. 2	0.7	黄初	1,755	1,274	110	27.6	72.6	2001～2003
	オ ー ロ ラ 82	5.8	8. 2	2.0	黄初	1,608	1,155	100	26.7	71.9	
上 川 農 試	チ ベ リ ウ ス	7.1	7.23	0.0	黄初～中	2,073	1,495	117	28.1	72.1	2001～2003
	オ ー ロ ラ 82	7.1	7.24	0.0	黄中	1,784	1,283	100	25.7	71.9	

参照 1)北海道農政部編，平成16年普及奨励ならびに指導参考事項，20-21 (2004)。

(28) ネオ85 (系統名 TH9952) 2004年

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)輸交
第27号

セールスポイント

やや多収で、耐倒伏性が強く、ごま葉枯病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は、ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1999年にタキイ種苗株式会社が導入し、2000年より「TH9952」の系統名で各種の試験を行い、2004年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ディアHT」より2日遅く、収穫時

熟度及び総体の乾物率は「ディアHT」並である。熟期は早生の晩である。

2. 初期生育は「ディアHT」並である。稈長及び着雌穂高は「ディアHT」並である。耐倒伏性は「ディアHT」並である。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く「ディアHT」並である。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ディアHT」より強い。
4. 乾総重、推定TDN収量は「ディアHT」よりやや多く、乾雌穂重割合及び推定乾物中TDN割合は「ディアHT」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部、十勝中部及び網走内陸地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	ネ オ 8 5	4.7	8.13	0.0	黄 初	1,550	1,090	104	23.0	70.4	2001～2003
	デ ィ ア H T	5.5	8. 9	0.0	黄 初	1,484	1,051	100	24.4	70.8	
十 勝 農 試	ネ オ 8 5	4.3	8. 5	0.7	黄 初	1,664	1,196	108	26.3	71.8	2001～2003
	デ ィ ア H T	4.9	8. 3	0.0	黄 初	1,557	1,111	100	26.8	71.4	
上 川 農 試	ネ オ 8 5	6.0	7.26	0.0	黄初～中	2,011	1,428	113	25.8	71.0	2001～2003
	デ ィ ア H T	6.1	7.25	0.0	黄初～中	1,772	1,260	100	26.4	71.1	

参照 1)北海道農政部編，平成16年普及奨励ならびに指導参考事項，22-23 (2004)。

⑨ 36B08 (系統名 36B08) 2004年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 輸交
第28号

セールスポイント

やや多収で、ごま葉枯病抵抗性がやや強い中生品種である。

来歴 本品種は、アメリカのパイオニア社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。2000年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、2001年より「36B08」の系統名で各種の試験を行い、2004年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「3845」並かやや遅く、収穫時熟度は

「3845」並かやや遅れる。総体の乾物率は「3845」よりやや低い。熟期は中生の晩である。

2. 初期生育は「3845」並かやや劣る。稈長は「3845」より低く、着雌穂高は「3845」並である。耐倒伏性は「3845」並である。

3. すず紋病抵抗性は「3845」並で「キタユタカ」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「3845」及び「キタユタカ」より強い。

4. 乾総重、推定TDN収量は「3845」よりやや多く、乾雌穂重割合は「3845」より低い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央（北部を除く）及び道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (9極良- 1極不良)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾 物 率 (%)	乾 物 中 T D N (%)	試 験 年 次
						乾 総 重 (kg)	T D N (kg)	同 左 比 (%)			
北 農 研 セ ン タ ー	3 6 B 0 8	6.2	8. 8	17.7	黄 中	1,932	1,377	105	27.9	71.3	2001～2003
	3 8 4 5	7.7	8. 7	10.2	黄 中	1,809	1,309	100	30.2	72.4	
上 川 農 試	3 6 B 0 8	6.5	7.31	0.0	黄 初	2,205	1,564	102	28.9	70.9	2001～2003
	3 8 4 5	6.5	7.31	1.4	黄初～中	2,120	1,528	100	30.6	72.1	
畜 試 滝 川 試 験 地	3 6 B 0 8	5.7	8.14	1.2	黄 中	1,647	1,165	103	25.9	70.5	2001～2003
	3 8 4 5	6.1	8.13	3.7	黄初～中	1,566	1,132	100	27.0	72.1	

参照 1)北海道農政部編，平成16年普及奨励ならびに指導参考事項，24-25 (2004)。

4. 大豆

(1) いわいくろ (系統名 中育39号) 1998年

登録番号(北海道) 大豆北海道第36号
(農水省) だいで農林107号
(種苗法) 第9796号

セールスポイント

早熟で極大粒の黒大豆で、粒が豊満であり煮豆加工適性に優れる品種である。

来歴 本品種は、極大粒、良質多収、ダイズわい化病抵抗性の黒大豆品種の育成を目標に、1986年に北海道立中央農業試験場において「晩生光黒」を母、「中育21号」を父に人工交配し、以降、系統育種法により選抜・育成した。1993年に「中系305号」、1994年から「中育39号」の系統名で各種試験を行い、1998年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

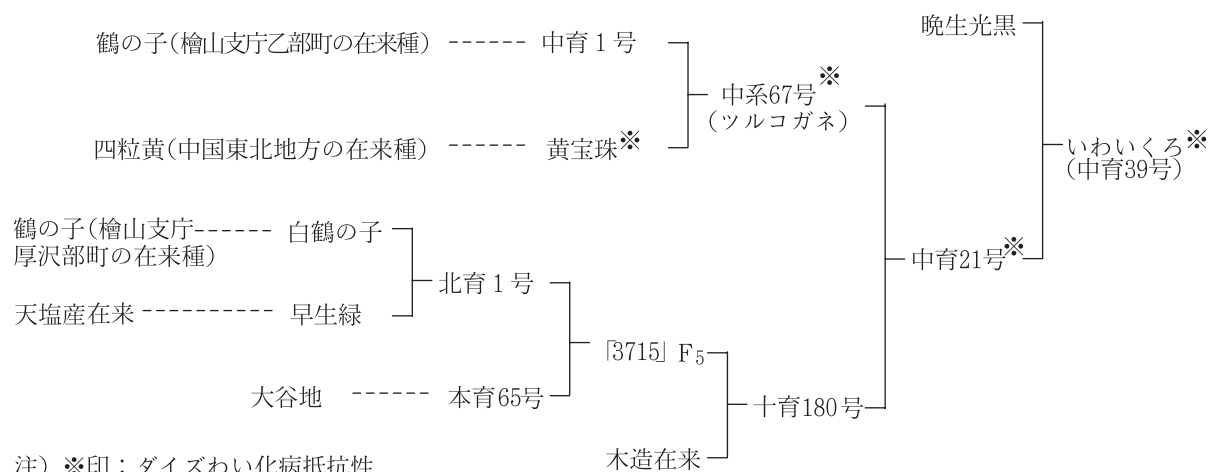
特性概要

1. 成熟期は、ほぼ「トカチクロ」並みの中生種である。
2. 主茎長は「中生光黒」、「晩生光黒」より短く倒伏はこれらより少ない。小葉は円葉、花色は白、毛茸色は褐、熟莢色は褐、裂莢の難易は易である。

3. 粒の大きさは極大粒で「中生光黒」より15%以上重い。粒形は扁球であるが丸みがあり豊満である。粒の光沢は「中生光黒」の強に対し中である。裂皮の難易は中で裂皮粒の発生は「中生光黒」より多いが、このうち、検査上問題となる大裂皮粒はあまり発生しない。外観品質は「中生光黒」より優れる。

4. 収量は「中生光黒」よりやや劣るが、規格内収量(道南の函黒規格、ふるい目9.1mm以上)は同品種より多く「晩生光黒」に近い。

5. わい化病抵抗性はやや強である。シストセンチュウ、茎疫病およびべと病抵抗性は弱である。



注) ※印：ダイズわい化病抵抗性

6. 煮豆は、皮浮き、煮崩れなど少なく、外観と風味の評価が高く、煮豆加工適性は「中生光黒」、「トカチクロ」より優れ、「晩生光黒」並である。

ので発生圃場への作付けは避け、適正な輪作を行う。ダイズべと病は弱なので、従来品種と同様の対策を行う。ダイズわい化病抵抗性はやや強であるが抵抗性は十分ではないので、アブラムシ発生環境に留意し防除を徹底する。従来極大粒品種に準じて肥培管理、脱穀調製を行う。中、上位葉が縮葉する特徴があるので、ウイルス病との区別に留意する。

栽培適地と奨励態度

道央、道南、十勝地域及びこれに準ずる地帯に適する。栽培上の注意は、ダイズシストセンチュウ抵抗性は弱な

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数		子実重 (kg)	同左比 (%)			
中央農試	いわいくろ	7.25	10. 5	58	5.8	52.0	2.0	335	90	46.1	2 中	1994～ 1997
	中生光黒	7.29	10.12	66	5.4	67.6	2.6	373	100	40.0	3 上	
	トカチクロ	8. 3	10.17	73	5.1	44.6	2.5	295	79	48.8	2 下	
	晩生光黒	7.23	10. 3	58	7.4	78.1	1.7	409	110	41.4	3 中	
上川農試	いわいくろ	7.26	10.10	72	4.6	60.1	3.2	387	107	45.6	2 上	1994～ 1997
	中生光黒	7.28	(10.18)	89	5.4	85.6	3.7	361	100	36.2	3 上	
	トカチクロ	7.22	10. 5	75	6.7	80.5	3.3	425	118	38.5	2 下	
十勝農試	いわいくろ	7.25	10. 6	63	5.2	45.2	0.4	302	95	42.8	2 中	1994～ 1997
	中生光黒	7.28	10.16	78	4.1	57.5	2.8	318	100	36.7	2 下	
	トカチクロ	7.22	10. 5	63	5.4	61.6	1.2	314	99	36.6	2 下	
遺伝資源 センター	いわいくろ	7.24	10. 1	68	3.8	51.8	3.0	339	90	46.3	2 中	1994～ 1997
	中生光黒	7.25	10. 7	75	3.4	69.1	2.9	376	100	40.4	3 上	
	晩生光黒	7.29	10.13	86	2.8	44.8	3.3	296	79	46.3	2 下	
	トカチクロ	7.17	9.26	66	6.1	73.1	2.3	358	95	38.6	3 上	
道南農試	いわいくろ	7.23	9.30	73	4.2	59	1.9	285	120	45.0	2 中	1994～ 1997
	中生光黒	7.23	10. 6	84	4.0	76	2.8	319	135	39.1	2 中	
	晩生光黒	7.29	10. 9	93	4.7	54	3.0	237	100	48.9	2 下	

注) 上川農試、「中生光黒」の成熟期：1995,1997年に未成熟のため()を付した。

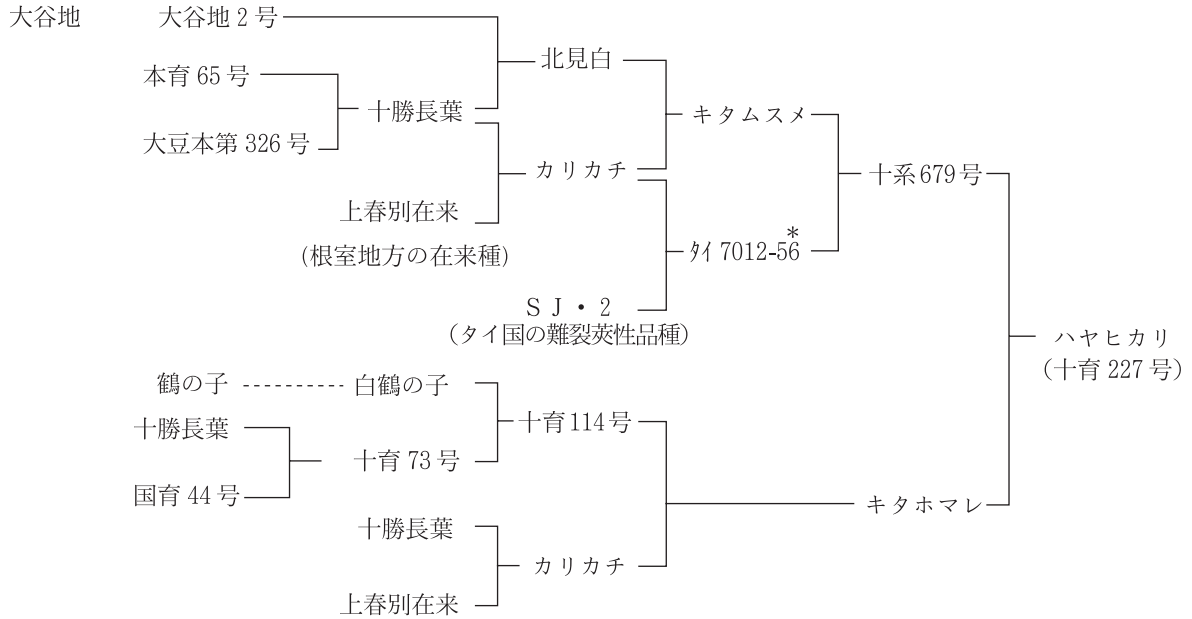
- 参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 21-23 (1998).
2) 白井和栄 等, 北海道立農試集報. 78,39-58 (2000).

(2) ハヤヒカリ (系統名 十育227号) 1998年
 登録番号：(北海道) 大豆北海道第37号
 (農水省) だいで農林108号
 (種苗法) 第9797号

セールスポイント

早熟で、耐冷性が強く、密植による増収効果が高いコンバイン収穫向きの褐目品種である。

来歴 本品種は、1983年に北海道立十勝農業試験場において、耐冷性が強く安定多収で機械収穫向き難裂莢性品種の育成を目標とし、「十系679号」を母、「キタホマレ」を父として人工交配を行い、以後選抜と固定を図り、その後代から育成したもので、1992年から「十系802号」、1994年からは「十育227号」の系統名で各種試験を行い、1998年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



注) *タイ7012-56：日・タイ間的大豆育種に関する共同研究により昭和45年にタイ国において人工交配し、F₄以降北海道立十勝農業試験場で選抜してきた難裂莢性の育成系統である。

特性概要

1. 主茎長は「キタムスメ」の中に対し短、主茎節数と分枝数はいずれも少である。伸育型は有限であり、熟莢色は褐を呈する。
2. 胚軸色は緑、花色は白、小葉の形は円葉、毛茸は褐・直毛でその多少は中程度である。
3. 粒形は「キタムスメ」と同じ球、粒の大小は同品種の中の大に対し中である。臍の色は暗褐、種皮の色は黄白である。
4. 開花期、成熟期はともに「キタムスメ」より早く中の早であり、生態型は夏大豆型に属する。
5. 子実収量は標準密度では「キタムスメ」並であるが、密植では「キタムスメ」より多い。低温抵抗性(開花期/生育期)は同品種と同じ強/強である。
6. シストセンチュウ抵抗性、わい化病抵抗性、黒根病抵抗性および茎疫病抵抗性は「キタムスメ」と同じく弱である。倒伏抵抗性は同品種の中に対し強である。裂莢の難易は同品種の易に対し難であり、最下着莢節

位高は同品種よりやや低い中である。

7. 外観上の品質は「キタムスメ」並であるが、裂皮粒の発生は同品種より少ない。
8. 子実の粗蛋白および粗脂肪含有率は「キタムスメ」と同様にそれぞれ低および中である。豆腐、納豆および煮豆の加工適性はいずれも同品種と同等である。また味噌の加工適性は同品種並に優れ、もやしの加工適性は同品種より優る。

栽培適地と奨励態度

十勝(中央部を除く)、網走、上川、留萌地域およびこれに準ずる地帯に適する。栽培上の注意は、1.わい化病抵抗性が弱なので防除を徹底するとともに圃場周辺の雑草化したクローバの除去に努めること、2.シストセンチュウ抵抗性も弱なので発生圃場への作付けは避け適正な輪作のもとで栽培すること、3.密植により増収が期待されるので倒伏に注意しながら密植に努めること、である。

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ハヤヒカリ	7.21	9.29	57	4.5	78.3	無	323	96	26.2	2 中	1994～ 1997
	キタムスメ	7.24	10. 6	71	5.1	68.6	少	337	100	29.8	2 上	
	北 見 白	7.23	10. 6	65	5.1	70.8	少	327	97	26.1	2 上	
北見農試	ハヤヒカリ	7.26	10. 5	60	4.1	73.5	微	327	97	26.4	2 上	1994～ 1997
	キタムスメ	7.27	10.12	76	4.9	69.3	中	337	100	29.9	1	
上川農試	ハヤヒカリ	7.21	10. 3	68	6.1	110.5	中	474	104	28.5	2 上	1994～ 1997
	キタムスメ	7.22	10.10	89	6.3	97.3	多	454	100	29.8	2 上	

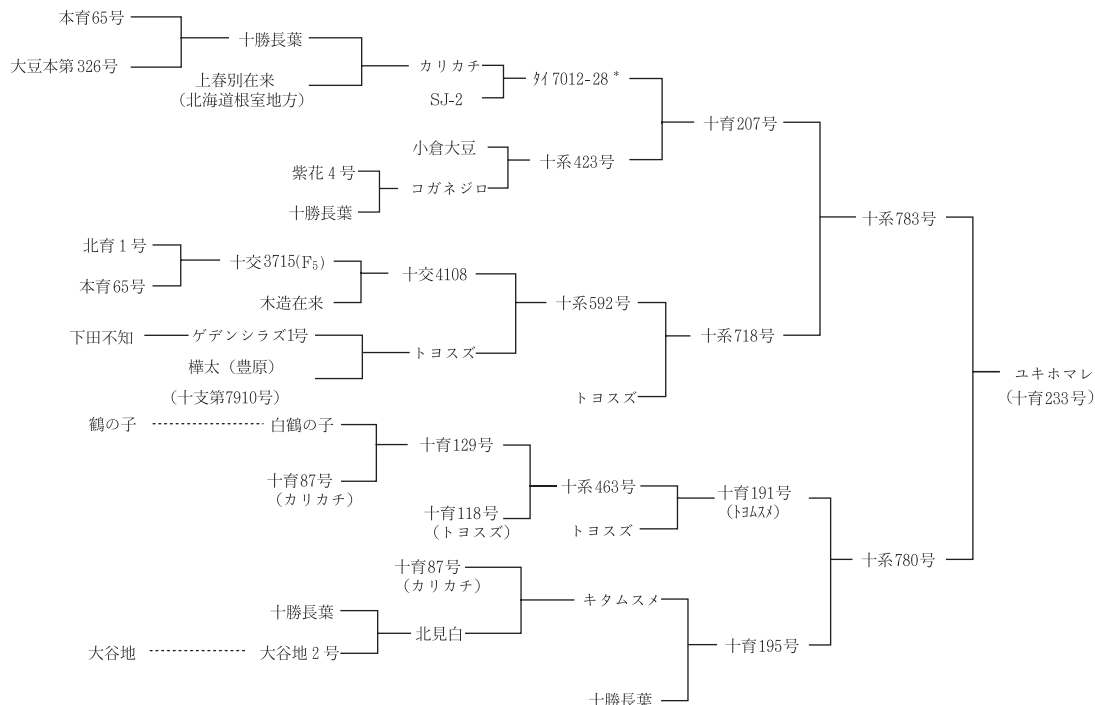
参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 18-20 (1998).
2) 湯本節三 等, 北海道立農試集報. 78,19-37 (2000).

(3) ユキホマレ (系統名 十育233号) 2001年
登録番号: (北海道) 大豆北海道第38号
(農水省) だいず農林118号
(種苗法) 第12279号

セールスポイント

早熟, 難裂莢性でコンバイン収穫適性が高く, 低温抵抗性, 臍周辺着色抵抗性およびシストセンチュウ抵抗性を有する白目中粒品種である。

来歴 本品種は, 1990年に北海道立十勝農業試験場において, 早生, 耐冷・安定多収, ダイズシストセンチュウ抵抗性で機械収穫向き難裂莢性品種の育成を目標とし, 「十系783号」を母, 「十系780号」を父として人工交配を行い, 以後選抜と固定を図り, その後代から育成したもので, 1997年から「十系890号」, 1998年からは「十育233号」の系統名で各種試験を行い, 2001年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



注)*747012-28: 日夕間的大豆育種に関する共同研究により昭和45年に外国において人工交配し, F4以降北海道立十勝農業試験場で選抜してきた難裂莢性の育成系統である。

特性概要

1. 主茎長は「トヨコマチ」と同じ短, 主茎節数と分枝数はそれぞれ少と中である。伸育型は有限であり, 熟莢色は淡褐を呈する。

2. 胚軸色, 花色はともに紫, 小葉の形は円葉で, 毛茸は白・直毛でその多少は中程度である。
3. 粒形は「トヨコマチ」の扁球に対して球であり, 粒の大小は同品種と同じ中の大である。臍の色は黄, 種

皮の色は黄白である。

4. 開花期、成熟期はともに「トヨコマチ」と同じ中の早であり、生態型は夏大豆型に属する。
5. 子実収量は「トヨコマチ」並からやや多収であり、倒伏抵抗性は同品種と同じ強である。低温抵抗性（開花期／生育期）は、「トヨコマチ」のやや強／やや強、「トヨホマレ」の強／強に対し、やや強／強である。開花2～3週間後の低温の影響とされる裂開粒が発生することがある。
6. シストセンチュウ抵抗性は強、わい化病抵抗性は弱である。茎疫病抵抗性は強／強（レース群Ⅰ／Ⅱ）である。裂莢の難易は「トヨコマチ」の易に対し難であり、最下着莢節位高は同品種よりやや低い中である。
7. 外観上の品質は「トヨコマチ」並で、裂皮粒の発生

も同品種並の中である。

8. 子実の粗蛋白および粗脂肪含有率は「トヨコマチ」同様にそれぞれ中および低である。遊離型全糖含有率は同品種並に高い。煮豆、納豆、味噌および豆腐の加工適性は、いずれも「トヨコマチ」など白目中粒品種と同等である。

栽培適地と奨励態度

道央、上川、網走、十勝に適する。栽培上の注意は、
 1. わい化病抵抗性が弱なので適切な防除に努めること、
 2. シストセンチュウ抵抗性は強であるが適正な輪作のもとで栽培すること、
 3. 早熟なので収穫期に達した後は雨害による品質低下を避けるため速やかに収穫すること、である。

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ユキホマレ	7.18	9.22	64	4.0	67.2	微	351	100	36.2	2下	1998～ 2000
	トヨコマチ	7.17	9.28	63	4.9	59.3	微	350	100	37.2	3上	
	カリユタカ	7.21	9.30	69	5.7	70.2	微	354	101	34.1	2中	
	トヨホマレ	7.20	10. 2	60	4.2	71.7	微	351	100	35.0	2下	
北見農試	ユキホマレ	7.23	9.26	54	4.3	62.5	少	322	102	31.8	2中	1998～ 2000
	トヨコマチ	7.23	9.30	56	5.0	59.3	少	316	100	32.0	2下	
	カリユタカ	7.26	10. 6	57	5.8	72.7	少	316	100	28.8	2中	
	トヨホマレ	7.25	10. 6	49	4.5	69.8	微	302	96	30.9	3上	
上川農試	ユキホマレ	7.14	9.20	64	6.3	78.1	中	405	98	35.4	3上	1998～ 2000
	トヨコマチ	7.13	9.23	64	6.5	79.2	中	412	100	33.6	3下	
遺伝資源 センター	ユキホマレ	7.13	9.17	60	5.0	71.2	少	312	100	32.6	3中	1998～ 2000
	トヨコマチ	7.14	9.20	61	5.8	75.2	中	311	100	29.5	3上	
	カリユタカ	7.16	9.27	65	5.7	78.5	少	319	102	28.5	3上	
中央農試	ユキホマレ	7.14	9.19	54	4.6	60.6	少	352	98	38.7	3中	1998～ 2000
	トヨコマチ	7.14	9.24	53	5.0	66.2	中	358	100	36.3	3上	
	カリユタカ	7.17	9.30	57	6.2	73.8	少	383	107	35.3	3下	
	トヨホマレ	7.16	10. 3	52	4.1	73.3	中	359	100	35.4	2下	

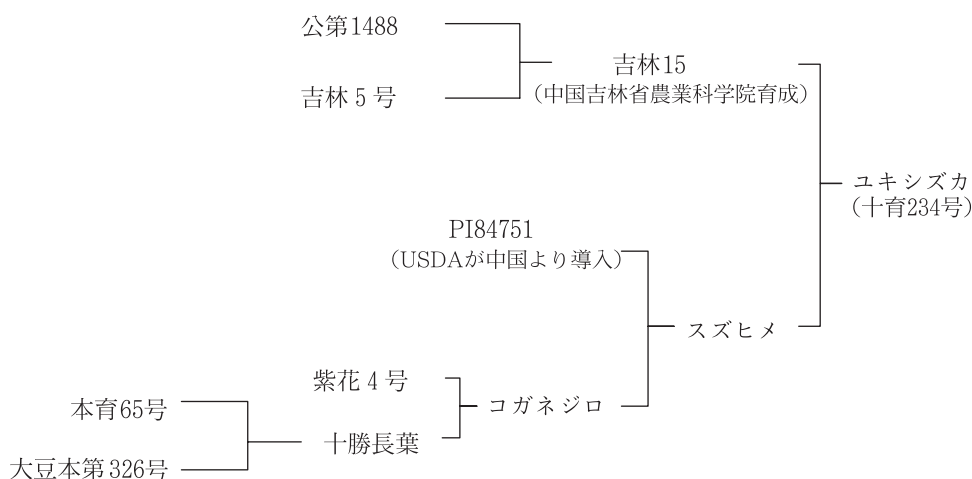
- 参照 1) 北海道農政部編，平成13年普及奨励ならびに指導参考事項，7－9（2001）。
 2) 田中義則 等，北海道立農試集報，84,13－24（2003）。

- (4) **ユキシズカ**(系統名 十育234号) 2002年
 登録番号：(北海道)大豆北海道第39号
 (農水省) だいで農林124号
 (種苗法) 第 号

セールスポイント

早熟で、耐倒伏性に優れ、コンバイン収穫に適し、シストセンチュウ・レース3に抵抗性の納豆向き小粒品種である。

来歴 本品種は、1990年に北海道立十勝農業試験場において、早生、安定多収、ダイズシストセンチュウおよびダイズわい化病抵抗性で機械収穫向き難裂莢性の納豆向き小粒品種の育成を目標とし、「吉林15号」を母、「スズヒメ」を父として人工交配を行い、以後選抜と固定を図り、その後代から育成したもので、1997年から「十系888号」、1999年からは「十育234号」の系統名で各種試験を行い、2002年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 主茎長、主茎節数および分枝数はそれぞれ「スズマル」の中、中および多に対して短、やや少および多である。伸育型は有限であり、熟莢色は淡褐を呈する。
2. 胚軸の色と花色は紫、小葉の形は長葉で、毛茸は色が白で、形は直、その多少は中程度である。
3. 粒の形は「スズマル」と同じ球であり、粒の大小は同品種と同じ小である。また、粒の子葉色は黄、光沢は弱、臍の色は黄、種皮の地色も黄である。
4. 開花期および成熟期は、それぞれ「スズマル」の中の晩および中に対して中および中の早である。生態型は夏大豆型に属する。
5. 子実収量は「スズマル」並からやや多収であり、倒伏抵抗性は同品種と同じ強である。低温抵抗性（開花期／生育期）は「スズマル」のやや強／弱に対し、やや強／中である。
6. シストセンチュウ抵抗性は「スズマル」の弱に対し

強、わい化病抵抗性は弱である。茎疫病抵抗性は強／強（レース群Ⅰ／Ⅱ）である。裂莢の難易は「スズマル」と同じ中であり、最下着莢節位高は中で同品種の高より低い。

7. 外観上の品質は「スズマル」並で、裂皮粒の発生は「スズマル」より少ない難である。粗蛋白含有率および粗脂肪含有率は「スズマル」同様にそれぞれ中および低である。また、遊離型全糖含有率は「スズマル」並である。納豆の加工適性は、「スズマル」と同等である。

栽培適地と奨励態度

道央、上川、網走、十勝に適する。栽培上の注意は、1. わい化病抵抗性は中なので適切な防除に努めること、2. シストセンチュウ・レース1 優占圃場への作付けは避けること、3. 耐倒伏性が強く最下着莢節位高がやや低いので土壌条件等を考慮して密植栽培に努めること、である。

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ユキシヅカ	7.20	9.30	60	7.1	135	無	361	99	13.2	2 中	1999～ 2001
	スズマル	7.25	10. 6	80	9.8	125	少	364	100	14.9	2 上	
	スズヒメ	7.23	9.29	66	6.0	116	無	293	80	14.9	3 上	
北見農試	ユキシヅカ	7.23	10. 3	44	5.6	122	無	284	91	11.9	2 下	1999～ 2001
	スズマル	7.29	10. 3	63	10.0	124	微	311	100	12.4	3 上	
	スズヒメ	7.26	9.28	57	5.7	111	微	283	91	12.8	3 中	
上川農試	ユキシヅカ	7.16	9.21	57	7.8	157	中	373	104	12.6	3 上	1999～ 2001
	スズマル	7.22	9.29	81	10.8	131	中	358	100	14.7	3 下	
	スズヒメ	7.20	9.25	72	8.0	137	中	356	99	12.6	3 下	
遺伝資源 センター	ユキシヅカ	7.14	9.15	55	7.9	145	少	291	100	10.4	2 下	1999～ 2000
	スズマル	7.19	9.20	74	9.8	140	中	292	100	11.6	2 中	
	スズヒメ	7.16	9.14	64	7.3	121	中	266	91	11.7	3 上	

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢 数		子実重 (kg)	同左比 (%)			
中央農試	ユキシズカ	7.17	9.21	48	8.2	132	微	311	92	12.5	3 中	1999～ 2001
	スズマル	7.21	9.30	61	9.6	124	少	338	100	15.0	3 上	
	スズヒメ	7.19	9.21	54	7.0	113	少	280	83	13.4	3 下	

参照 1) 北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-3 (2002).
2) 山崎敬之 等, 北海道立農試集報. 87,21-32 (2004).

5. 小豆

(1) ほくと大納言 (系統名 十育133号) 1996年

登録番号: (北海道) 小豆北海道第19号

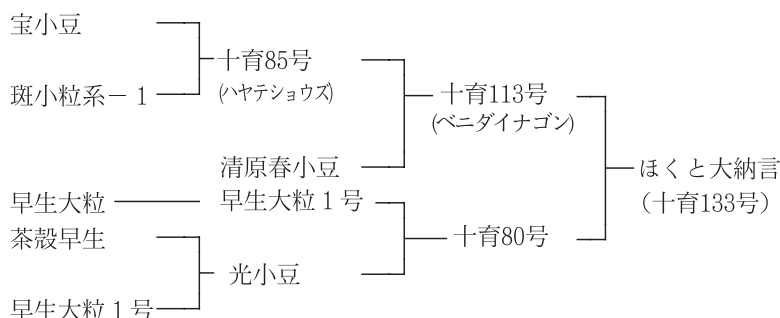
(農水省) あずき農林第11号

(種苗法) 第7694号

セールスポイント

大納言規格内収量が「アカネダイナゴン」より優り、
外観品質, 加工適性に優れる大納言品種である。

来歴 本品種は, 良質, 大粒, 多収品種の育成を目標
とし, 1983年に北海道立十勝農業試験場において「十育
113号」を母, 「十育80号」を父として人工交配を行い,
以後選抜と固定を図り育成した。1989年より「十系495
号」, 1992年からは「十育133号」の系統名で各種試験を
行い, 1996年優良品種となった。なお, 本品種の系譜は
次のとおりである。



特性概要

1. 主茎長は中の短で「アカネダイナゴン」より長く、
主茎節数はやや少で少ない。分枝数は同じ多である。
2. 小葉の形は円葉である。毛茸の多少と形は少と鈍、
花色は黄である。
3. 子実の形は円筒, 大きさは極大に属し, 百粒重は
「カムイダイナゴン」より軽い, 「アカネダイナゴン」
より25%程度重い。種皮色は淡赤で, 「アカネダイナ
ゴン」, 「カムイダイナゴン」より明るい。
4. 開花期は中, 成熟期は中の晩で「アカネダイナゴン」
と同じである。
5. 耐倒伏性は中, 低温抵抗性はやや弱, 落葉病, 茎疫

病, ウイルス病抵抗性はいずれも弱である。

6. 子実収量は「アカネダイナゴン」とほぼ同じである
が, 大納言規格内収量は優れる。
7. 加工製品の色は「アカネダイナゴン」より淡く, 加
工適性が優れる。

栽培適地と奨励態度

北海道の道央, 道南の大納言品種栽培地帯に適する。
栽培上の注意は, ①落葉病, 茎疫病, 萎凋病に抵抗性を
持たないので, 適正な輪作を行うとともに, 適正な防除
に努める。②雨害等で品質を落とさないため, 刈り遅れ
を避け適期収穫に努める。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	ほくと大納言	7.29	9.26	1.4	61	37	290	96	23.4	3下	1992,1994,1995
	アカネダイナゴン	7.29	9.28	1.0	51	56	301	100	18.3	4上	
	カムイダイナゴン	7.29	9.26	3.2	66	39	300	100	25.3	4上	
中央農試	ほくと大納言	7.27	9.17	0.4	39	31	237	102	21.4	3上	1992~1995
	アカネダイナゴン	7.27	9.22	0.3	33	44	233	100	16.8	4中	
遺伝資源 センター	ほくと大納言	7.24	9.12	0.7	40	32	261	99	21.2	2下	1992~1995
	アカネダイナゴン	7.24	9.15	0.8	39	46	263	100	17.2	3下	

注 1) 倒伏程度は無：0，微：0.5，少：1，中：2，多：3，甚：4で示し，以下同じ。

2) 成熟期の莢数は株当りの莢数であり，以下同様である。

参照 1) 北海道農政部編，平成8年普及奨励ならびに指導参考事項，13-16(1996)。

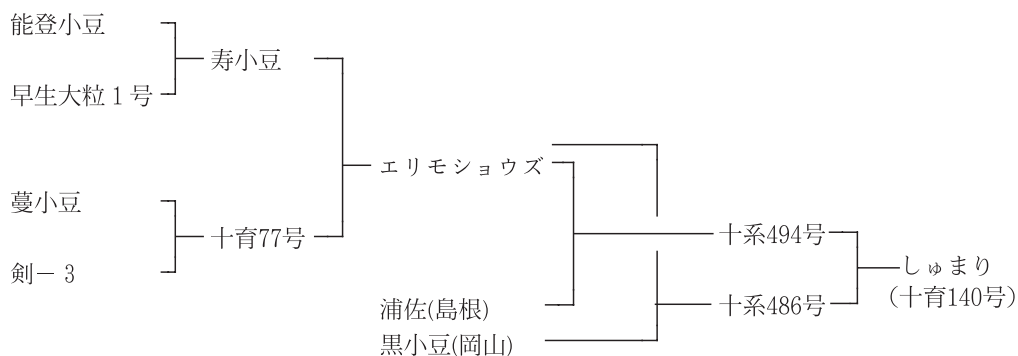
2) 島田尚典 等，北海道立農試集報，72,85-95 (1997)。

(2) しゅまり (系統名 十育140号) 2000年
登録番号：(北海道) 小豆北海道第20号
(農水省) あずき農林第12号
(種苗法) 第11098号

セールスポイント

落葉病，茎疫病，萎凋病に対する複合抵抗性を有し，
あん色が良好で風味が強く加工適性に優れる普通小豆品
種である。

来歴 本品種は，中生，良質，落葉病・茎疫病・萎凋
病抵抗性品種の育成を目標とし，1989年に北海道立十勝
農業試験場において「十系494号」を母，「十系486号」
を父として人工交配を行い，初期世代で落葉病及び茎疫
病の抵抗性選抜を行った。以後選抜と固定を図り育成し
た。1995年より「十系641号」，1996年からは「十育140
号」の系統名で各種試験を行い，2000年優良品種となっ
た。なお，本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 上胚軸は「エリモショウズ」より長く，主茎長も同
品種より長い。主茎節数，分枝数はほぼ同じである。
2. 小葉の形は下位葉が「エリモショウズ」と同じ円葉
であるが，上位葉はやや円葉剣先である。毛茸の多少
と形は少と鈍，花色は黄である。
3. 子実の形は円筒，大きさは中に属し，種皮色は淡赤
である。
4. 開花期は中，成熟期は中の早で「エリモショウズ」
と同じである。

5. 耐倒伏性はやや強，低温抵抗性は弱，落葉病抵抗性
は強，茎疫病抵抗性はかなり強，ウイルス病抵抗性は
弱である。
6. 子実収量は「エリモショウズ」の中の多に対し中
である。
7. 加工製品は「エリモショウズ」よりあん色が良好
(赤紫系)で風味が良い。

栽培適地と奨励態度

北海道の道央，道北，道南の中生種栽培地帯で落葉病，

茎疫病または萎凋病の発生地帯及びこれに準ずる地帯に適する。栽培上の注意は、①落葉病，茎疫病，萎凋病に抵抗性を持つが，本品種を侵す菌系が確認されているの

で，適正な輪作を行う。②耐冷性が弱いので，安定生産のため栽培適地を遵守する。③排水不良圃場では，茎疫病の発生を防ぐため排水対策に努める。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	しゅまり	7.30	9.21	1.0	63	41	302	92	15.0	2下	1996～1999
	エリモショウズ	7.29	9.21	1.3	57	46	330	100	14.8	2下	
	きたのおとめ	7.29	9.21	1.5	55	46	328	99	14.2	2中	
上川農試	しゅまり	7.25	9.5	1.0	55	57	321	98	11.4	2中	1996～1999
	エリモショウズ	7.24	9.5	1.4	54	60	328	100	11.6	2中	
	きたのおとめ	7.25	9.5	1.6	52	64	341	104	11.0	2上	
中央農試	しゅまり	7.25	9.3	1.1	52	38	244	118	11.7	2中	1997～1999
	エリモショウズ	7.24	9.2	0.7	46	40	206	100	11.4	2下	
	きたのおとめ	7.24	9.1	0.8	46	39	206	100	10.6	2中	
遺伝資源 センター	しゅまり	7.23	9.6	0.8	55	47	235	100	10.6	3中	1996～1999
	エリモショウズ	7.24	9.5	0.9	52	48	236	100	10.8	3中	
	きたのおとめ	7.23	9.5	1.0	53	51	232	98	10.2	3中	

- 参照 1) 北海道農政部編，平成12年普及奨励ならびに指導参考事項，34-36(2000).
2) 藤田正平等，北海道立農試集報. 82, 31-40 (2002).

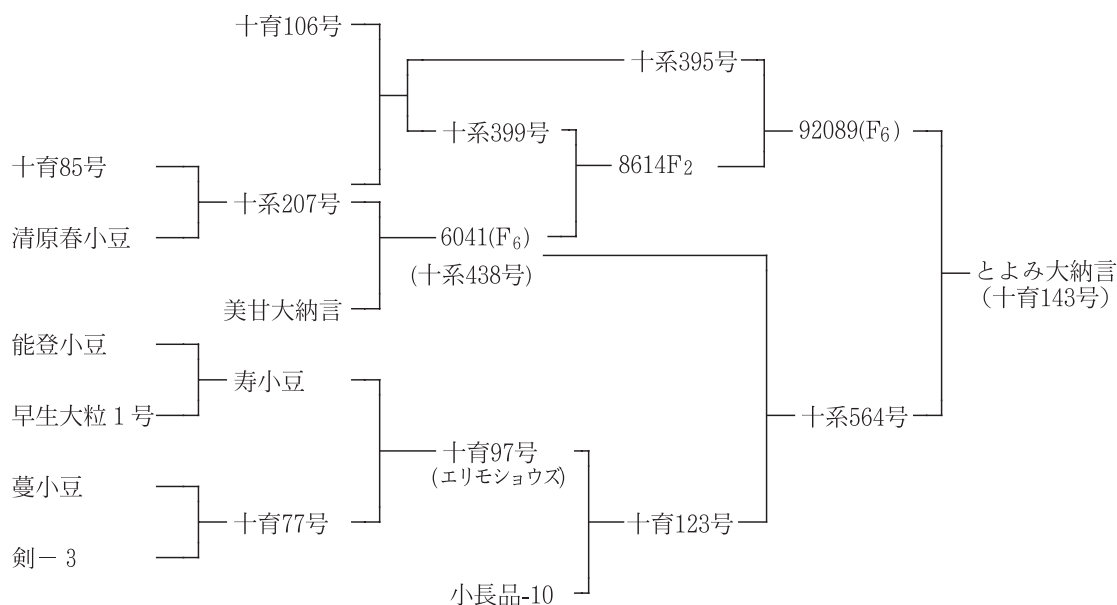
(3) とよみ大納言(系統名 十育143号) 2001年

登録番号：(北海道) 小豆北海道第21号
(農水省) あずき農林第13号
(種苗法) 第12192号

来歴 本品種は，極大粒，落葉病・萎凋病抵抗性品種の育成を目標とし，1992年に北海道立十勝農業試験場において「92089 (F₆)」を母，「十系564号」を父として人工交配を行い，以後選抜と固定を図り育成した。1997年より「十系699号」，1998年からは「十育143号」の系統名で各種試験を行い，2001年優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。

セールスポイント

極大粒で，種皮色が明るく，落葉病，萎凋病抵抗性を有する大納言品種である。



特性概要

1. 主茎長は「アカネダイナゴン」と同じ中の短であるがやや短く、主茎節数は同品種より少ない。分枝数は同じ多である。
2. 小葉の形は円葉である。毛茸の多少と形は少と鈍、花色は黄である。
3. 子実の形は短円筒、大きさは極大に属し、百粒重は「ほくと大納言」よりやや重く、種皮色は「アカネダイナゴン」の濃赤に対し、「ほくと大納言」と同じ淡赤である。
4. 開花期は中、成熟期は中の晩とともに「アカネダイナゴン」と同じである。
5. 耐倒伏性は中、低温抵抗性はやや弱、落葉病抵抗性は強、茎疫病及びウイルス病抵抗性は弱である。

6. 子実収量は「アカネダイナゴン」とほぼ同じであるが、大納言規格内収量は「アカネダイナゴン」、「ほくと大納言」より多い。
7. 外観品質に優れ、雨害による濃赤粒の発生が「ほくと大納言」より少ない。

栽培適地と奨励態度

北海道の道北、道央、道南及び十勝の大納言品種栽培地帯に適する。栽培上の注意は、①茎疫病に抵抗性を持たないので茎疫病発生ほ場での栽培は避ける。②雨害による濃赤粒発生が「ほくと大納言」より少ないが、良質安定生産のため刈り遅れを避け、適期収穫に努める。③落葉病に抵抗性を持つが、栽培に当たっては適正な輪作を行う。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	とよみ大納言	7.30	9.22	3.5	84	41	368	101	25.9	3下	1998～2000
	アカネダイナゴン	7.28	9.21	3.2	93	60	363	100	18.2	3下	
	ほくと大納言	7.30	9.21	3.6	103	40	329	91	23.5	3下	
中央農試	とよみ大納言	7.22	9.2	1.0	44	35	254	102	19.4	3中	1998～2000
	アカネダイナゴン	7.22	9.2	1.3	46	48	249	100	14.0	4下	
	ほくと大納言	7.22	9.4	1.3	54	34	225	90	18.3	4中	
上川農試	とよみ大納言	7.26	9.7	3.2	64	50	357	99	21.4	3上	1998,1999
	アカネダイナゴン	7.27	9.10	3.2	80	75	359	100	14.0	3下	
	ほくと大納言	7.25	9.8	3.5	72	55	344	96	19.7	2下	
遺伝資源 センター	とよみ大納言	7.25	9.4	1.5	55	36	233	106	19.7	3中	1998,1999
	アカネダイナゴン	7.25	9.5	1.8	64	51	220	100	15.5	4中	
	ほくと大納言	7.24	9.5	1.7	68	34	197	90	19.2	4上	

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成13年普及奨励ならびに指導参考事項, 10-12(2001).
2) 藤田正平等, 北海道立農試集報, 84,25-36 (2003).

(4) **きたほたる** (系統名 十育146号) 2004年
登録番号: (北海道) 小豆北海道第22号
(農水省) あずき農林第15号
(種苗法) 第 号

は「十育146号」の系統名で各種試験を行い、2004年優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

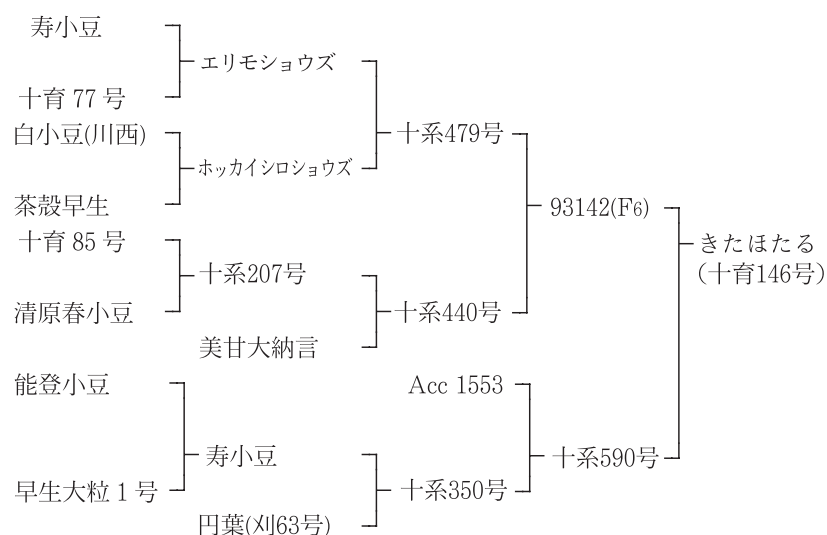
セールスポイント

あん色が白く明るい色調で、加工適性が優り、落葉病、茎疫病、萎凋病に抵抗性を有する白小豆品種である。

来歴 本品種は、良質、耐冷、落葉病・茎疫病・萎凋病抵抗性の白小豆品種の育成を目標とし、1993年に北海道立十勝農業試験場において「93142 (F₆)」を母、「十系590号」を父として人工交配を行い、以後選抜と固定を図り育成した。1999年より「十系774号」、2000年から

特性概要

1. 主茎長は「エリモショウズ」よりやや短く短の長である。主茎節数は同品種と同じやや少で、分枝数は同じ中である。
2. 小葉の形は円葉である。毛茸の多少と形は少と鈍、花色は黄である。
3. 子実の形は短円筒、大きさは中の小に属し、種皮色は黄白である。
4. 開花期は「エリモショウズ」と同じ中で、成熟期は



「ホッカイシロシヨウズ」と同じ中の晩であるが、同品種よりやや早い。

5. 耐倒伏性はやや強、低温抵抗性は弱、落葉病及び茎疫病抵抗性は強、ウイルス病抵抗性は弱である。
6. 子実収量は「エリモシヨウズ」より低収であるが、「ホッカイシロシヨウズ」並である。
7. 粒揃いがやや劣るが、「ホッカイシロシヨウズ」より種皮色及びあん色が白く明るい色調で、加工適性が優れる。

栽培適地と奨励態度

北海道の道東の早生種栽培地帯を除く小豆栽培地帯に適する。栽培上の注意は、①ピシウム苗立枯病に対して赤色の品種より弱いので、種子消毒を必ず行い、播種量を多めとする。②成熟期前後の降雨で腐敗粒が多発する場合がありますので、刈り遅れを避け適期収穫に努める。③落葉病、茎疫病、萎凋病に抵抗性を有するが栽培に当たっては適正な輪作体系を守る。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	きたほたる	7.27	9.29	1.6	64	56	338	99	13.9	4中	2000~2003
	ホッカイシロシヨウズ	7.26	10.1	2.5	79	65	340	100	15.6	4中	
	エリモシヨウズ	7.27	9.25	3.4	72	54	385	113	15.4	4上	
上川農試	きたほたる	7.23	9.18	3.2	74	67	435	107	14.1	4中	2001~2003
	ホッカイシロシヨウズ	7.23	9.24	3.9	84	77	406	100	15.9	4上	
中央農試	きたほたる	7.30	9.24	2.0	59	52	341	97	12.5	規格外	2001,2003
	ホッカイシロシヨウズ	7.30	9.26	2.5	57	55	350	100	14.8	規格外	
道南農試	きたほたる	7.30	9.21	1.2	39	41	241	97	13.3	4上	2001~2003
	ホッカイシロシヨウズ	7.30	9.28	2.4	52	51	248	100	15.4	4上	

注) 十勝農試の成熟期は未成熟で収穫した1試験を除く。

参照 1) 北海道農政部編, 平成16年普及奨励ならびに指導参考事項, 40-42(2004).

6. 菜豆

- (1) 福うずら (系統名 十育D10号) 1999年
登録番号: (北海道) 菜豆北海道27号
(種苗法) 第10367号

セールスポイント

早熟, 多収で, 耐倒伏性に優れ, やや大粒で食味が良

い, わい性の中長鶉類品種である。

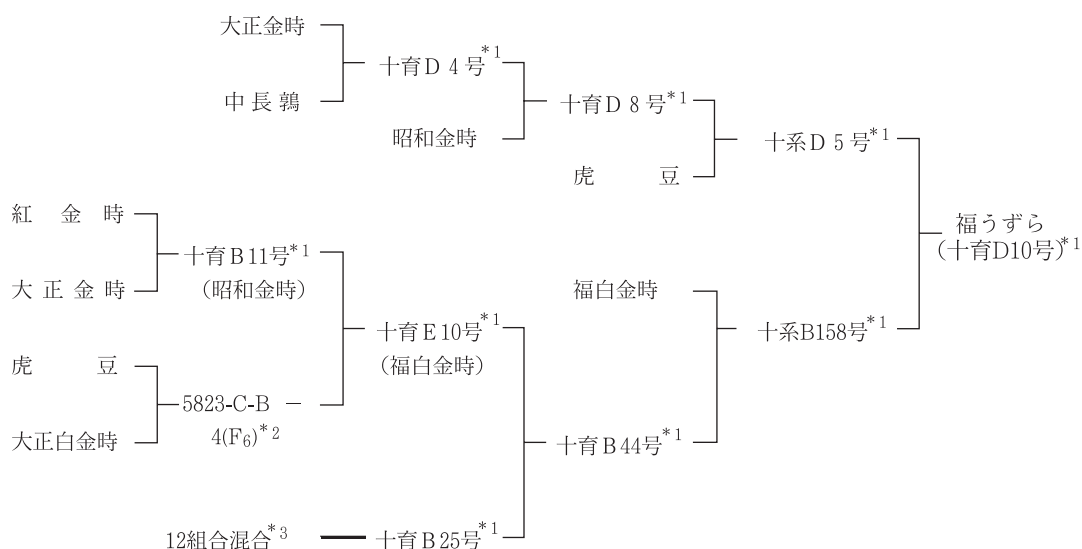
来歴 本品種は, 矮性で多収, 大粒良質の中長鶉類品種の育成を目標とし, 1990年に北海道立十勝農業試験場において, 「十系D5号」を母, 「十系B158号」を父として人工交配を行い, 以後選抜と固定を図り育成した。1995

年からは「十系D11号」、1996年からは「十育D10号」の系統名で各種の試験を行い、1999年に優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. 伸育性と草型は「福粒中長」の無限半つる性に対し、有限わい性である。草丈は中、主茎節数は少である。
2. 胚軸色は赤紫で、花色は赤紫、若莢色は緑色地に赤紫色の条斑紋がある。
3. 子実は楕円体、大きさは中の大、種皮色は褐色地に濃赤紫色の普通斑がある。環色は黄褐である。

4. 開花期は「福粒中長」と同じ早であるが2日程度早く、成熟期は「福粒中長」の中に対し早の晩で4日程度早い。収量性は「福粒中長」に優る。
5. 耐倒伏性は「福粒中長」の弱に対し中、葉落ちの良否は「福粒中長」のやや不良に対しやや良である。
6. インゲン黄化病抵抗性は「福粒中長」と同じやや弱で、インゲン炭そ病抵抗性はRace 7に対し無、Race 38に対し有、Race81に対し有で、いずれも「福粒中長」「大正金時」と同じである。
7. 加工適性は「福粒中長」に比べ煮豆の皮がやや軟らかく、粘りが強く、味、総合評価は優る。



注) *1: 十育及び十系番号についてアルファベットについてBが金時類、Dが中長鶉類、Eが白金時類であることを示す。
 *2: 5823-C-B-4(F₆)は蔓性白金時類の十勝農試育成中間母本である。
 *3: 12組合混合は昭和39年に金時類F₄代集団12組合せを混合し、その中より選抜・系統を育成したもの。

栽培適地と奨励態度

全道のいんげんまめ作付け地帯で「福粒中長」に置き換えて栽培する。栽培上の注意は次のとおりである。①大粒であるので、脱穀機の回転数を調節し損傷粒の発生を避ける。②極端な多肥栽培では成熟期における葉落ち

が不良になることがある。③インゲン黄化病抵抗性はやや弱なので防除を徹底する。④その他の病害防除は従来品種に準じて行い、播種時期および肥培管理は金時類品種に準じて行う。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	葉 落 良 否	草 丈 (cm)	莢 数 (/株)	10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
								子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	福うずら	7.16	9.14	0.1	1.9	36	15.8	298	107	80.7	2上	1996~1998
	福粒中長	7.18	9.18	2.1	3.6	99	16.2	279	100	75.6	2中	
	大正金時	7.15	9.7	0.1	3.5	33	14.4	227	82	74.4	3下	
北見農試	福うずら	7.25	9.28	2.7	1.0	43	15.3	313	109	85.8	3上	1998
	福粒中長	7.28	10.9	3.7	1.5	107	17.8	286	100	77.5	3上	
	大正金時	7.23	9.21	2.3	1.5	39	14.0	241	84	82.8	4中	
上川農試	福うずら	7.8	8.27	3.0	4.0	51	25.3	370	118	67.3	3下	1998
	福粒中長	7.14	8.31	3.0	3.7	117	23.1	314	100	56.9	3下	
	大正金時	7.8	8.23	3.0	3.0	51	21.0	237	75	54.1	3中	

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	葉 落 良 否	草 丈 (cm)	莢 数 (/株)	10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
								子実重 (kg)	同左比 (%)			
遺伝資源 センター	福うずら	7. 6	8.23	0.3	1.8	27	12.4	197	105	62.6	2 下	1997～1998
	福粒中長	7. 8	8.25	1.1	1.8	49	13.3	188	100	56.9	2 中	
	大正金時	7. 5	8.19	0.0	2.9	24	10.0	134	74	58.3	3 中	

注1)倒伏程度：0(無)～4(甚)，葉落良否：1(良)～5(不良)。

参照 1) 北海道農政部編，平成11年普及奨励ならびに指導参考事項，17-19 (1999)。

(2) 福良金時 (系統名 十育B67号) 2002年

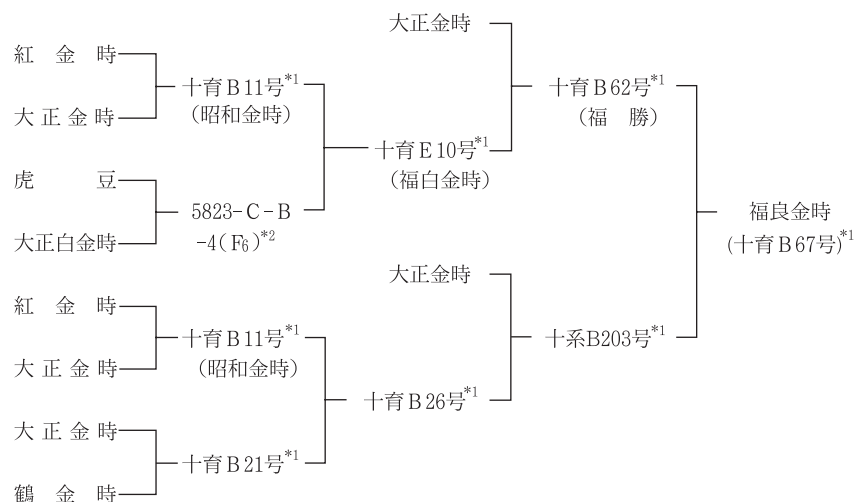
登録番号：(北海道) 菜豆北海道第28号

(種苗法) 第 号

セールスポイント

「大正金時」並の早生で，葉落ちが良く，粒大が大きく，収量性がやや優る金時類品種である。

来歴 本品種は，早生で多収，大粒良質の金時類品種の育成を目標とし，1992年に北海道立十勝農業試験場において「十育B62号(福勝)」を母，「十系B203号」を父として人工交配を行い，以後選抜と固定を図り育成した。1997年より「十系B262号」，1998年からは「十育B67号」の系統名で各種の試験を行い，2002年に優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。



注) *1：十育及び十系番号についてアルファベットについてBが金時類、Eが白金時類であることを示す。

*2：5823-C-B-4(F6)は蔓性白金時類の十勝農試育成中間母本である。

特性概要

1. 伸育性と草型は有限わい性である。草丈は「大正金時」と同等で「福勝」よりやや低く，主茎節数は少である。
2. 胚軸色は淡赤紫で，花色は淡赤紫，若莢色は緑，斑紋は無である。
3. 子実は楕円体，大きさは大，種皮色は赤紫で斑紋は無く，環色は無である。
4. 開花期は「大正金時」と同じ早であり，成熟期は「福勝」の早に対し，「大正金時」と同じかなり早である。
5. 耐倒伏性は中，葉落ちの良否はやや良で，インゲン黄化病抵抗性は「大正金時」と同じ弱，インゲン炭そ

病抵抗性はRace 7 に対し無，Race38に対し有，Race 81に対し有で，いずれも「大正金時」，「福勝」と同じである。

6. 加工適性は総じて「大正金時」と同等である。

栽培適地と奨励態度

全道のいんげんまめ作付け地帯で「大正金時」の一部に置き換えて栽培する。栽培上の注意は次のとおりである。①大粒であるので，脱穀時の回転数を調節し損傷粒の発生を防ぐ。②極端な多肥栽培では成熟期における葉落ちが不良になることがある。③インゲン黄化病抵抗性が弱なので適切な防除に努める。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	葉 落 良 否	草 丈 (cm)	莢 数 (/株)	10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
								子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	福良金時	7.12	8.31	1.3	2.1	41	17.4	281	107	80.7	3下	1998~2001
	大正金時	7.11	8.31	0.8	3.9	41	17.1	263	100	70.7	3下	
	福 勝	7.12	9. 4	1.2	2.3	45	16.5	301	114	83.9	3中	
北見農試	福良金時	7.16	9. 6	1.9	1.9	43	16.3	282	104	80.8	3中	1998~2001
	大正金時	7.15	9. 6	1.6	3.0	41	16.5	272	100	73.1	3下	
	福 勝	7.16	9.12	2.0	2.4	45	15.2	288	106	84.3	3中	
上川農試	福良金時	7. 6	8.17	2.9	1.7	47	16.9	247	104	68.9	2中	1998,2000, 2001
	大正金時	7. 5	8.18	2.9	2.8	46	17.2	237	100	62.0	2下	
	福 勝	7. 6	8.21	2.8	3.3	47	16.3	279	118	75.5	2下	
遺伝資源 センター	福良金時	7. 4	8.15	1.3	1.3	33	16.9	217	106	69.0	2中	1998~2001
	大正金時	7. 4	8.17	1.1	2.6	33	16.7	204	100	62.0	2下	
	福 勝	7. 5	8.19	1.1	3.1	36	14.7	248	122	73.1	2中	

注1)倒伏程度：0(無)~4(甚)，葉落良否：1(良)~5(不良)。

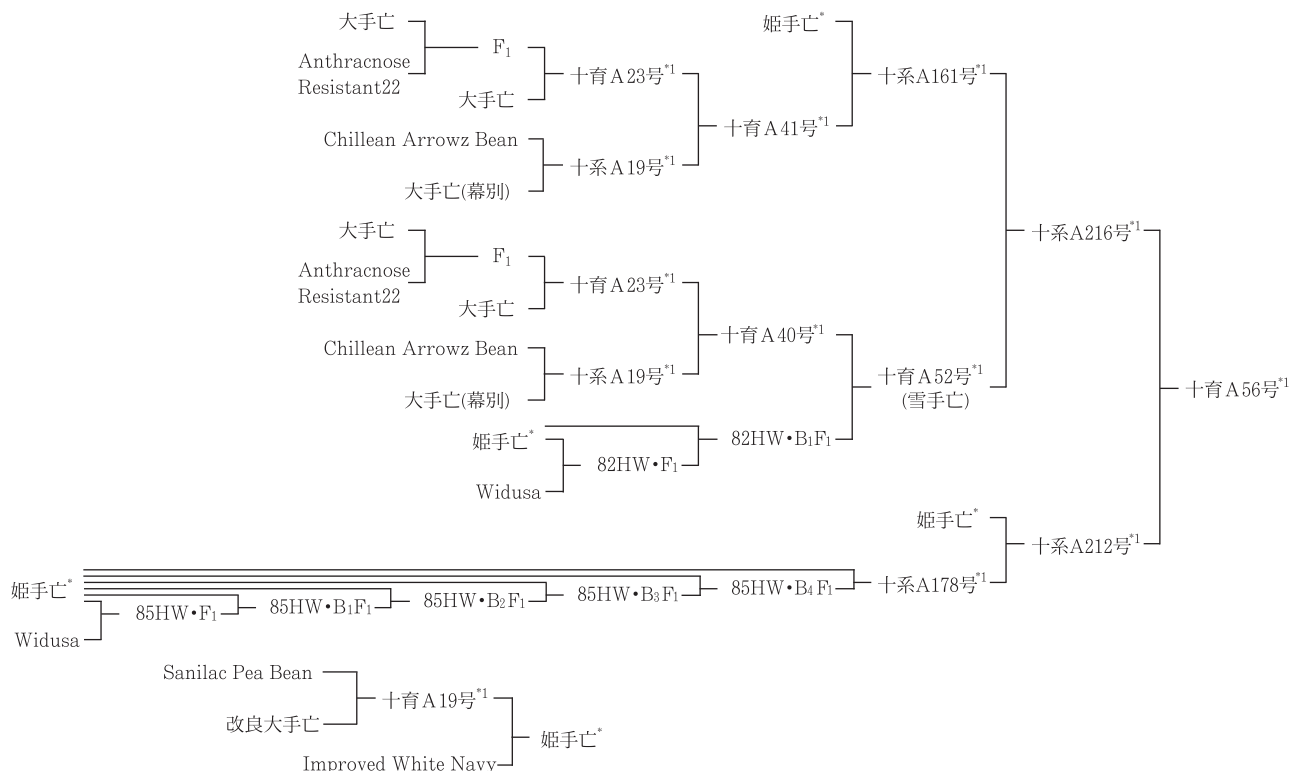
参照 1) 北海道農政部編，平成14年普及奨励ならびに指導参考事項，4-6 (2002)。

(3) (系統名 十育A56号) 2004年
登録番号：(北海道) 菜豆北海道29号
(種苗法) 第 号

セールスポイント

あん色が白く明るい色調で，粒あん加工適性に優れ，
インゲン炭そ病抵抗性の手亡類品種である。

来歴 本品種は，炭そ病抵抗性で加工適性に優れた良質
の手亡類品種の育成を目標とし，1995年に北海道立十勝
農業試験場において，「十系A216号」を母，「十系A212
号」を父として人工交配を行い，以後選抜と固定を図り
育成した。2000年からは「十系A283号」，2001年からは
「十育A56号」の系統名で各種の試験を行い，2004年に
優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。



注) *1：十育及び十系番号についたアルファベットについてAが手亡類であることを示す。

特性概要

1. 伸育性と草型は有限そう性であり、草丈は「姫手亡」及び「雪手亡」よりやや低いが、両品種と同じ高に属する。
2. 胚軸色は緑で、花色は白、若莢の地色は淡緑、若莢の斑紋は「姫手亡」と同じ赤紫のぼかし斑である。
3. 子実は楕円体、大きさは「姫手亡」「雪手亡」の小に対し、より大きくやや小に属する。種皮色は白で、斑紋と環色はいずれもなしである。
4. 開花期は「姫手亡」と同じ中であるが1日程度早く、成熟期は「姫手亡」より1日遅く、「雪手亡」より1日早く、両品種と同じやや晩に属する。収量性は「姫手亡」よりやや低収であり、とくに極端な低温条件下では減収率が大きい。
5. 耐倒伏性はやや弱、インゲン炭そ病抵抗性はRace 7, 38, 81の3レースに対し抵抗性を有する。インゲ

ン黄化病抵抗性は「姫手亡」「雪手亡」と同じやや強である。

6. 加工適性は、水漬後の未吸水粒率がかなり低く、「姫手亡」よりも低い。「姫手亡」「雪手亡」よりもあん粒子径は小さく、あん付着性は高い。

栽培適地と奨励態度

北海道のいんげんまめ作付け地帯で、道東の特に冷涼な地帯を除く地帯において、「姫手亡」の一部に置き換えて栽培する。栽培上の注意は次のとおりである。①極端な低温条件下では減収率が大きいので、特に気象条件の厳しい地帯での栽培は避けるのが望ましい。②極端な多肥栽培では倒伏を助長し、成熟期における葉落ちが不良になることがある。③インゲン炭そ病防除の茎葉散布は不要であるが、他病害には従来の品種と同様に罹病するので防除を行う。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	葉 落 良 否	草 丈 (cm)	莢 数 (/株)	10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
								子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	十育A56号	7.26	9.29	2.8	2.2	54	35.2	362	93	40.6	3上	2001～2003
	姫手亡	7.25	9.28	2.7	2.0	58	33.9	389	100	32.6	3上	
	雪手亡	7.26	9.30	2.2	1.9	66	33.3	402	103	34.1	2中	
北見農試	十育A56号	7.24	9.27	3.2	3.4	59	35.3	361	90	40.7	2上	2001～2003
	姫手亡	7.23	9.24	3.3	2.5	62	36.0	401	100	33.4	2上	
	雪手亡	7.25	9.25	3.3	2.2	64	39.0	434	108	34.0	2上	
上川農試	十育A56号	7.13	9.1	3.4	3.0	64	30.8	334	92	38.0	2下	2001～2003
	姫手亡	7.13	9.1	3.3	3.5	68	31.8	362	100	31.9	2下	
	雪手亡	7.13	9.3	2.9	4.2	73	30.2	381	105	33.0	2中	
中央農試	十育A56号	7.31	9.29	2.4	2.4	57	29.0	363	99	40.8	2中	2002～2003
	姫手亡	7.31	9.29	2.4	2.2	58	30.7	368	100	33.2	3上	
	雪手亡	7.31	9.30	2.5	2.9	58	28.5	384	104	35.4	3中	

注1)倒伏程度：0(無)～4(甚)、葉落良否：1(良)～5(不良)。

参照 1) 北海道農政部編、平成16年普及奨励ならびに指導参考事項、43-45 (2004)。

7. 花豆

- (1) ^{しろはなっこ}白花っ娘 (系統名 中育M52号) 2004年
登録番号：(北海道)花豆北海道第2号
(種苗法)第 号

セールスポイント

「大白花」に比べ粒が大きく、外觀品質に優れ、網走地方で、大粒規格の製品収量が大きく上回る白花豆品種である。

来歴 本品種は、早生、極大粒高品質の白花豆品種育成を目標に、1991年に北海道立中央農業試験場が農林水産省農業生物資源研究所放射線育種場に依頼し、「大白花」にγ線を照射し、粒大変異を誘導後、選抜と固定を図り育成した。1998年より「中育M52号」の系統名で各種試験を行ない、2004年に優良品種となった。

特性概要

1. 形態的特性は「大白花」に類似しているが、「大白

花」と比べ莢の幅が広く、粒が大きい。開花期は「大白花」と同じであるが、成熟期は若干遅い。

2. 莢数は「大白花」とほぼ同等、一莢内粒数はやや少なく、百粒重は重い。子実重は「大白花」並からやや劣る。
3. 栽培適地である網走地方では、大粒規格の5分上収量（5分の篩目上に残る子実重）は「大白花」を上回る。
4. 煮熟後の子葉および種皮の硬さは「大白花」よりやや柔らかく、甘納豆、煮豆およびコロケの加工適性は「大白花」とほぼ同等である。

栽培適地と奨励態度

網走地方のべにばないんげん栽培地帯で「大白花」の大半に置き換えて栽培する。栽培に当たっては開花盛期の窒素追肥による増収効果が「大白花」同様に高いので、同技術の適用に努める。熟莢率が低いので、適期に根切りを行なうとともに、立毛で十分な乾燥を行う。採種栽培では、他のべにばないんげんと自然交雑を避けるため、十分な隔離栽培に努める。大粒なので、脱穀時の回転数を調節し損傷粒の発生を防ぐ。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	莢数 (/株)	一莢内 粒 数	子実重 (kg/10a)	同左比 (%)	5分 上率 (%)	5分上 収 量 (kg/10a)	同左比 (%)	百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次 (年)
中央農試	中育M52号	7.11	10.02	24.8	1.99	274	98	41	111	271	191	4上	1998~2001
	大 白 花	7.11	10.01	26.3	2.40	281	100	15	41	100	160	4上	
北見農試	中育M52号	7.14	(42)	51.1	2.89	328	96	21	68	234	176	2下	2002~2003
	大 白 花	7.13	(44)	53.3	3.26	340	100	8	29	100	164	3上	

注1)成熟期における()は収穫時における熟莢率を示す。

2)5分上重率：子実重全体の中で5分の篩目上(篩目15.2mm)に残る子実重の比率(%)。

3)5分上収量：5分の篩目上に残る子実重。

参照 1)北海道農政部編，平成16年普及奨励ならびに指導参考事項，46-48(2004)。

8. ばれいしょ

(1) アーリースターチ(系統名 北海72号)1996年

登録番号：(北海道)ばれいしょ北海道第30号

(農水省)ばれいしょ農林37号

(種苗法)第7892号

セールスポイント

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持ち、大粒で粒揃いが良いため、掘り残しが少なく、早掘りに適するでん粉原料用品種である。

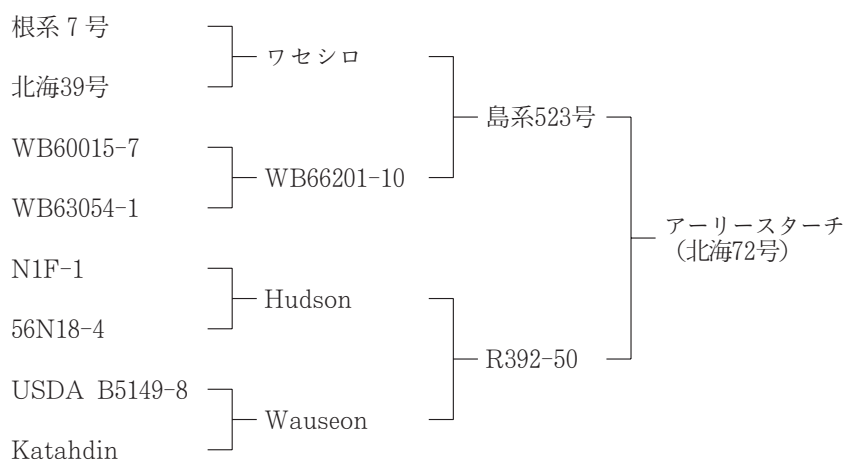
来歴 本品種は大粒でん粉原料用のジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種育成を目標として、1979年に農林水産省北海道農業試験場において、「島系523号」を母、「R392-50」を父として、交配した組合せから選抜したもので、1988年より「島系550号」、1991年からは「北海72号」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. そう性は中間型で、茎長は「コナフブキ」より短い

中、茎の太さは中、茎色は緑色で、分枝数は「コナフブキ」と同等の中である。葉色は緑色、小葉は大きく、毛茸が少なく光沢がある。花色は濃い赤紫色で、白色が両面先に分布する。花の数は多く、花粉は少なく、自然結果は認められない。

2. 塊茎は扁球形で揃いが良く、大粒で、皮色は白黄色、目の深さは中で、尻もやや深い。肉色は白色である。
3. 初期生育は中であるが、いもの早期肥大性はやや早く、特に一個重の増加が早い。枯凋期は「コナフブキ」よりやや早い中晩生で、塊茎の休眠期間はやや長い。
4. 9月上旬の早掘り収穫におけるでん粉収量は「コナフブキ」をやや下回るものの「紅丸」を上回る。普通掘りでは、上いも収量は「コナフブキ」並で、株当り上いも数は少ないが、上いも平均一個重は極めて重く、粒揃いが良い。でん粉価は「コナフブキ」よりやや低い。でん粉収量は「紅丸」「コナフブキ」にやや劣る。
5. でん粉粒子の大きさ、灰分及びリン含量はほぼ「コナフブキ」並である。
6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、疫病菌による塊茎腐敗抵抗性は中、そうか病には弱、粉状そ



うか病及び青枯病にはやや弱い。褐色心腐の発生は「コナフブキ」より多く「紅丸」並かやや少ない中、中心空洞は微発生。

栽培適地と奨励態度

北海道のでん粉原料用ばれいしょ生産地帯に適する。栽培上の注意は、早期収穫向けでん粉原料用なので、初期生育の促進を図り、疎植栽培は避ける。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当り 上いも 数(個)	上いも 平均 一個重 (g)	10 a 当り				でん粉 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収 量 (kg)	同左比 (%)	でん粉 収 量 (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	アーリースターチ	5.31	(9.15)	55	8.0	146	3,968	77	733	96	19.5	124	1988～1995
	紅 丸	5.30	(9.25)	71	14.8	104	5,176	100	763	100	15.7	100	
	コナフブキ	5.31	(9.24)	68	9.0	130	3,839	74	789	103	21.6	138	
中央農試	アーリースターチ	5.29	9.17	47	10.4	91	3,952	79	723	98	19.4	122	1991～1993
	紅 丸	5.28	9.28	54	14.4	83	4,973	100	736	100	15.9	100	
	コナフブキ	5.30	9.23	62	12.8	80	4,280	86	864	117	21.3	134	
上川農試	アーリースターチ	5.31	(9.29)	55	11.1	106	3,860	82	840	102	22.8	123	1991～1993
	紅 丸	5.29	(10.2)	54	15.1	95	4,707	100	826	100	18.5	100	
	コナフブキ	6. 2	9.30	61	11.9	94	3,564	76	866	105	25.2	136	
十勝農試	アーリースターチ	5.28	9.17	72	10.6	96	4,409	88	838	104	20.0	118	1991～1993
	紅 丸	5.25	9.25	84	12.8	90	5,017	100	802	100	17.0	100	
	コナフブキ	5.30	9.25	82	10.9	92	4,273	85	926	115	22.6	133	
北見農試	アーリースターチ	6. 3	9.18	62	8.3	122	4,077	83	711	105	18.5	125	1991～1993
	紅 丸	6. 3	9.28	84	11.0	105	4,896	100	676	100	14.8	100	
	コナフブキ	6. 5	9.20	78	9.8	99	4,135	84	802	119	20.4	138	
根釧農試	アーリースターチ	6.14	10. 7	54	6.3	148	3,522	81	673	92	20.2	113	1991～1993
	紅 丸	6.13	10.13	67	10.8	105	4,345	100	728	100	17.8	100	
	コナフブキ	6.13	10. 5	61	9.1	104	3,615	83	765	105	22.2	125	

注) 試験成績は標準施肥区、枯凋期欄内 () : 未枯凋を除く平均。

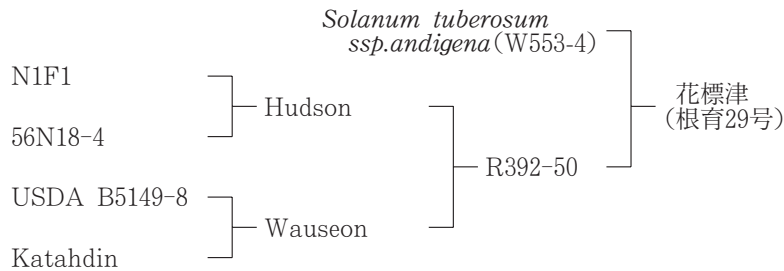
参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 10-12(1996).

(2) 花標津(系統名 根育29号)1997年
 登録番号：(北海道)ばれいしょ北海道第31号
 (農水省)ばれいしょ農林38号
 (種苗法)第8638号

セールスポイント

疫病圃場抵抗性が極めて強く、疫病の無防除栽培が可能なジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持つ生食用品種である。

来歴 本品種はジャガイモシストセンチュウ及び疫病抵抗性を有する食用品種の育成を目標として、1984年に北海道立根釧農業試験場において、近縁種系統 *S.tuberosum* ssp.*andigena* 「W553-4」を母、「R392-50」を父として、交配した組合せから選抜したもので、1993年より「根系81号」、1994年からは「根育29号」の系統名で各種の試験を行い、1997年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. そう性はやや開張型で、茎長はやや長く、茎は太く、茎色は緑色に赤紫色の斑紋があり、分枝数は中である。葉色は淡緑色、小葉の大きさは中である。花色は「男爵薯」より濃い赤紫色で、花の数は多く、花は大きい。花粉量はやや多いが、自然結果は稀である。
2. ふく枝はかなり長い、いも着生の深浅は浅い。塊茎は扁球形で、皮色は淡赤色、目に赤色が分布し、目は「男爵薯」並に深い。肉色は淡黄色である。
3. 初期生育は「男爵薯」並のやや速であるが、いもの早期肥大性はやや遅く、枯凋期は「農林1号」並の中晩生で、塊茎の休眠期間はやや短い。
4. 上いも収量は多く、中以上いも収量は中程度である。上いも及び中いも数は多く、上いも平均一個重は軽い。いもの粒揃いは中で、でん粉価は「男爵薯」並に低い。
5. 調理後の肉質は中で「男爵薯」より粉質度が低く、舌ざわりは滑らかである。調理後黒変は「男爵薯」よ

- り多く、煮崩れ程度はやや少なく、食味は中である。
6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、疫病圃場抵抗性は極強く、疫病無防除栽培でも収量や、でん粉価、ビタミンCなどの品質低下はほとんどみられない。疫病菌による塊茎腐敗抵抗性はやや強、Yモザイク病抵抗性は弱、青枯病抵抗性は極弱、そうか病及び粉状そうか病抵抗性は弱である。褐色心腐及び中心空洞の発生はなく、二次生長は「男爵薯」よりやや多い。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は、塊茎形成及び肥大が遅いので、浴光催芽、早植えなど初期生育の確保に努める。疫病の無防除と組み合わせる他の薬剤の使用も控える場合には、土壌病害や軟腐病、菌核病の発生が多い圃場での栽培を避ける。収穫後は、赤皮で緑化いもとの識別が難しいので、遮光シートで覆うなど曝光を避ける。休眠期間が短いので、低温貯蔵に努める。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当り 上いも 数(個)	上いも 平均 一個重 (g)	10 a 当り				でん粉 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収量 (kg)	同左比 (%)	中以上 いも 収量 (kg)	同左比 (%)			
根釧農試	花 標 津	6.14	10. 9*	73	13.4	80	4,021	120	3,146	114	15.7	106	1989, 1993~1996
	男 爵 薯	6.15	9.18	45	9.9	86	3,341	100	2,770	100	14.8	100	
	農 林 1 号	6.13	10. 9*	68	8.9	118	4,019	120	3,765	136	17.7	120	
中央農試	花 標 津	5.25	10. 2*	71	14.5	72	4,455	131	3,149	115	13.4	89	1994~1996
	男 爵 薯	5.26	8.21	39	9.0	86	3,390	100	2,731	100	15.0	100	
	農 林 1 号	5.25	9.27*	54	9.4	98	4,088	121	3,630	133	14.8	99	
上川農試	花 標 津	5.30	10. 6*	83	21.6	70	5,118	(152)	3,840	(131)	13.1	(98)	1994~1996
	男 爵 薯	5.30	9. 3	45	(10.8)	(96)	(3,373)	(100)	(2,926)	(100)	(13.4)	(100)	
	農 林 1 号	5.29	10. 6*	67	13.9	100	4,837	(143)	4,379	(150)	13.0	(97)	

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当たり 上いも 数(個)	上いも 平均 一個重 (g)	10 a 当り				で ん 粉 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収 量 (kg)	同左比 (%)	中以上 も 収 量 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	花 標 津	5.30	9.27	91	14.2	72	4,454	124	3,065	104	14.3	97	1993～1996
	男 爵 薯	5.31	9. 6	48	9.6	84	3,578	100	2,954	100	14.8	100	
	農 林 1 号	5.29	9.30	81	9.3	104	4,312	121	3,933	133	16.0	108	
北見農試	花 標 津	6. 3	9.30	89	15.6	78	5,583	134	4,289	115	14.5	101	1994～1996
	男 爵 薯	6. 5	9. 4	57	8.8	105	4,156	100	3,741	100	14.2	100	
	農 林 1 号	6. 3	10. 1	82	8.8	119	4,790	115	4,498	120	16.3	115	
北 海 道 農 試	花 標 津	6. 4	9.30*	99	13.9	90	4,207	108	3,591	103	14.2	94	1994～1996
	男 爵 薯	6. 3	9. 6	53	12.4	95	3,918	100	3,485	100	15.1	100	
	農 林 1 号	6. 2	9.27*	79	10.7	110	4,019	103	3,771	108	16.6	110	

注) 試験成績は標準施肥区, 枯凋期欄内*: 霜による枯凋, ()内は塊茎腐敗激発による参考値。

参照 1) 北海道農政部編, 平成9年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-3(1997).

2) 千田圭一 等, 北海道立農試集報, 74,1-17(1998).

(3) スタークイーン(系統名 根育31号)1999年

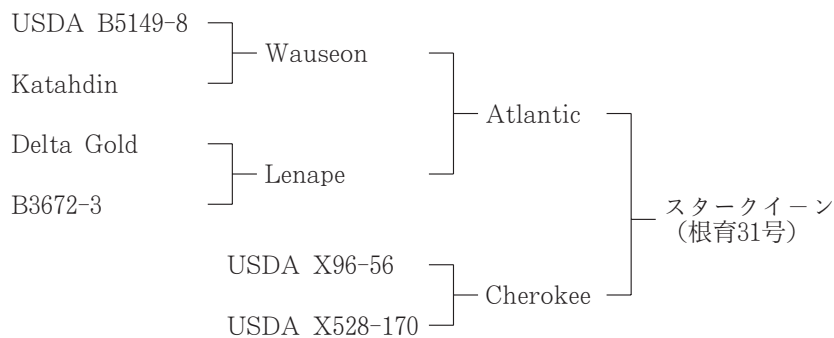
登録番号: (北海道)ばれいしょ北海道第32号

(農水省)ばれいしょ農林40号

(種苗法)第10617号

セールスポイント

そうか病抵抗性が既存品種より強く, ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持つ生食用品種である。



特性概要

1. そう性は中間型で, 茎長は「男爵薯」より長い中, 茎色は緑色に赤紫色の斑紋があり, 分枝数は中である。葉色は緑色で, 小葉の大きさは中, 健全株にウイルス病によるモザイク症状に似た退緑斑紋が現れることがある。花色は極淡い赤紫色で, 白色が両面先に分布する。花の数, 大きさは中で, 花粉量は少なく, 自然結果は稀である。
2. 塊茎は扁球形, 皮色は白黄で, 表皮はやや粗い。目はやや浅く, 肉色は黄白色である。
3. 初期生育は中, 早期肥大性はやや速いが, 枯凋期は「農林1号」よりやや早い中生で, 塊茎の休眠期間はやや短い。
4. 上いも及び中以上のいも収量は「男爵薯」より多い中で, 枯凋期に相応する収量性がある。上いも数はやや少ないが, 上いも平均一個重は「男爵薯」より重い中で, いもの粒揃いはやや良い。でん粉価はやや低い。
5. 調理後の肉質はやや粉質, 舌ざわりは「男爵薯」並である。調理後黒変は少なく, 煮崩れ程度はやや多く, 食味は「男爵薯」並の中の上で, サラダやコロケに適する。
6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し, そうか病抵抗性は「男爵薯」より明らかに強く「アトランチック」よりやや強いやや強である。そうか病の低密度汚染圃場であれば, 病いも率, 発病度とも「男爵薯」の半分程度に抑えることができる。Yモザイク病抵抗性,

疫病圃場抵抗性及び疫病菌による塊茎腐敗抵抗性は弱、亀の甲病には「男爵薯」より弱い。粉状そうか病抵抗性はやや強い。褐色心腐及び中心空洞の発生は微で、二次生長は「男爵薯」より多い。

栽培適地と奨励態度

北海道一円（そうか病発生地帯）に適する。栽培上の注意は、そうか病の病いも率15%以下を目標とした場合、

「男爵薯」の病いも率が30%以下の圃場に栽培する。健全株にウイルス病によるモザイク症状に似た退緑斑紋が発生することがあるので、原採種栽培では抜き取りに当り注意する。二次生長が発生しやすいので、培土、収穫時期などに注意する。亀の甲病や亀の甲病類似症状が発生することがある。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当り 上いも 数(個)	上いも 平均 一個重 (g)	10 a 当り				で ん 粉 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収 量 (kg)	同左比 (%)	中以上 いも 収 量 (kg)	同左比 (%)			
根釧農試	スタークイーン	6.14	10. 3	62	8.9	107	3,669	109	3,314	117	17.0	114	1993～1997
	男 爵 薯	6.15	9.17	45	10.4	84	3,362	100	2,827	100	14.9	100	
	農 林 1 号	6.14	10. 9*	67	8.7	120	4,008	119	3,780	134	17.7	119	
中央農試	スタークイーン	5.24	9.17	58	9.7	102	4,365	119	3,859	131	15.8	103	1995～1998
	男 爵 薯	5.24	8.23	38	10.0	84	3,654	100	2,945	100	15.4	100	
	農 林 1 号	5.24	9.20	61	10.4	104	4,774	131	4,301	146	16.4	106	
上川農試	スタークイーン	5.27	10. 1*	71	16.1	93	5,289	114	4,374	104	14.8	101	1996～1998
	男 爵 薯	5.29	9.10	46	11.6	110	4,642	100	4,226	100	14.6	100	
	農 林 1 号	5.28	10. 3*	73	12.8	127	6,056	130	5,718	135	16.3	112	
十勝農試	スタークイーン	5.29	9.21	76	9.3	105	4,335	116	3,905	127	15.8	107	1994～1998
	男 爵 薯	5.31	9. 3	54	10.1	83	3,726	100	3,076	100	14.8	100	
	農 林 1 号	5.29	9.30*	86	9.6	103	4,392	118	3,998	130	15.6	105	
北見農試	スタークイーン	6. 3	9.26*	83	9.3	133	5,533	123	5,233	128	16.2	113	1994～1998
	男 爵 薯	6. 4	9. 7	58	9.0	110	4,491	100	4,090	100	14.4	100	
	農 林 1 号	5.31	10. 1*	85	8.6	131	5,145	115	4,904	120	16.6	115	
北海道農試	スタークイーン	5.26	9.30	70	10.3	118	5,327	108	4,991	113	16.1	105	1997～1998
	男 爵 薯	5.27	9.12	46	11.7	97	4,950	100	4,432	100	15.4	100	
	農 林 1 号	5.26	10.10*	103	11.2	118	5,827	118	5,552	125	16.4	106	

注) 試験成績は標準施肥区、枯凋期欄内*：霜による枯凋。

参照 1) 北海道農政部編, 平成11年普及奨励ならびに指導参考事項, 10-13(1999).
2) 千田圭一 等, 北海道立農試集報. 78,1-18(2000).

(4) ノースチップ(系統名 P961)1999年

登録番号：(北海道)ばれいしょ北海道(輸)第33号
(種苗法)第10618号

セールスポイント

低温での長期貯蔵後のチップ品質が優れる、油加工食品用品種である。

来歴 本品種は低温下で長期貯蔵が可能な加工食品用(ポテトチップ用)品種の育成を目標として、1988年にホクレン農業協同組合連合会農業総合研究所において、「ホッカイコガネ」を母、「ND860-2」を父として、交配した組合せから選抜したもので、1996年から各種の試験を行い、1999年に優良品種となった。なお、本品種の

系譜は次のとおりである。

特性概要

1. そう性は中間型で、茎長は「トヨシロ」並、茎の太さは中で、分枝は少ない。茎色は緑色で赤紫色の斑紋があり、葉色は緑色、小葉の大きさは中である。花色は赤紫色で白色が両面先に分布する。花の大きさ、数はともに中、花粉量は中で、自然結果は少程度認められる。
2. 塊茎は球形で目は浅く、目数は中で、外観は良い。皮色は黄褐で表皮はやや粗く、肉色は白色である。
3. 初期生育は「トヨシロ」並で、いもの肥大は「トヨシロ」より遅いが、枯凋期はほぼ「トヨシロ」並の中早生である。



4. 上いも収量は「トヨシロ」並で、中以上いも収量はやや劣る場合が多い。上いも数が多く、上いも平均一個重は軽い。粒揃いが良く、大きいもの着生は少ない。でん粉価はほぼ「トヨシロ」並である。
5. 調理後の肉質は中、煮崩れ程度は少で、舌ざわりはやや滑らかである。調理後黒変は微で、剥皮褐変は少なく、食味は「トヨシロ」並の中である。ポテトチップカラー（アグトロン値）は収穫時から高く、低温貯蔵（6℃）中のチップカラーの低下がかなり少なく、低温下での長期貯蔵が可能である。
6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性はない。疫病圃

場抵抗性は弱で、疫病菌による塊茎腐敗抵抗性はやや強、そうか病抵抗性は弱である。PVY-Tに対しては接種当代では無病徴。褐色心腐、中心空洞及び二次生長の発生は「トヨシロ」より少ない。

栽培適地と奨励態度

北海道一円（ただし、ジャガイモシストセンチュウ汚染地域は除く）に適する。栽培上の注意は、収量を確保するために、生育の後半まで塊茎の肥大期間を確保するように努め、センチュウ汚染地域での栽培を避ける。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当り 上いも 数(個)	上いも 平均 一個重 (g)	10 a 当り				で ん 粉 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収 量 (kg)	同左比 (%)	中以上 いも 収 量 (kg)	同左比 (%)			
中央農試	ノースチップ	5.26	9.6	53	13.5	70	4,192	102	3,091	88	15.7	96	1996～1998
	トヨシロ	5.29	9.6	54	10.0	93	4,105	100	3,511	100	16.4	100	
上川農試	ノースチップ	5.28	9.20	60	15.4	101	5,624	117	5,034	114	15.8	96	1996～1998
	トヨシロ	5.29	9.10	59	11.8	113	4,815	100	4,410	100	16.5	100	
十勝農試	ノースチップ	6.2	9.10	74	12.7	75	4,179	97	3,300	84	16.1	99	1996～1998
	トヨシロ	6.3	9.9	75	9.0	112	4,328	100	3,929	100	16.2	100	
北見農試	ノースチップ	6.7	9.16	76	10.1	95	4,392	83	3,889	78	15.3	96	1996～1998
	トヨシロ	6.11	9.19	83	9.2	128	5,318	100	4,997	100	16.0	100	
根釧農試	ノースチップ	6.18	9.27	52	12.2	80	3,752	92	3,086	79	19.0	110	1996～1997
	トヨシロ	6.20	10.1	54	7.6	145	4,100	100	3,911	100	17.2	100	
北海道農試	ノースチップ	5.28	9.18	68	11.9	110	5,654	103	5,175	98	16.3	103	1997～1998
	トヨシロ	5.27	9.15	67	9.5	135	5,495	100	5,266	100	15.9	100	

注) 試験成績は標準施肥区。

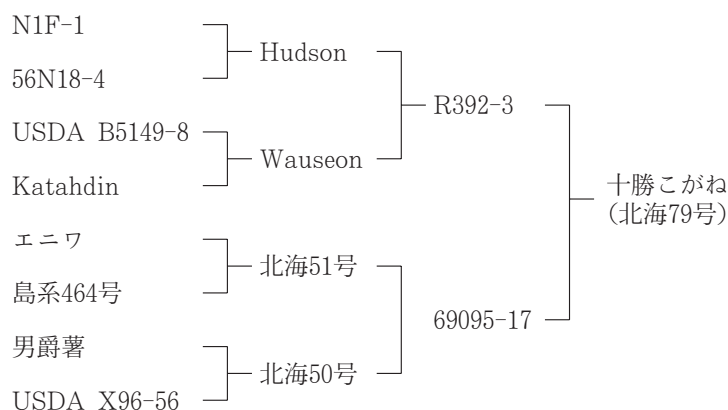
参照 1) 北海道農政部編, 平成11年普及奨励ならびに指導参考事項, 14-16(1999).

- (5) 十勝こがね(系統名 北海79号)2000年
登録番号：(北海道)ばれいしょ北海道第35号
(農水省)ばれいしょ農林41号
(種苗法)第8549号

セールスポイント

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持ち、貯蔵性が良く、調理適性に優れた生食用品種である。

来歴 本品種はジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有する早生、大粒で調理適性の優れた生食用品種の育成を目標として、1986年に農林水産省北海道農業試験場において、「R392-3」を母、「69095-17」を父として、交配した組合せから選抜したもので、1992年より「島系566号」、1994年からは「北海79号」の系統名で各種の試験を行い、2000年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. そう性はやや直立し、茎長は短く、茎の太さはある。茎色は緑色で分枝は少ない。葉色は淡緑色、小葉の大きさは中である。花色は白色で、花の数は少なく、花粉量は多く、自然結果は中程度認められる。
2. 塊茎は楕円形、皮色は白黄色で、表皮の粗滑は中で、目は極浅く、肉色は淡黄色である。
3. 初期生育は遅く、いもの早期肥大性は「農林1号」並の中であるが、枯凋期は「男爵薯」並の早生で、塊茎の休眠期間は極長く、貯蔵性が良い。
4. 上いも収量はやや少なく、中以上いも収量はほぼ「男爵薯」並である。上いも数は少なく、上いも平均一個重は重く、いもの粒揃いは良い。でん粉価は「農林1号」並の中である。
5. 剥皮歩留りが高く、トリミング数は少ない。剥皮褐変も少ない。調理後の肉質はやや粉質で、調理後黒変はなく、煮崩れ程度は「男爵薯」並かやや少ない中で、食味は「男爵薯」より良い上である。一次加工適性に優れ高い業務向け適性を持ち、さらに休眠が長いので貯蔵後の品質劣化が少なく、長期間の供給が可能である。チップ・フライの褐変程度は微で、フライ調理適

性も高い。

6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、疫病圃場抵抗性は弱く、疫病菌による塊茎腐敗抵抗性は極弱である。Yモザイク病抵抗性、そうか病及び粉状そうか病抵抗性は弱く、青枯病抵抗性は弱であるが「男爵薯」よりやや強い。褐色心腐及び二次生長はなく、中心空洞は2L以上の規格で「男爵薯」並に発生する。打撲耐性は「農林1号」より強く「男爵薯」並である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は、休眠期間が長いので通常の種いも貯蔵では萌芽及び初期生育が遅れ易いので、1)休眠期間を短くするために、収穫後D型ハウスなどで仮貯蔵し、凍結の恐れが生じる10月中旬頃までに本貯蔵とする。2)休眠明けを早めるために、3月上旬から10℃以上20℃を上限として貯蔵温度を高くし、また早めの種いも切断を行うことが必要である。また、疫病による塊茎腐敗が発生しやすいので、予察情報などを活用し、適正な防除に努める。2L規格以上のいもでは中心空洞が発生することがあるので、茎数の確保に努め、疎植・多肥を避けることも必要である。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当り 上いも 数(個)	上いも 平均 一個重 (g)	10 a 当り				でん粉 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収量 (kg)	同左比 (%)	中以上 いも 収量 (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	十勝こがね	5.27	8.30	49	6.8	130	3,920	88	3,735	98	15.7	105	1998~1999
	男爵薯	5.24	9.7	46	11.2	92	4,459	100	3,805	100	15.0	100	
中央農試	十勝こがね	6.1	8.27	40	6.1	109	2,938	88	2,689	94	16.9	114	1998~1999
	男爵薯	5.29	8.29	39	8.1	95	3,347	100	2,846	100	14.8	100	
上川農試	十勝こがね	5.31	8.27	52	8.7	116	4,482	102	4,186	106	14.9	107	1998~1999
	男爵薯	5.29	8.28	41	9.6	103	4,384	100	3,948	100	13.9	100	
十勝農試	十勝こがね	6.1	8.27	52	6.8	112	3,349	101	3,175	115	15.6	106	1998~1999
	男爵薯	5.30	8.26	42	9.6	79	3,333	100	2,763	100	14.7	100	
北見農試	十勝こがね	6.7	9.7	48	8.6	115	4,419	104	4,113	110	16.7	108	1998~1999
	男爵薯	6.2	9.4	48	10.0	94	4,251	100	3,747	100	15.4	100	

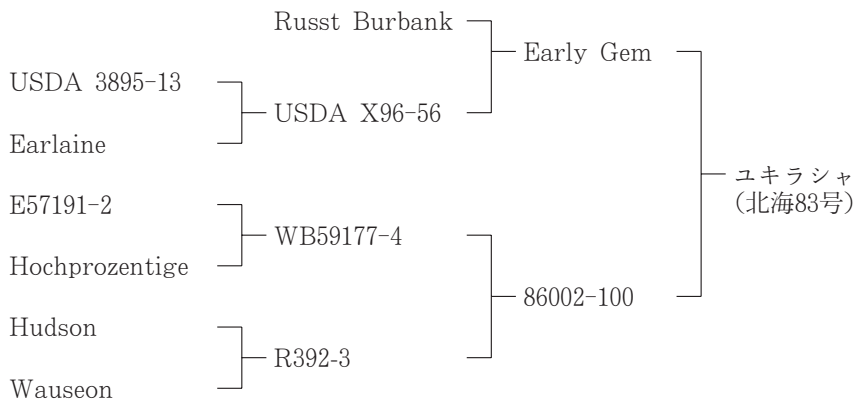
注) 試験成績は標準施肥区、種いも加温処理平均。

参照 1) 北海道農政部編, 平成12年普及奨励ならびに指導参考事項, 16-18(2000).

(6) ユキラシャ(系統名 北海83号)2000年
 登録番号：(北海道)ばれいしょ北海道第36号
 (農水省)ばれいしょ農林42号
 (種苗法)第11097号

セールスポイント

そうか病抵抗性が強く、貯蔵性が良く、調理適性に優れる生食用品種である。



特性概要

1. そう性は中間型で、茎長はやや短く、茎は太く、茎色は緑色で、分枝数は少ない。葉色は淡緑色、小葉は大きい。花色は白色で、花数は中、花粉量は少なく、自然結果は稀である。
2. 塊茎は楕円形、皮色は褐色で表皮は粗く、ラセット皮を有する。目はやや極浅、肉色は白色である。
3. 初期生育は遅く、いもの早期肥大性は中、枯凋期は中早生で、塊茎の休眠期間は極長である。
4. 上いも収量、中以上いも収量は「男爵薯」並の少である。上いも数は中、上いも平均一個重は軽く、粒揃いはやや良い。でん粉価は中である。
5. 剥皮特性に優れ、剥皮褐変も少なく、カットやプレピール等の業務向け一次加工に適する。調理後の肉質はやや粉質で、煮崩れ程度は大きく、調理後黒変は微、食味は中である。
6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性はない。疫病圃場抵抗性はやや弱、疫病菌による塊茎腐敗抵抗性はや

来歴 本品種はジャガイモシストセンチュウ及びそうか病抵抗性を有する、生食用品種の育成を目標として、1991年に農林水産省北海道農業試験場において、「Early Gem」を母、*S.tuberosum ssp. andigena*, *S.demissum*, *S.stoloniferum*, *S.commersonii*に由来する種間雑種系統「86002-100」を父として、交配した組合せから選抜したもので、1996年より「島系582号」、1997年からは「北海83号」の系統名で各種の試験を行い、2000年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

や強、Yモザイク病抵抗性は弱である。そうか病抵抗性は強で、「スタークイーン」より強い。粉状そうか病抵抗性は強である。褐色心腐及び中心空洞の発生は微、二次生長はない。いもの裂開は微、打撲耐性は「農林1号」並のやや弱である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円（そうか病発生地帯）に適する。栽培上の注意は、休眠期間が長いので通常の種いも貯蔵では萌芽及び初期生育が遅れ易いので、1)休眠期間を短くするために、収穫後D型ハウスなどで仮貯蔵し、凍結の恐れが生じる10月中旬頃までに本貯蔵とする。2)休眠明けを早めるために、3月上旬から10℃以上20℃を上限として貯蔵温度を高くし、また早めの種いも切断を行うことが必要である。また、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有していないので、汚染地域では栽培しないとともに、いもが裂開することがあるので、過剰な施肥など急激な肥大を促す栽培管理を行わない。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当り 上いも 数(個)	上いも 平均 一個重 (g)	10 a 当り				でん粉 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収量 (kg)	同左比 (%)	中以上 いも 収量 (kg)	同左比 (%)			
北海道農試	ユキラシャ	5.27	9.10	64	11.9	90	4,714	106	4,120	108	15.6	104	1998~1999
	男爵薯	5.24	9.7	46	11.2	92	4,459	100	3,805	100	15.0	100	
中央農試	ユキラシャ	6.1	9.3	50	9.6	79	3,249	97	2,564	90	17.3	114	1998~1999
	男爵薯	5.29	8.29	39	8.1	95	3,347	100	2,846	100	14.8	100	

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当り 上いも 数(個)	上いも 平均 一個重 (g)	10 a 当り				でん粉 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収 量 (kg)	同左比 (%)	中以上 収 量 (kg)	同左比 (%)			
上川農試	ユ キ ラ シ ャ	6. 2	8.30	59	10.6	85	3,924	90	3,286	83	15.6	112	1998～1999
	男 爵 薯	5.29	8.28	41	9.6	103	4,384	100	3,948	100	13.9	100	
十勝農試	ユ キ ラ シ ャ	6. 1	9. 1	59	10.2	72	3,266	98	2,537	92	16.1	110	1998～1999
	男 爵 薯	5.30	8.26	42	9.6	79	3,333	100	2,763	100	14.7	100	
北見農試	ユ キ ラ シ ャ	6. 7	9.10	60	9.1	98	3,963	93	3,415	91	17.0	110	1998～1999
	男 爵 薯	6. 2	9. 4	48	10.0	94	4,251	100	3,747	100	15.4	100	

注) 試験成績は標準施肥区，種いも加温処理平均。

参照 1) 北海道農政部編，平成12年普及奨励ならびに指導参考事項，19-21(2000)。

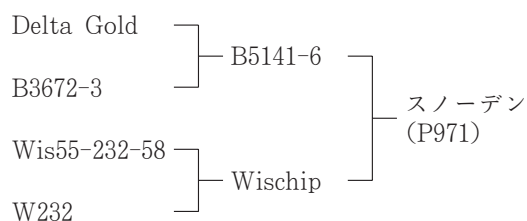
(7) スノーデン(系統名 P971)2000年

登録番号：(北海道)ばれいしょ北海道(輸)第34号

セールスポイント

9℃長期貯蔵でのポテトチップ加工適性に優れ，収穫翌年の6月まで利用可能な油加工食品用品種である。

来歴 本品種は米国ウイコンシン大学において，「B5141-6」を母，「Wischip」を父として交配し，以降選抜を加え，「Snowden」の名で公開されたものをカルビーポテト株式会社が導入し，1997年から各種の試験を行い，2000年に優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. そう性は中間型で，茎長は「トヨシロ」より長く，茎色は緑色で赤紫色の斑紋がある。葉色は淡緑色で，小葉の大きさはやや小さい。花色は白色で，花粉はなく，自然結果は認められない。
2. ふく枝は長く，いもの着生位置も深い。塊茎は球形で，目は浅い。皮色は褐色で，表皮は粗く，肉色は白色である。
3. 枯凋期は「トヨシロ」より晩い中晩生で，塊茎の休眠期間は「トヨシロ」と同様に長い。
4. 上いも収量は「トヨシロ」よりやや少なく，中以上いも収量は同等である。上いも数はやや多く，上いも平均一個重はやや軽い，極大粒がほとんどないので，ポテトチップの生産工程での選別や極大粒いもの半裁処理等の省力化が可能である。でん粉価は「トヨシロ」より低い。
5. 調理後の肉質は中である。チップ・フライの褐変程度は「トヨシロ」と同じ微で，収穫後のグルコース含量は「トヨシロ」に比べ低く推移し，収穫時のチップカラーは「トヨシロ」とほぼ同等で，収穫後9℃で貯

蔵し，無加温で4～6月に加工した場合「トヨシロ」よりチップカラーは高く，ポテトチップ加工適性は「トヨシロ」より優れる。

6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性はない。疫病圃場抵抗性は「トヨシロ」と同程度の中で，疫病菌による塊茎腐敗抵抗性は強い。そうか病抵抗性は「トヨシロ」より強く「アトランチック」並の中である。Yモザイク病抵抗性は弱である。褐色心腐及び中心空洞の発生はなく，二次生長は「トヨシロ」と同様に微程度発生する。

栽培適地と奨励態度

北海道一円（ただしジャガイモシストセンチュウ汚染地域は除く）に適する。栽培上の注意は，収量，でん粉価の向上を図るため，早植え，浴光催芽などの基本技術を励行し，完熟塊茎の安定生産に努める。ふく枝が長く，緑化塊茎が発生し易いので，十分な培土を行い，塊茎着生位置が深いので，ハーベスタの掘り取り深度に注意する。多肥栽培は避け，やや疎植にする。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当たり 上いも 数(個)	上いも 平均 一個重 (g)	10 a 当り				で ん 粉 備 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収 量 (kg)	同左比 (%)	中以上 も 収 量 (kg)	同左比 (%)			
中央農試	ス ノ ー デ ン	5.28	9.28	68	11.8	79	4,034	107	3,256	99	13.8	85	1997～1999
	ト ヨ シ ロ	5.29	9. 6	51	8.7	102	3,769	100	3,275	100	16.3	100	
上川農試	ス ノ ー デ ン	5.29	10. 3	71	12.7	92	4,674	103	4,182	100	13.6	82	1997～1999
	ト ヨ シ ロ	5.30	9. 8	58	9.9	115	4,533	100	4,192	100	16.6	100	
十勝農試	ス ノ ー デ ン	5.30	9.21	81	11.8	82	4,169	96	3,422	85	14.4	87	1997～1999
	ト ヨ シ ロ	6. 2	9. 7	64	8.4	118	4,355	100	4,026	100	16.4	100	
北見農試	ス ノ ー デ ン	6. 4	10. 1	89	11.4	92	4,728	88	4,059	88	16.0	95	1997～1999
	ト ヨ シ ロ	6. 8	9.16	78	9.6	125	5,348	100	4,632	100	16.8	100	
根釧農試	ス ノ ー デ ン	6.17	10. 2	63	9.4	98	3,537	87	3,105	79	17.3	100	1997
	ト ヨ シ ロ	6.20	10. 3	53	6.8	155	4,058	100	3,933	100	17.3	100	
北海道農試	ス ノ ー デ ン	5.27	10. 8	88	9.5	130	5,318	99	5,120	101	14.6	91	1997～1999
	ト ヨ シ ロ	5.26	9.14	68	9.6	129	5,351	100	5,083	100	16.0	100	

注) 試験成績は標準施肥区。

参照 1) 北海道農政部編, 平成12年普及奨励ならびに指導参考事項, 22-24(2000).

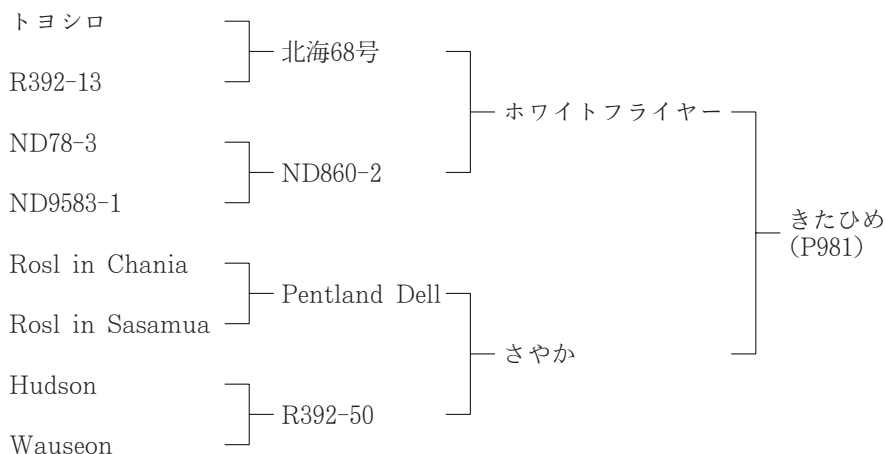
(8) きたひめ(系統名 P982)2001年

登録番号:(北海道)ばれいしょ北海道(輸)第37号
(種苗法)第 号

セールスポイント

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持ち, 6℃長期低温貯蔵でのポテトチップ加工適性に優れる油加工食品用品種である。

来歴 本品種は低温下で長期貯蔵が可能な加工食品用(ポテトチップ用)品種の育成を目標として, ホクレン農業協同組合連合会農業総合研究所と農林水産省北海道農業試験場との共同研究により育成された品種で, 1991年に農林水産省北海道農業試験場において「ホワイトフライヤー」を母, 「さやか」を父として交配した組合せから, 翌年以降ホクレンにおいて選抜したもので, 1998年から各種の試験を行い, 2001年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. そう性はやや開張型で, 茎長は「トヨシロ」並, 茎はやや細く, 茎色は緑色で, 分枝数は中である。葉色は緑色, 小葉の大きさはやや小さい。花色は白色で花裏に紫の着色があり, 花の数は中, 花粉量は中, 自然結果は中程度認められる。
2. 塊茎は球形で, 皮色は黄白色, 表皮はやや滑らかで,

目の数はやや多く, 深さはやや浅く, 肉色は白色である。

3. 枯凋期は「トヨシロ」より晩く「農林1号」より早い中生で, 塊茎の休眠期間はやや短い。
4. 上いも及び中以上いも収量は「トヨシロ」並ないしやや多い中である。上いも数, 上いも平均一個重はほぼ「トヨシロ」並の中, でん粉価は「トヨシロ」並

いしやや低い中である。

5. チップ・フライの褐変程度は微で「トヨシロ」並ないしやや優り、「農林1号」より優る。1月～5月にかけて6℃の低温貯蔵後、無加温で加工した場合のチップカラーは「トヨシロ」及び「農林1号」より優り、「ノースチップ」並に優れる。
6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、疫病圃場抵抗性、Yモザイク病及びそうか病抵抗性は弱、疫

病菌による塊茎腐敗抵抗性は中である。褐色心腐、中心空洞及び二次生長の発生はいずれもほぼ「トヨシロ」並の微である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は、大いもに中心空洞が発生することがあるので、多肥や疎植を避ける。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当たり 上いも 数(個)	上いも 平均 一個重 (g)	10 a 当り				で ん 粉 同左比 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収 量 (kg)	同左比 (%)	中以上 収 量 (kg)	同左比 (%)			
中央農試	き た ひ め	5.29	9. 8	55	9.1	105	4,249	120	3,834	123	14.8	91	1998～2000
	ト ヨ シ ロ	5.30	9. 1	52	7.8	108	3,545	100	3,108	100	16.2	100	
	農 林 1 号	5.28	9.19	64	9.5	105	4,418	125	3,943	127	15.3	94	
上川農試	き た ひ め	5.28	9. 9	63	11.2	100	4,862	108	4,319	109	14.5	99	1998～2000
	ト ヨ シ ロ	5.28	9. 5	59	10.6	98	4,513	100	3,975	100	14.7	100	
	農 林 1 号	5.27	9.24	80	12.7	98	5,486	122	4,907	123	14.4	98	
十勝農試	き た ひ め	5.29	9.11	62	8.8	102	3,921	97	3,625	100	15.7	99	1998～2000
	ト ヨ シ ロ	5.30	9. 4	60	9.0	102	4,029	100	3,620	100	15.9	100	
	農 林 1 号	5.27	9.17	74	9.3	100	4,114	102	3,784	105	15.2	96	
北見農試	き た ひ め	5.31	9.22	61	9.3	107	4,611	95	4,215	94	16.3	96	1998～2000
	ト ヨ シ ロ	6. 5	9.13	62	9.5	113	4,855	100	4,466	100	16.9	100	
	農 林 1 号	5.30	9.28	65	9.5	118	5,098	105	4,828	108	17.6	104	
北海道農試	き た ひ め	5.25	9.20	70	8.8	123	4,702	97	4,516	101	16.0	99	1998～2000
	ト ヨ シ ロ	5.25	9.10	64	10.4	106	4,860	100	4,463	100	16.1	100	
	農 林 1 号	5.24	10.10	83	10.7	113	5,374	111	5,035	113	16.2	101	

注) 試験成績は標準施肥区。

参照 1) 北海道農政部編, 平成13年普及奨励ならびに指導参考事項, 19-21(2001).

(9) ナツフブキ(系統名 北育5号)2003年

登録番号:(北海道)ばれいしょ北海道第38号
(農水省)ばれいしょ農林47号
(種苗法)第 号

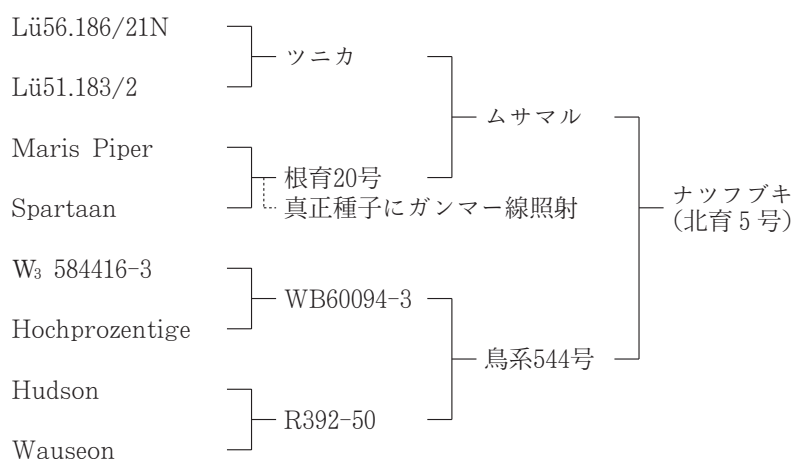
セールスポイント

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持ち、早掘りに適するでん粉原料用品種である。

来歴 本品種はジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有する高でん粉価のでん粉原料用品種の育成を目標として、1992年北海道立根釧農業試験場において、「ムサマル」を母、「島系544号」を父として、交配した組合せから選抜し、1999年より「北系5号」、2000年からは「北育5号」の系統名で各種の試験を行い、2003年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. そう性はやや開張型で、茎長は「コナフブキ」並の長、茎の太さは「コナフブキ」並の中、茎色は緑色に赤紫色の斑紋があり、分枝数はやや少ない。葉色は緑色で、小葉の大きさは中である。花色は赤紫色で白色が両面先に分布する。花の数は中、花の大きさは小さく、花粉量は多く、自然結果は少程度認められる。
2. 塊茎は球形で、目の深淺は中で、皮色は黄褐色で、肉色は白い。
3. 初期生育、早期肥大性ともやや速く、枯凋期は「コナフブキ」より1週間程度早い中生で、塊茎の休眠期間は中である。
4. 上いも重は中、上いも数はやや多、上いも平均一個重は中、でん粉価は高く、でん粉重は多い。
5. でん粉粒子の大きさ、リン含量、離水率はほぼ「コナフブキ」並であり、糊化開始温度、最高粘度及び最高粘度時温度も「コナフブキ」並である。



6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、疫病圃場抵抗性及びYモザイク病抵抗性は弱、疫病菌による塊茎腐敗抵抗性は中、そうか病抵抗性は弱、粉状そうか病抵抗性は中である。褐色心腐の発生は多く、中心空洞、二次生長は微発生である。

栽培適地と奨励態度

北海道のでん粉原料用ばれいしょ栽培地帯（主としてジャガイモシストセンチュウ発生地帯）に適する。栽培上の注意は、9月下旬以降の収穫では「コナフブキ」よりでん粉重がやや少ないので、作付計画に留意する。褐色心腐の発生が「紅丸」並に多いので、培土などの栽培管理に留意する。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当り 上いも 数(個)	上いも 平均 一個重 (g)	10 a 当り				でん粉 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収 量 (kg)	同左比 (%)	でん粉 収 量 (kg)	同左比 (%)			
北見農試	ナツフブキ	5.31	9.27	77	9.6	107	4,689	97	1,011	97	22.6	100	1998～2002
	コナフブキ	5.31	10.4	75	10.0	107	4,844	100	1,044	100	22.6	100	
中央農試	ナツフブキ	5.27	9.10	71	12.0	85	4,473	103	854	100	20.1	97	2000～2002
	コナフブキ	5.27	9.18	75	11.9	82	4,363	100	857	100	20.7	100	
上川農試	ナツフブキ	5.24	9.11	84	13.9	80	4,747	94	879	90	19.4	96	2000～2002
	コナフブキ	5.23	9.23	73	12.9	90	5,028	100	975	100	20.3	100	
十勝農試*	ナツフブキ	5.28	9.19	83	11.3	79	3,907	93	726	90	19.6	97	2000～2002
	コナフブキ	5.28	9.23	86	11.9	81	4,195	100	807	100	20.3	100	
北農研 センター	ナツフブキ	5.25	9.21	67	11.2	100	4,749	102	984	98	21.8	97	2000～2002
	コナフブキ	5.25	9.30	69	10.3	107	4,657	100	1,001	100	22.5	100	

注) 試験成績は標準施肥区, * : 2001年を除く平均。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 10-12(2003).
2) 池谷 聡 等, 北海道立農試集報. 87, 9-20(2004).

(10) ひかる (系統名 F001)2003年

登録番号:(北海道)ばれいしょ北海道(輸)第39号
(種苗法)第 号

セールスポイント

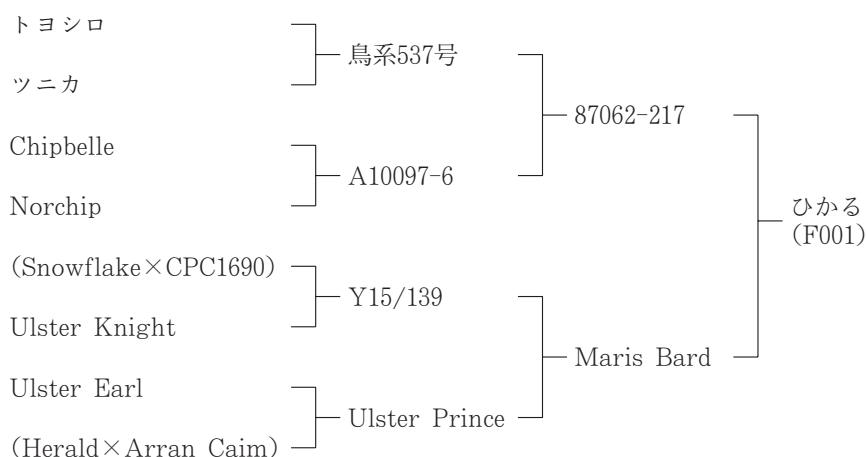
ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持ち、目が浅く、大粒・多収でポテトサラダ適性に優れた生食用品種である。

来歴 本品種はポテトサラダ適性に優れた生食用品種の

育成を目標として、1993年にホクレン農業協同組合連合会農業総合研究所において、「87062-217」を母、「Maris Bard」を父として、交配した組合せから選抜したもので、2000年より「F001」の系統名で各種の試験を行い、2003年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. そう性は直立型で、茎長は「男爵薯」よりも長い中、茎の太さは中で、茎色は緑色に赤紫色の斑紋があり、



分枝数は中である。葉色は緑色、小葉の大きさは中である。花色は紫色で、花の数は稀で、花粉及び自然結果はない。

2. 塊茎は扁球形で、皮色は黄褐色、表皮の粗滑はやや粗く、目の数は中で、深さは浅い。肉色は淡黄色である。
3. 初期生育は中で、枯凋期は「農林1号」並の中晩生、塊茎の休眠期間はやや長い。
4. 上いも重は極多く、上いも数は少なく、上いも平均一個重は極重く、いもの粒揃いはやや整である。でん粉価は中である。
5. 調理後の肉質はやや粉、煮崩れ程度は中で、調理後黒変は「男爵薯」より少ない。ポテトサラダの官能評価では、「男爵薯」と比べて製造直後ではほぼ同等で、製造後30日前後では優り、サラダ用の主力品種の「トヨシロ」と比べると明らかに優り、ポテトサラダ製造

時の歩留りは「さやか」並に高い。

6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、疫病圃場抵抗性及びYモザイク病抵抗性は弱、疫病菌による塊茎腐敗抵抗性は極弱で、そうか病抵抗性はやや弱である。中心空洞は「男爵薯」並の微であるが、年次・場所により発生が多いことがある。褐色心腐は微、二次生長は少発生する。

栽培適地と奨励態度

北海道の生食用ばれいしょ栽培地帯に適する。栽培上の注意は、塊茎腐敗が発生することがあるので、排水不良な圃場での栽培は避ける。疫病に弱いので、予察情報などを活用し、適正な防除に努める。中心空洞の発生することがあるので、多肥や疎植を避け、培土や収穫時期に留意する。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当り 上いも 数(個)	上いも 平均 一個重 (g)	10 a 当り				でん粉 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収 量 (kg)	同左比 (%)	中以上 いも 収 量 (kg)	同左比 (%)			
中央農試	ひ か る	5.26	9.14	71	12.3	101	5,294	121	4,571	131	14.8	106	2000~2002
	男 爵 薯	5.24	8.20	37	13.2	76	4,391	100	3,476	100	14.0	100	
	農 林 1 号	5.25	9.19	70	10.7	96	4,614	105	4,086	118	15.0	107	
上川農試	ひ か る	5.23	9.15	71	12.3	105	5,615	122	4,978	135	14.0	103	2000~2002
	男 爵 薯	5.22	8.20	40	13.3	79	4,607	100	3,686	100	13.6	100	
	農 林 1 号	5.22	9.17	69	13.3	93	5,380	117	4,649	126	14.4	106	
十勝農試	ひ か る	5.29	9.20	79	9.5	130	5,239	135	4,936	152	16.0	113	2000~2002
	男 爵 薯	5.27	8.29	39	11.6	75	3,883	100	3,237	100	14.5	100	
	農 林 1 号	5.25	9.24	76	10.4	105	4,860	125	4,549	141	15.4	108	
北見農試	ひ か る	5.30	9.30	63	9.1	133	5,579	143	5,259	160	16.9	104	2000~2002
	男 爵 薯	5.27	9. 2	32	10.1	84	3,905	100	3,285	100	16.3	100	
	農 林 1 号	5.26	10. 3	62	9.5	122	5,282	135	5,057	154	18.8	115	
北 海 道 農 試	ひ か る	5.29	9.27	78	8.8	136	5,313	129	5,088	160	15.8	96	2000
	男 爵 薯	5.26	9. 3	36	14.0	67	4,128	100	3,175	100	16.4	100	
	農 林 1 号	5.27	10. 1	76	10.4	106	4,858	118	4,429	139	16.0	98	

注) 試験成績は標準施肥区。

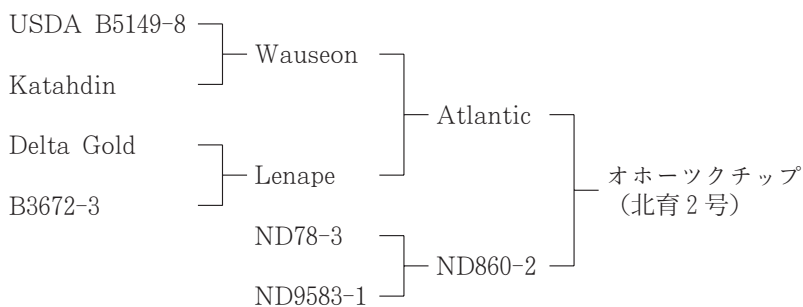
参照 1) 北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 13-15(2003).

(11) オホーツクチップ(系統名 北育2号)2004年
 登録番号：(北海道)ばれいしょ北海道第40号
 (農水省)ばれいしょ農林52号
 (種苗法)第 号

セールスポイント

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性及びそうか病に中程度の抵抗性を持つ、早生でポテトチップ加工適性に優れる油加工食品用品種である。

来歴 本品種はジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有する早生でポテトチップ適性の優れる加工食品用品種の育成を目標として、1991年北海道立根釧農業試験場において、「アトランチック」を母、「ND860-2」を父として、交配した組合せから選抜し、1998年より「根系105号」、1999年からは「北育2号」の系統名で各種の試験を行い、2004年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. そう性はやや開張型で、茎長はやや短く、茎の太さは「ワセシロ」並の中、茎色は緑色で、分枝数は少ない。葉色は淡緑色で、小葉の大きさは中である。花色は白色で、花の数、花の大きさは中、花粉量は中程度で、自然結果は稀である。
2. 塊茎は球形で、目は浅く、皮色は褐色で、肉色は白い。
3. 初期生育はやや速く、早期肥大性はやや遅く、枯凋期は「ワセシロ」よりやや遅い早生で、塊茎の休眠期間はやや短い。
4. 上いも重は「ワセシロ」並の中、中以上いも重はやや少なく、上いも数はやや多く、上いも平均一個重は「ワセシロ」より軽い。でん粉価は中である。
5. 早掘り及び収穫直後のチップ・フライの褐変程度は

無でチップカラーは「トヨシロ」、「ワセシロ」に優り、翌年1月までのチップカラーも「トヨシロ」並ないし優れる。

6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、疫病圃場抵抗性及びYモザイク病抵抗性は弱、疫病菌による塊茎腐敗抵抗性はやや強く、そうか病抵抗性は中、粉状そうか病抵抗性はやや弱である。褐色心腐、中心空洞及び二次生長はいずれもは微発生である。

栽培適地と奨励態度

北海道の加工用ばれいしょ栽培地帯に適する。栽培上の注意は、肥大性がやや遅く小粒であることから、生育促進に努める。倒伏し易い傾向にあるので、過繁茂や軟弱な地上部生育にならないよう施肥量に留意する。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当り 上いも 数(個)	上いも 平均 一個重 (g)	10 a 当り				でん粉 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収量 (kg)	同左比 (%)	中以上 いも 収量 (kg)	同左比 (%)			
北見農試	オホーツクチップ	5.28	9. 6	47	10.2	88	4,147	98	3,636	93	17.6	101	1999～2003
	トヨシロ	6. 3	9. 9	51	9.1	110	4,245	100	3,923	100	17.5	100	
	ワセシロ	5.30	9. 3	52	8.2	116	4,292	101	4,055	106	16.7	95	
中央農試	オホーツクチップ	5.26	8.28	48	12.1	84	4,373	105	3,581	99	15.2	96	1999～2002
	トヨシロ	5.29	9. 1	54	9.3	106	4,151	100	3,608	100	15.9	100	
	ワセシロ	5.28	8.26	54	9.7	107	4,508	109	4,050	112	14.8	94	
上川農試	オホーツクチップ	5.25	8.28	55	13.7	79	4,714	103	3,719	94	14.1	97	1999～2002
	トヨシロ	5.26	9. 1	55	11.5	91	4,567	100	3,936	100	14.6	100	
十勝農試	オホーツクチップ	5.26	8.29	48	10.3	82	3,745	89	3,153	84	15.4	96	1999～2002
	トヨシロ	5.29	9. 5	55	9.9	97	4,191	100	3,740	100	16.0	100	
	ワセシロ	5.29	8.27	59	8.7	106	4,097	98	3,837	103	14.6	91	

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当り 上いも 数(個)	上いも 平均 一個重 (g)	10 a 当り				で ん 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収 量 (kg)	同左比 (%)	中以上 いも 収 量 (kg)	同左比 (%)			
北 農 研 センター	オホーツクチップ ト ヨ シ ロ	5.24	9.10	47	11.6	90	4,573	95	3,979	90	16.4	97	1999～2002
		5.25	9.13	60	9.8	112	4,806	100	4,436	100	16.9	100	

注) 試験成績は標準施肥区。

参照 1) 北海道農政部編, 平成16年普及奨励ならびに指導参考事項, 49-51(2004).

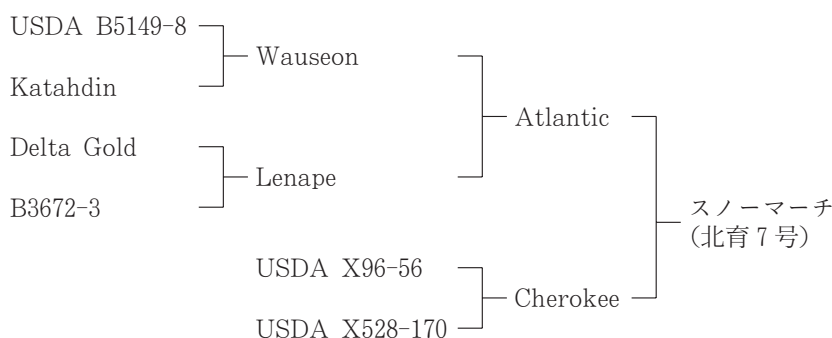
(12) スノーマーチ(系統名 北育7号)2004年

登録番号：(北海道)ばれいしょ北海道第41号
(農水省)ばれいしょ農林51号
(種苗法)第 号

セールスポイント

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性及びそうか病に強い抵抗性を持つ、調理特性の優れた生食用品種である。

来歴 本品種はそうか病抵抗性とジャガイモシストセンチュウ抵抗性を併せ持つ生食用品種の育成を目標として、1993年北海道立根釧農業試験場において、「アトランチック」を母、「Cherokee」を父として、交配した組合せから選抜し、2000年より「北系7号」、2001年からは「北育7号」の系統名で各種の試験を行い、2004年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. そう性は中間型で、茎長はやや短く、茎の太さは中、茎色は緑色で、分枝数は中である。葉色は緑色で、小葉の大きさは大きく、花色は白色で、花の数はやや少なく、花の大きさは中、花粉量は中程度で、自然結果は少程度認められる。
2. 塊茎は倒卵形で、目は浅く、皮色は白黄色で、肉色は白い。
3. 初期生育及び早期肥大性はやや遅く、枯凋期は「男爵薯」より晚い中生で、塊茎の休眠期間はやや短い。
4. 上いも重及び中以上いも重は「男爵薯」より多い中、上いも数は「男爵薯」並の中で、上いも平均一個重は「男爵薯」より重い中である。でん粉価は「男爵薯」より高いやや低である。
5. 剥皮褐変がなく、調理後の肉質はやや粉質で、煮崩

- れ程度は少なく、調理後黒変は微で、食味は中上である。
6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、疫病圃場抵抗性及びYモザイク病抵抗性は弱、疫病菌による塊茎腐敗抵抗性は中、そうか病抵抗性は強、粉状そうか病抵抗性はやや強である。褐色心腐及び二次生長はいずれも微発生で、中心空洞は「男爵薯」並の少発生である。

栽培適地と奨励態度

北海道の生食用ばれいしょ栽培地帯(主としてそうか病発生地帯)に適する。栽培上の注意は、褐色心腐及び中心空洞の発生することがあるので、多肥や疎植を避け、培土に留意する。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当り 上いも 数(個)	上いも 平均重 (g)	10 a 当り				でん 粉 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収 量 (kg)	同左比 (%)	中以上 も 重 収 量 (kg)	同左比 (%)			
北見農試	スノーマーチ	5.28	9.15	43	9.0	98	4,085	122	3,690	125	17.6	105	2001～2003
	男 爵 薯	5.27	8.26	32	8.1	87	3,361	100	2,952	100	16.7	100	
	スタークイーン	5.27	9.23	50	8.1	116	4,357	130	4,095	140	18.0	108	
中央農試	スノーマーチ	5.26	9.9	53	16.0	75	5,373	117	4,199	115	15.5	103	2001～2003
	男 爵 薯	5.24	8.17	39	13.6	76	4,577	100	3,650	100	15.1	100	
	スタークイーン	5.23	9.17	63	14.2	87	5,486	120	4,513	124	15.3	101	
上川農試	スノーマーチ	5.24	9.6	50	13.7	91	5,476	113	4,679	113	15.4	105	2001～2003
	男 爵 薯	5.23	8.24	38	11.8	94	4,828	100	4,137	100	14.6	100	
	スタークイーン	5.22	9.11	56	12.2	108	5,699	118	5,070	123	15.3	105	
十勝農試	スノーマーチ	5.27	9.15	54	10.7	95	4,498	114	4,045	117	16.4	110	2001～2003
	男 爵 薯	5.26	8.26	39	10.4	85	3,929	100	3,456	100	14.9	100	
	スタークイーン	5.27	9.21	63	10.1	108	4,784	121	4,394	127	16.8	113	
北農研 センター	スノーマーチ	5.27	9.23	47	8.6	117	4,392	112	4,140	120	17.2	106	2001～2003
	男 爵 薯	5.24	9.1	35	9.5	95	3,910	100	3,454	100	16.3	100	
	スタークイーン	5.24	9.23	54	10.8	104	4,925	125	4,467	129	17.8	109	

注) 試験成績は標準施肥区。

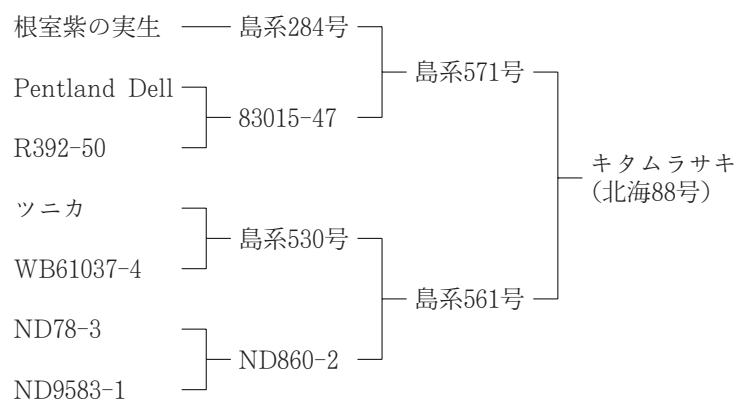
参照 1) 北海道農政部編, 平成16年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-3 (2004).

(13) キタムラサキ(系統名 北海88号)2004年

登録番号:(北海道)ばれいしょ北海道第42号
(農水省)ばれいしょ農林50号
(種苗法)第 号

セールスポイント

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持ち, 肉色が紫色でアントシアニン色素を含有する生食用品種である。



来歴 本品種は肉色が紫でジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持ち, チップ適性にも優れた生食用品種の育成を目標として, 1991年農林水産省北海道農業試験場において, 「島系571号」を母, 「島系561号」を父として, 交配した組合せから選抜したもので, 1995年より「島系578号」, 2000年からは「北海88号」の系統名で各種の試験を行い, 2004年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. そう性はやや直立型で, 茎長はやや長く, 茎は太く, 茎色は紫色に緑色の斑紋があり, 分枝数は少ない。葉色は濃緑色で, 小葉の大きさは小さい。花色は白色で, 花の数, 花の大きさは中, 花粉量は中程度で, 自然結果は稀である。
2. 塊茎は倒卵形で, 目は浅く, 皮色は紫色で, 肉色は

紫色に白色の斑紋がある。

3. 初期生育及び早期肥大性は中, 枯凋期は「男爵薯」より遅い中晩生で, 塊茎の休眠期間は長い。
4. 上いも重及び中以上いも重は「男爵薯」より多い中, 上いも数は「男爵薯」より少ない少で, 上いも平均一個重は「男爵薯」より重い大である。でん粉価は「男爵薯」より高い中である。

5. 調理後の肉色は紫で肉質はやや粘質，煮崩れ程度は少なく，食味は中である。チップ・フライの褐変程度は「男爵薯」並の中である。
6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し，疫病圃場抵抗性は中，Yモザイク病抵抗性は弱，疫病菌による塊茎腐敗抵抗性はやや強，そうか病抵抗性は弱，粉状そうか病抵抗性はやや強である。褐色心腐及び中心空洞の発生はなく，二次生長は「男爵薯」より多い少発生である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。栽培上の注意は，紫皮のため緑化等の見分けが難しいので，十分な培土と培土を崩さない様な管理作業を行い，緑化させないように注意する。休眠期間が比較的長く，頂芽優勢が強いため，頂芽の損傷により，萌芽の不揃いを生じやすい。浴光育芽時には芽を伸ばしすぎないようにし，種いもの切断には注意する。生育後半に葉が巻く症状が出ることもあるが，生理的なものである。

試験場名	品 種 名	萌芽期 (月日)	枯凋期 (月日)	茎 長 (cm)	株当り 上いも 数(個)	上いも 平均 一個重 (g)	10 a 当り				で ん 価 (%)	同左比 (%)	試験年次
							上いも 収 量 (kg)	同左比 (%)	中以上 いも 収 量 (kg)	同左比 (%)			
北 農 研 センター	キタムラサキ 男 爵 薯	5.28	9.29	77	8.5	128	4,799	125	4,549	139	17.3	108	1999～2003
		5.25	9. 6	37	10.1	89	3,846	100	3,282	100	16.0	100	
中央農試	キタムラサキ 男 爵 薯	5.28	9.19	83	13.9	89	5,470	126	4,632	133	16.7	115	2000～2003
		5.25	8.19	38	12.9	78	4,358	100	3,481	100	14.5	100	
上川農試	キタムラサキ 男 爵 薯	5.24	9.18	75	14.2	83	5,174	112	4,233	115	15.9	117	2000～2002
		5.22	8.20	40	13.3	79	4,607	100	3,689	100	13.6	100	
十勝農試	キタムラサキ 男 爵 薯	5.29	9.23	101	9.6	118	4,809	124	4,501	139	15.8	109	2000～2002
		5.27	8.29	39	11.6	75	3,883	100	3,237	100	14.5	100	
北見農試	キタムラサキ 男 爵 薯	5.29	(10.5)	82	9.4	130	5,518	141	5,200	158	17.8	109	2000～2002
		5.27	9. 3	32	10.1	84	3,905	100	3,285	100	16.3	100	

注) 試験成績は標準施肥区，枯凋期欄内()：未枯凋を除く平均。

参照 1) 北海道農政部編，平成16年普及奨励ならびに指導参考事項，52-54(2004)。